

O&O software

O&O ShutUp10++

目次

1 はじめに 4

2 最初の手順 8

2.1 機能比較 8

2.2 O&O ShutUp10 Free Edition 10

2.3 O&O ShutUp10 Premium Edition 20

2.4 システム要件 24

2.5 最初の操作 26

3 機能 31

3.1 AI 機能の削除 31

3.2 プロファイルとエクスポート 36

3.3 編集モード 38

3.4 変更履歴 40

4 Premium の機能 42

4.1 Premium Edition の概要 42

4.2 自動保護 44

4.3 プロファイルエディター 49

5 プライバシー設定 52

5.1 プライバシー設定 52

5.2 テレメトリの制御 63

5.3 位置情報サービス 66

5.4 Windows Update の設定 69

5.5 Cortana と検索 72

5.6 アプリのアクセス許可 75

5.7 エクスプローラーと広告 77

5.8 セキュリティ設定 80

6 設定ダイアログ 83

7 リファレンス 94

7.1 プロファイルのファイル形式 94

7.2 用語集 97

8 トラブルシューティング 99
9 よくある質問 103
10 サポートと O&O の関連製品 127

はじめに

Windows 10 と Windows 11 には、収集するデータ、アプリにアクセスを許可する情報、PC に表示する提案やオンラインサービスに関する設定が数百項目あります。設定場所は複数に分かれており、意味が分かりにくい項目や、Windows の更新で値が元に戻る項目もあります。O&O ShutUp10 を使うと、レジストリを個別に調べなくても、これらの設定をまとめて確認できます。このヘルプの画面例は英語版です。

> **2 つのエディション**
>
> このヘルプは両エディションに対応しています。**Free Edition** は必要なときに起動するポータブル版です。**Premium Edition** はサービスをインストールし、選択した設定を自動的に維持します。Premium Edition 専用の機能には Premium マークが付いています。違いについては機能比較をご覧ください。

O&O ShutUp10 でできること

O&O Software GmbH の **O&O ShutUp10** では、プライバシー、テレメトリ、アプリのアクセス許可、セキュリティに関する設定を一つの画面で確認できます。各項目の推奨レベルと説明を参考に、Windows に何を許可するかを判断し、必要な設定だけを適用できます。

Free Edition と **Premium Edition** で利用できる**約 300 項目のプライバシー設定は共通**です。Free Edition では必要に応じてアプリを起動し、設定を確認して手動で適用します。Premium Edition ではサービスが設定を監視し、Windows の更新などで変更された値を自動的に再適用します。その都度アプリを起動する必要はありません。用途別にプロファイルを作成・編集でき、繰り返し利用したり、エクスポートして別のユーザーや PC に配布したりできます。

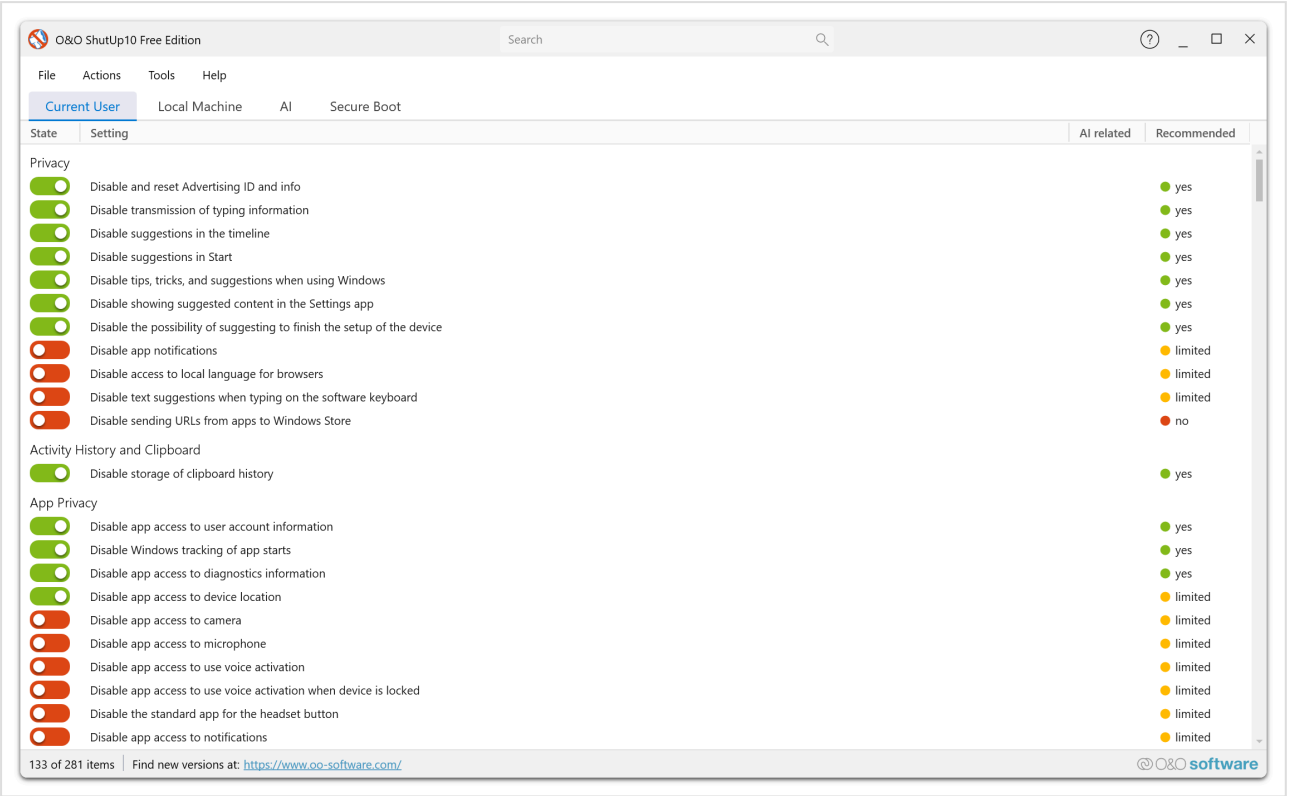
主な機能

- **プライバシー設定の一元管理** — Windows 10 と Windows 11 の約 300 項目を管理できます。
- **インストール不要（Free Edition）** — 実行ファイルから直接起動できます。
- **推奨レベルの表示** — 各設定を変更した場合の影響を判断できます。
- **変更の取り消し** — 変更はセッション単位で記録されます。直前のセッションを取り消すことも、履歴をさかのぼって以前の状態に戻すこともできます。
- **無償で利用可能（Free Edition）** — Free Edition の利用に料金はかかりません。

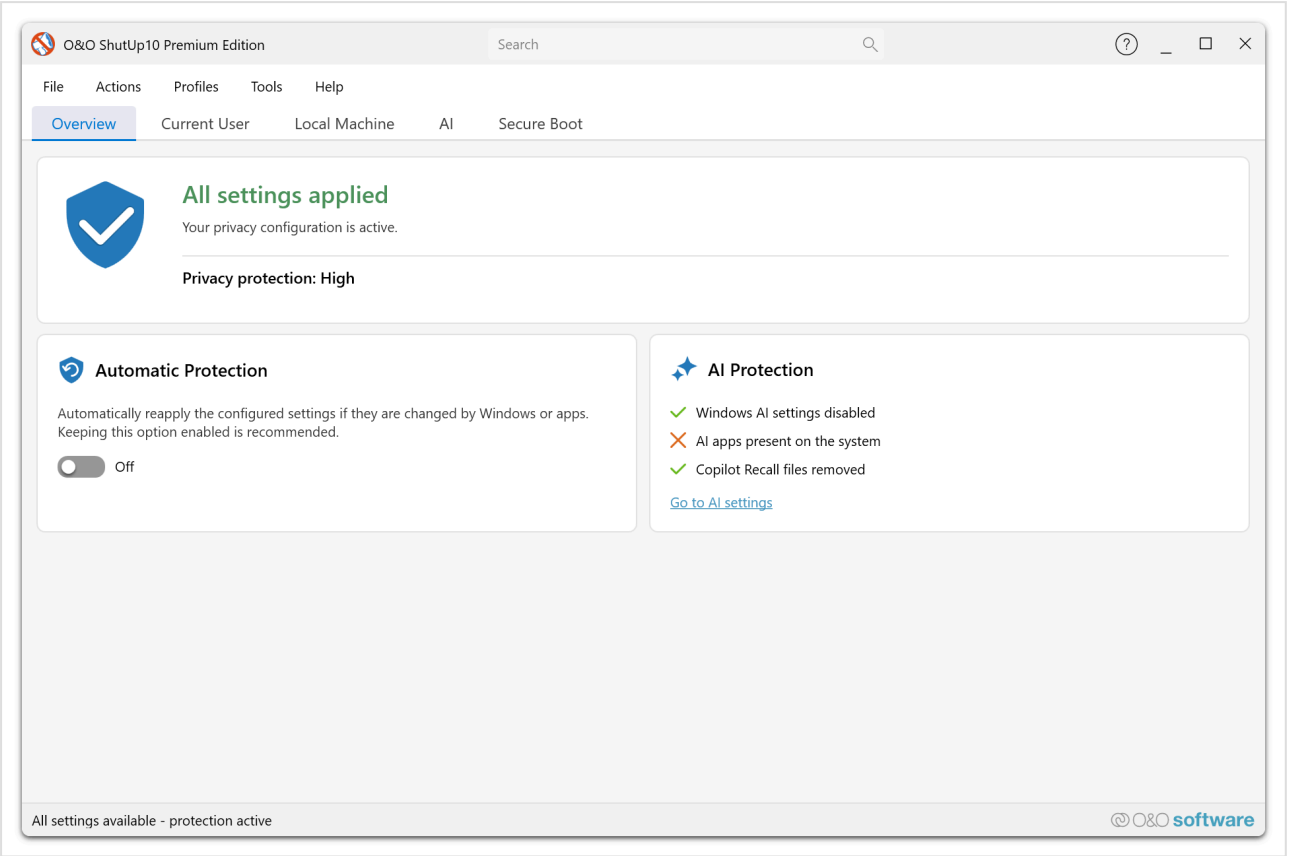
エディション

用途や利用環境に応じて、次の 2 つのエディションから選べます。

Free Edition



Premium Edition



Free Edition

Free Edition は、単体で動作するインストール不要のツールです。個人の PC で Windows のプライバシーを自分で管理したい場合に適しています。約 300 項目の設定と推奨レベルを無償で利用できます。

- ポータブル版のため、セットアップせずに実行ファイルから起動できます。
- Premium Edition と同じ約 300 項目のプライバシー設定を利用できます。
- 変更する項目を画面で選び、手動で適用します。
- ユーザー単位の設定は標準ユーザーで変更できます。PC 全体の設定に昇格が必要な場合は、**管理者として再起動する** を選択できます。
- 家庭の PC、個別のワークステーション、プライバシー設定の監査に適しています。

➡️ Free Edition の詳細

Premium Edition

Premium Edition は企業や業務での利用を想定しています。クライアントとサービスを分離した構成でプライバシーを自動的に保護し、Windows の更新後も指定した設定を維持します。

- **クライアントとサービスの分離** — バックグラウンドで動作するサービスが設定を自動適用します。
- **設定の自動保護** — Windows の更新やポリシーの変更後に、指定した設定を自動的に再適用します。

- **利用者の管理者権限は不要** — 権限が必要な操作はサービスが実行します。
- **プロファイルの再利用** — 用途別に設定をまとめ、エクスポートして別のユーザーや PC でも使用できます。
- 企業、組織で管理されている PC、IT 部門での利用に適しています。

➡️ Premium Edition の詳細

このヘルプの使い方

サイドバーから目的のトピックを選んでください。

- **ご利用にあたって**では、各エディション、システム要件、最初の操作を説明します。
- **機能**と**Premium Edition の機能**では、AI 機能の削除、プロファイル、編集モード、変更履歴、自動保護を説明します。Premium Edition 専用の機能には Premium マークが付いています。
- **プライバシー設定**では、設定の適用範囲、推奨レベル、カテゴリーを説明します。
- 個別の設定は設定ダイアログをご覧ください。**リファレンス**には用語集、トラブルシューティング、よくある質問、サポートと O&O の関連製品があります。

機能比較

Free Edition は必要なときに起動して設定を手動で適用するポータブル版です。Premium Edition では、インストールしたバックグラウンドサービスによる自動保護と、名前付きプロファイルの管理が利用できます。

機能	Free Edition	Premium Edition
プライバシー設定と推奨レベル	利用可	利用可
システムの復元ポイントの作成、記録した変更の取り消し	利用可	利用可
AI 機能の削除、編集モード	利用可	利用可
構成のエクスポートとインポート	設定ファイル（.cfg）	名前付きプロファイル（.pcfg）
名前付きプロファイルの作成・管理（.pcfg）	利用不可	利用可
インストールせずに実行	可	不可
クライアントを昇格せずに PC 全体の設定を変更	不可。管理者として再起動	可。稼働中のサービス経由で変更
バックグラウンドでの自動保護	利用不可	自動保護が有効でサービスが稼働中なら利用可

エディションの選び方

手動で確認・設定する場合は Free Edition が適しています。バックグラウンドで設定を監視・再適用したい場合や、名前付きプロファイルを管理したい場合は Premium Edition をお選びください。インストールやサービスの管理には管理者権限が必要な場合があります。

自動保護には権限、Windows 自体の保護、設定の競合による制限があります。ハイブリッドモードでは、外部から何度も上書きされる項目を保護対象から除外できます。詳しくは自動保護とプロファイルエディターをご覧ください。

グループポリシー

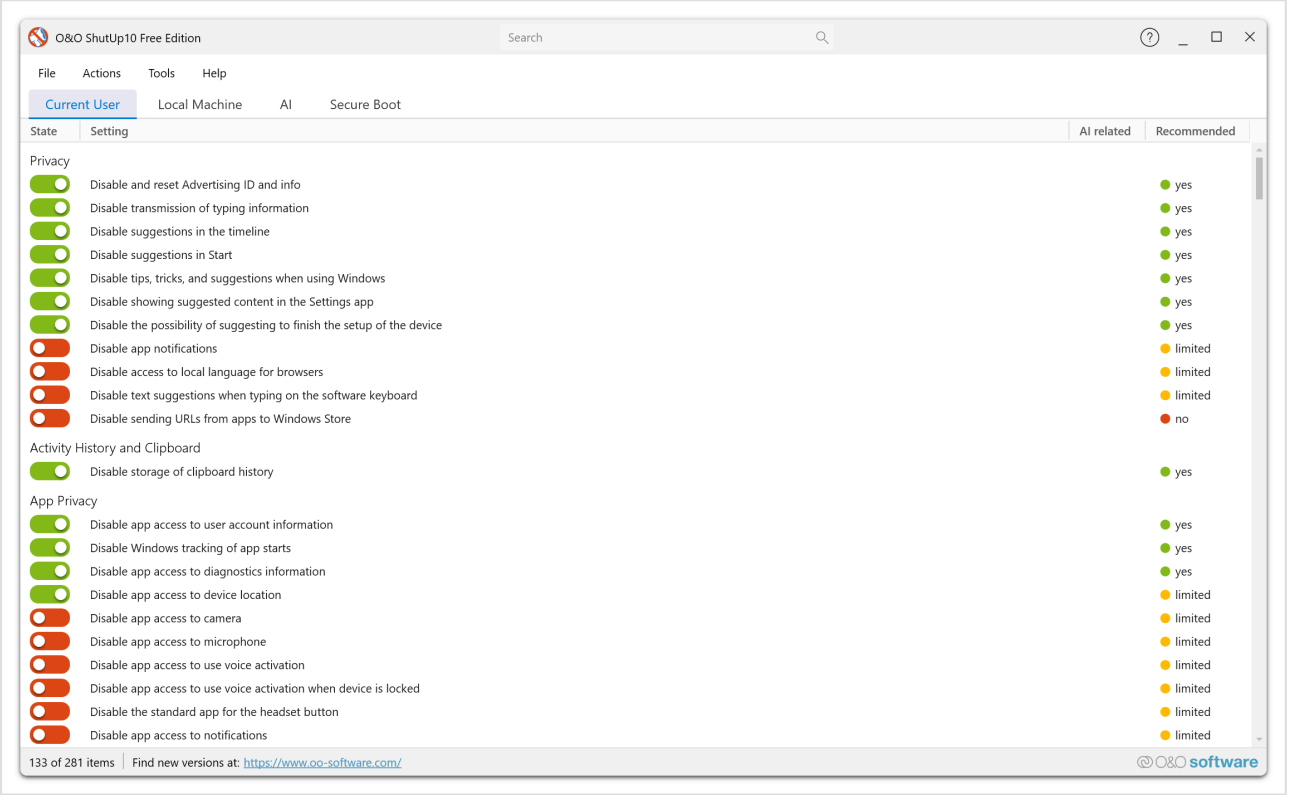
グループポリシーでは、管理用テンプレートだけでなくレジストリの基本設定でも値を指定できます。対応する ADMX テンプレートがなくても、その設定をグループポリシーで管理できる場合があります。Microsoft Learn のグループポリシーの基本設定をご覧ください。

組織のポリシーと O&O ShutUp10 の設定を調整してください。Premium Edition は単独の PC と組織管理下の PC の両方を監視できますが、すべてのポリシーに優先したり、更新後に全設定を復元できたりするわけではあ

りません。ドメインポリシーとの競合が繰り返される場合はハイブリッドモードを使用してください。プロファイルの入出力は構成の再利用に使うもので、複数の PC をリモート管理するコンソールではありません。

O&O ShutUp10 Free Edition

Free Edition は Windows 10 と Windows 11 のプライバシーを管理するポータブルツールです。インストールやサブスクリプションは不要で、レジストリの専門知識がなくても設定を確認・変更できます。



操作の流れ

単体の実行ファイルから起動すると、Windows のプライバシー設定とテレメトリ設定を読み取り、スイッチ付きの一覧に表示します。

1. O&O Software のウェブサイトから実行ファイルを**ダウンロード**します。
2. 実行ファイルを直接**起動**します。インストールは不要です。
3. 各設定の内容と推奨レベルを**確認**します。
4. 希望する状態に合わせてスイッチを**切り替え**ます。
5. 変更を**適用**し、アプリを閉じます。

> **参考**
>
> **PC 全体の設定に必要な権限**：標準ユーザーでも、現在のアカウントで利用できる項目は変更できます。**ローカルマシン** タブへの書き込みには昇格が必要です。変更できない場合はその理由が表示されます。**管理者として再起動する** を選ぶと Windows のユーザーアカウント制御（UAC）の確認画面が開きます。

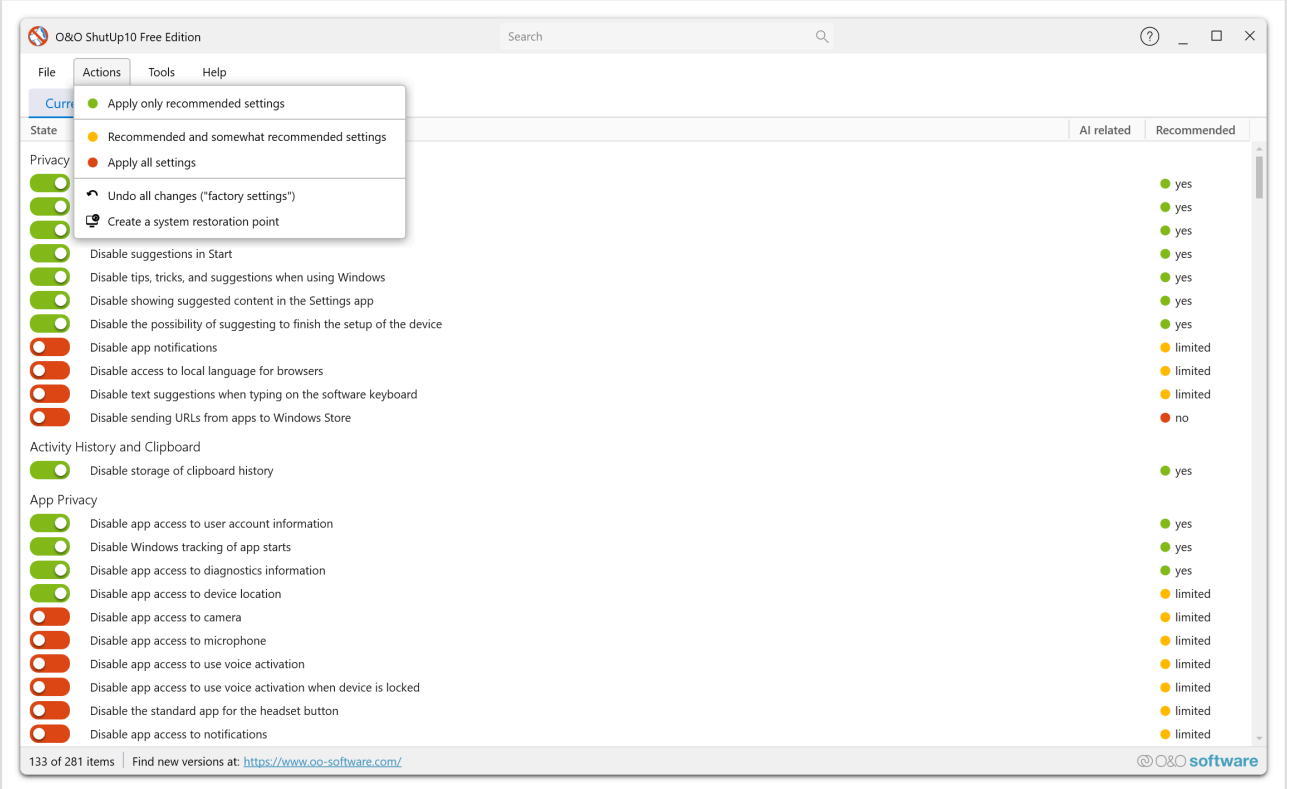
主な機能

ポータブルアプリ

Free Edition はインストールもサービスも不要ですが、環境設定と変更記録を構成ファイルに保存します。実行ファイルと同じフォルダーに既存の構成ファイルがあればそれを使用し、なければ LocalAppData 配下の製品フォルダーを使用します。ログやエクスポートしたファイルはアプリの終了後も残る場合があります。

手動でプライバシーを管理する

各設定の現在の状態を確認し、オンまたはオフにするかをユーザー自身が決めます。明示的に操作するまでは設定は変更されません。



推奨レベル

変更する項目を選ぶ目安として、設定には次の推奨レベルが付いています。

- **推奨** — 通常の機能への悪影響がなく、多くのユーザーに適しています。
- **限定的な推奨** — 一般に安全ですが、一部の機能に影響する場合があります。
- **おすすめしません** — Windows の重要な機能に影響する場合があります。影響を理解したうえで適用してください。

システムの復元ポイント

変更前に復元ポイントを作成できます。期待どおりに動作しなくなった場合は、システムの設定をその時点に戻せます。

推奨設定の一括適用

推奨項目は、スイッチを個別に操作せずにまとめて適用できます。

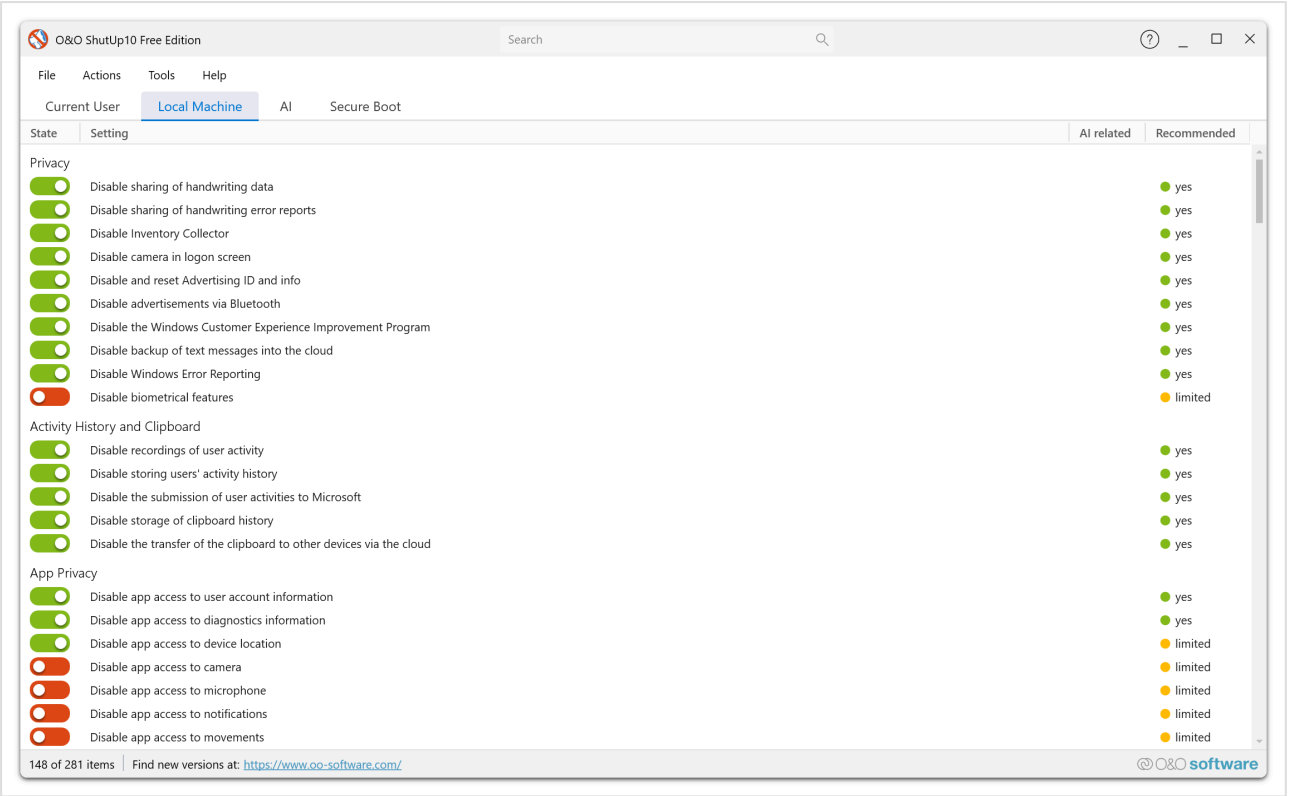
変更履歴

各セッションの変更を記録します。直前のセッションを取り消す、複数のセッションをさかのぼる、初回起動時の状態に戻す、Windows の既定値に戻す、という方法を選べます。変更履歴をご覧ください。

「現在のユーザー」と「ローカルマシン」

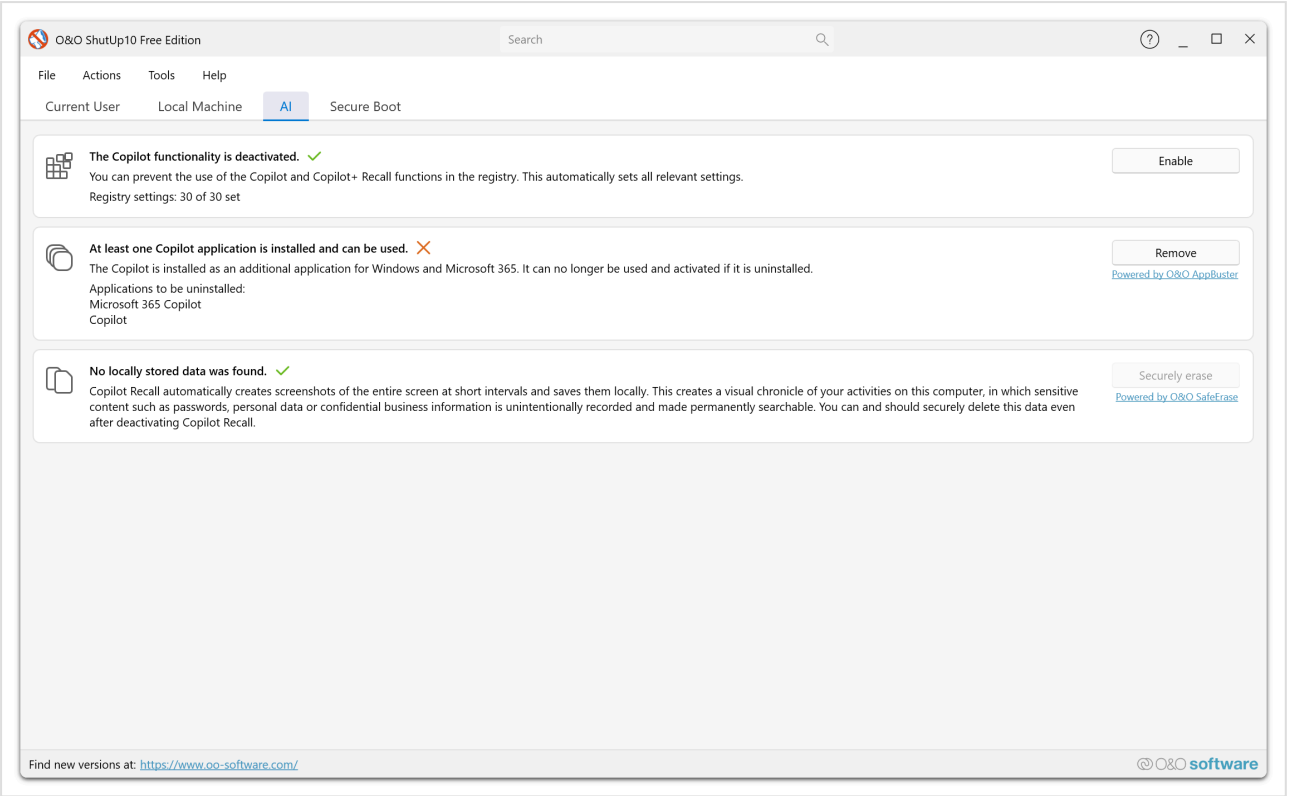
適用範囲に応じて設定は次の 2 つのタブに分かれています。

- **現在のユーザー** — サインインしているユーザーのプライバシー設定、アプリのアクセス許可、広告 ID など。
- **ローカルマシン** — PC の全ユーザーに適用するテレメトリ、エラー報告、Bluetooth 広告など。



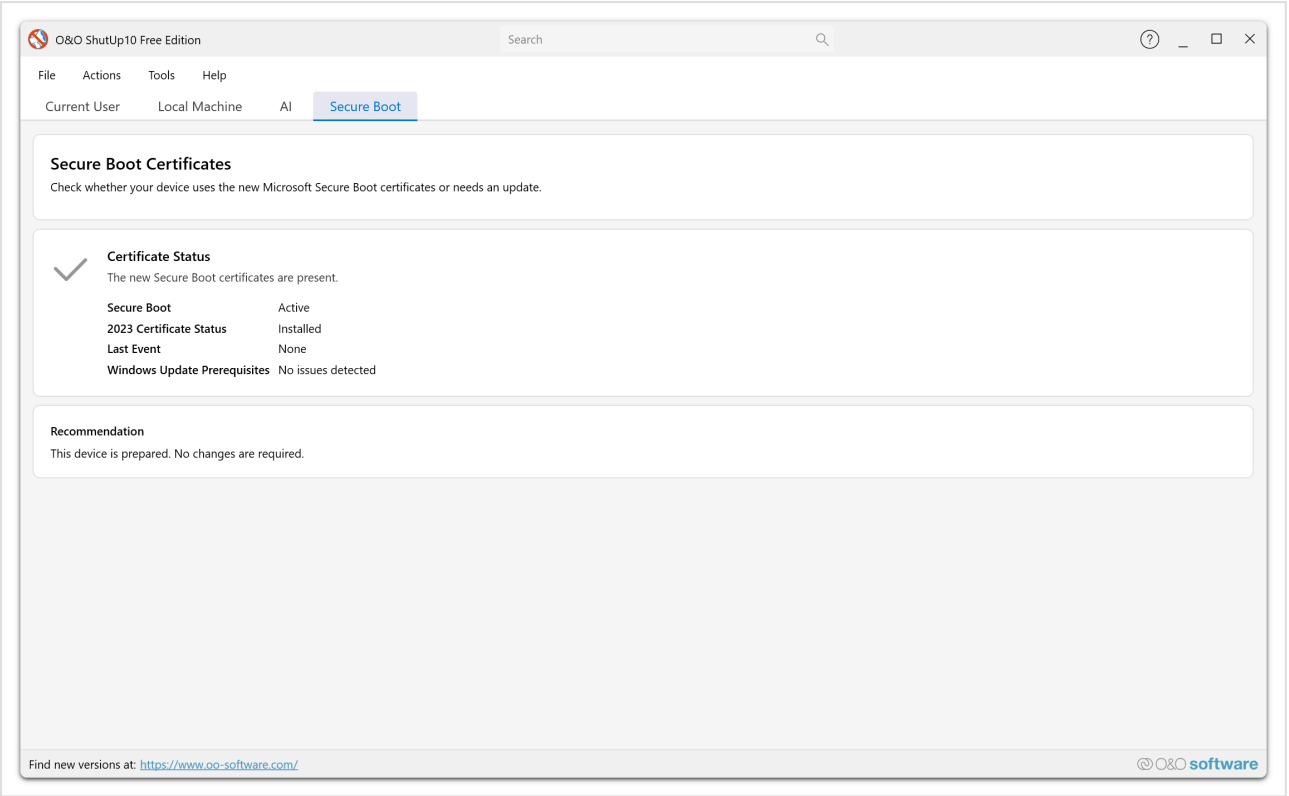
AI 機能の削除

Free Edition でも Copilot と Recall の関連機能を削除できます。**AI** タブには、レジストリ設定の無効化、Copilot アプリの削除、Recall データの完全消去の 3 つの操作があります。



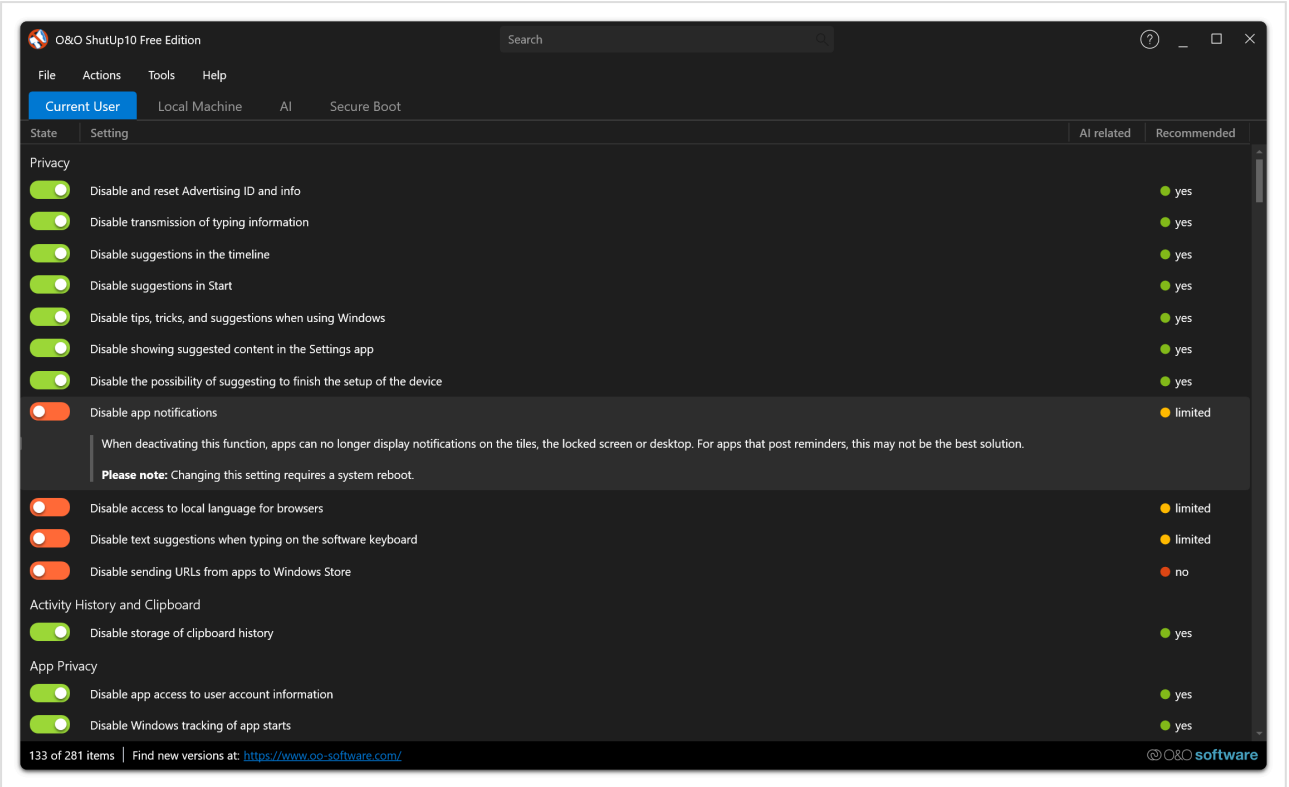
セキュアブート証明書

セキュアブート タブでは Microsoft の最新のセキュアブート証明書が使用されているか、更新が必要かを確認できます。証明書の状態、直近のイベント、推奨される対処が表示されます。



ダークモード

ライトモードとダークモードを利用できます。既定では Windows のテーマに従いますが、設定ダイアログで固定することもできます。



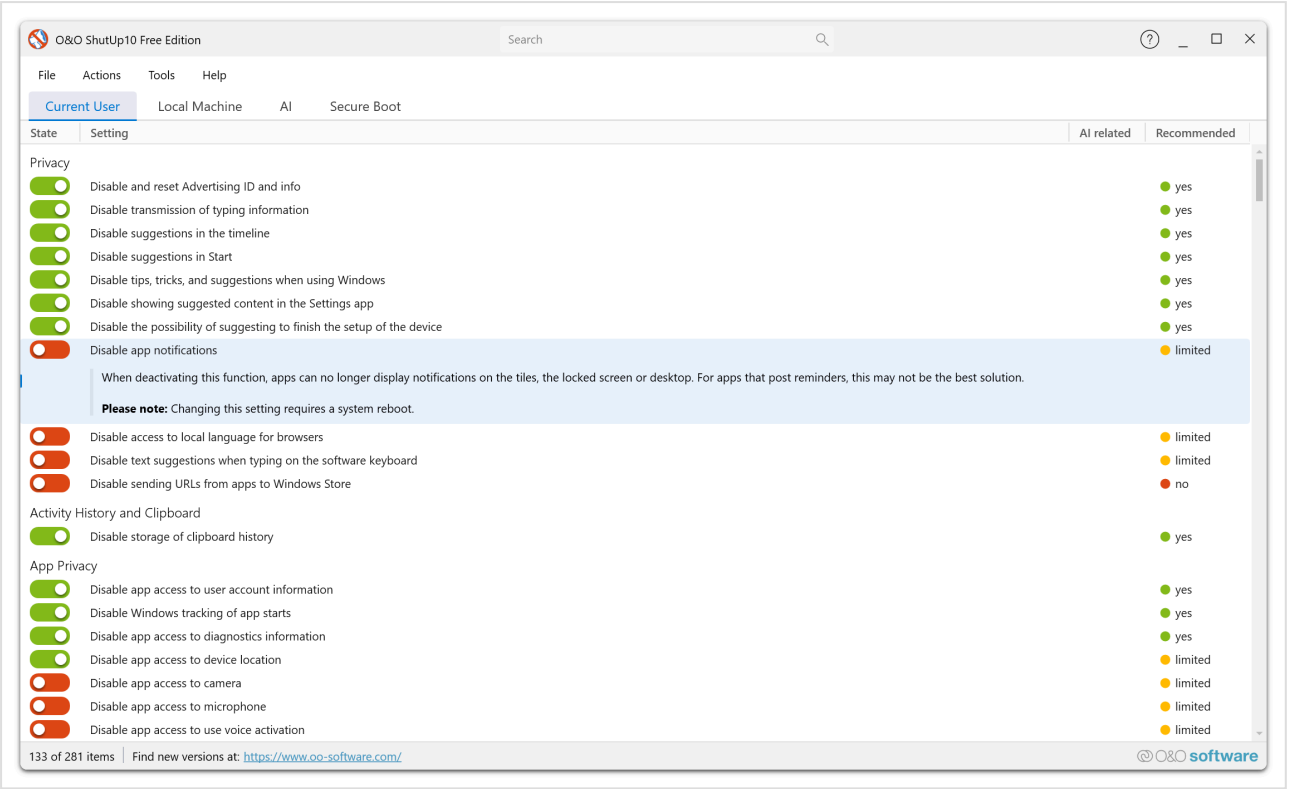
設定カテゴリー

Free Edition は、次の主要なプライバシー設定カテゴリーをすべて対象としています。

- プライバシー設定
- テレメトリとデータ収集
- 位置情報サービス
- Cortana と検索
- Windows Update の動作
- アプリのアクセス許可とアクセス制御
- エクスプローラーと広告
- セキュリティに関する設定

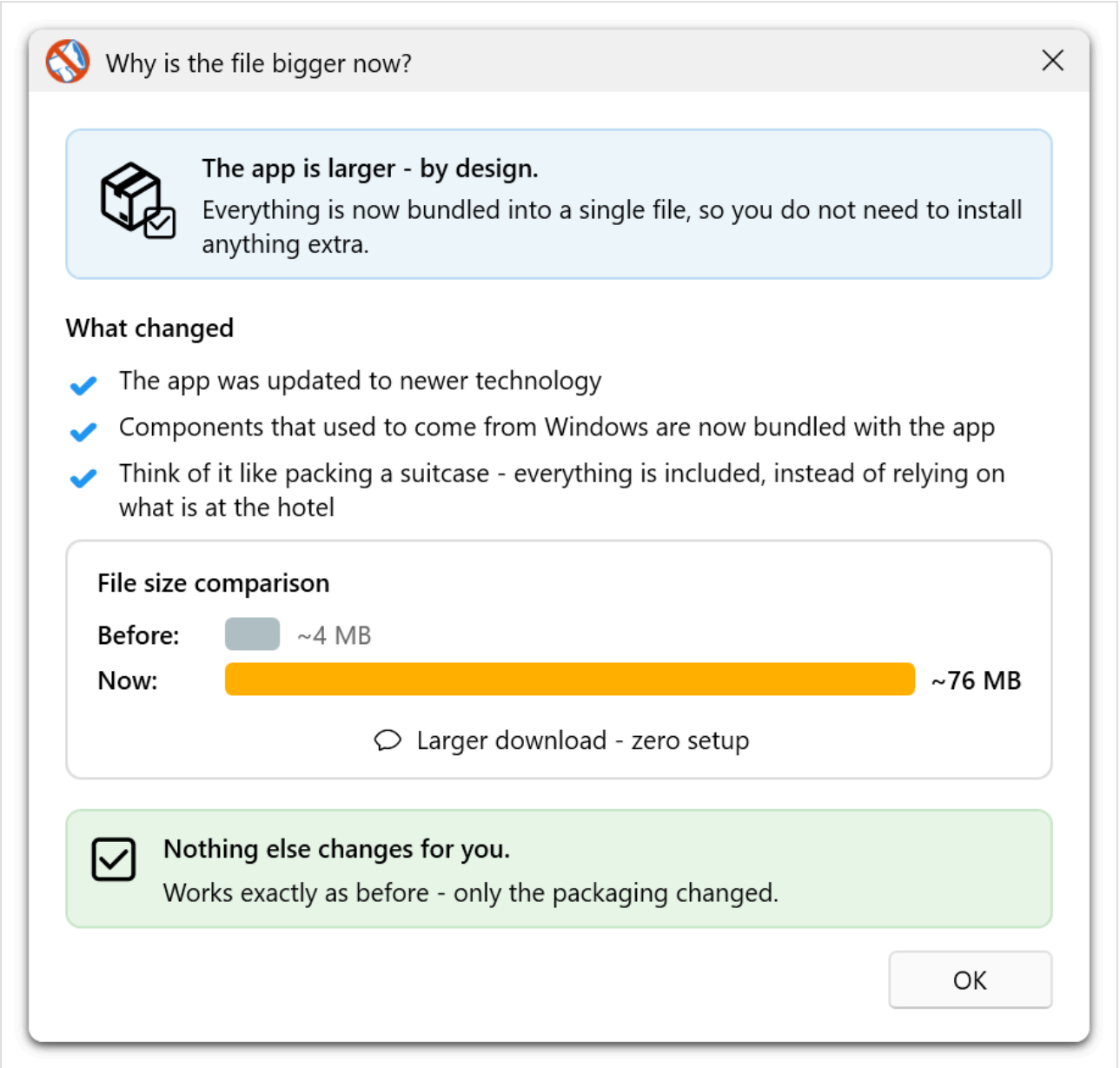
設定の詳細

項目をクリックすると説明が展開されます。その設定の効果、想定される影響、変更後にシステムの再起動が必要かどうかなどを確認できます。



ファイルサイズ

現在の Free Edition は旧バージョンよりもファイルサイズが大きくなっています。アプリにはその理由を説明する画面があります。



従来は Windows 側に依存していたランタイムを、現在は実行ファイルに同梱しています。対応するどの PC でも、あらかじめフレームワークをインストールせずに実行できます。パッケージ構成が変わったもので、機能は同じです。

Free Edition が適している用途

すぐに設定を確認・変更したい次のような方に適しています。

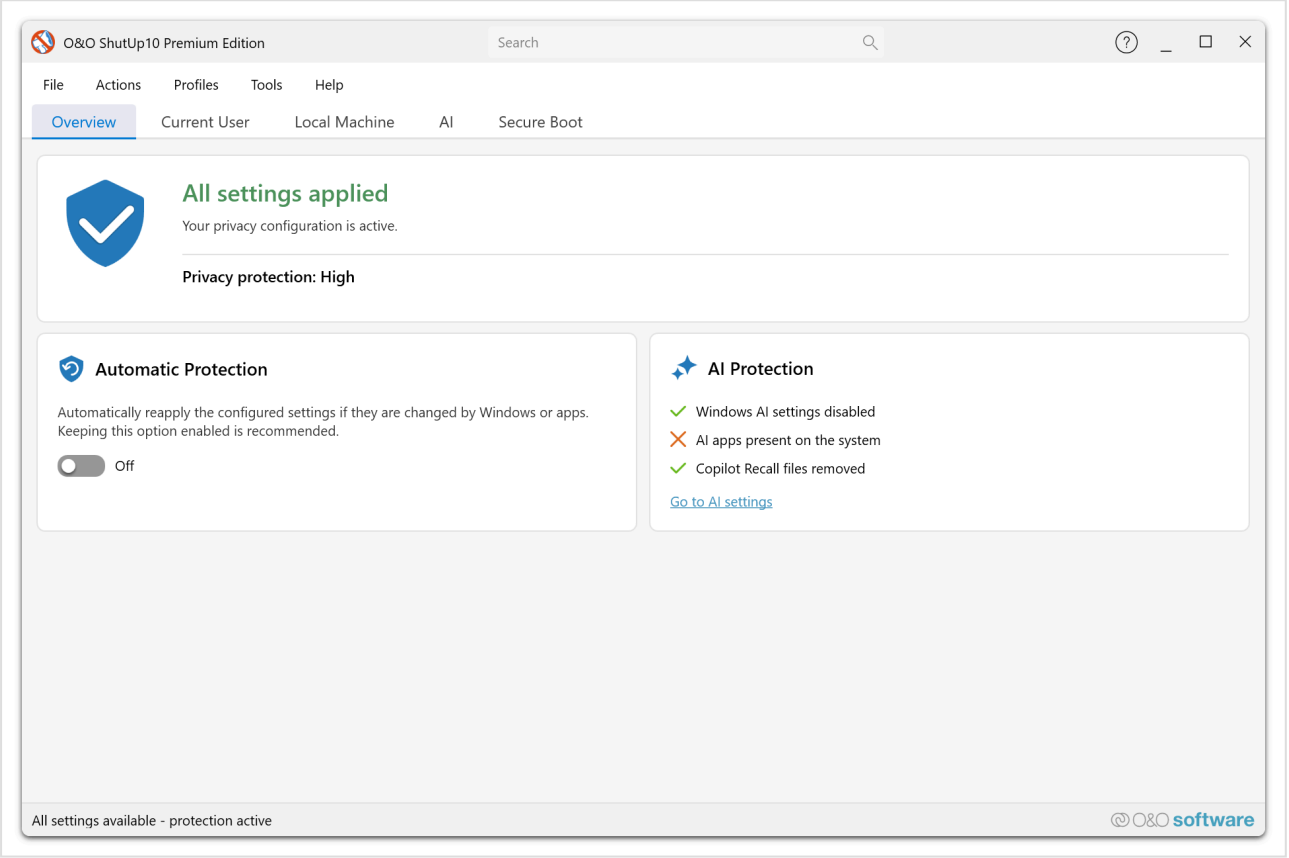
- **家庭の PC の利用者** — 手軽に Windows のプライバシー設定を管理したい場合。
- **技術担当者** — 個々の端末のプライバシー設定を監査する場合。
- **IT 管理者** — ポータブルツールで端末の構成を抜き取り確認する場合。
- **プライバシーを重視する方** — 無償で設定を管理したい場合。

個人で利用する場合も、Premium Edition と共通の約 300 項目のプライバシー設定を利用できます。

自動保護や、利用者が管理者に昇格せずに PC 全体の設定を変更できる環境が必要な場合は Premium Edition をご覧ください。

O&O ShutUp10 Premium Edition

Premium Edition は業務や企業での利用を想定しています。クライアントとサービスが連携し、利用者に管理者権限を与えずにプライバシー設定を継続して保護できます。

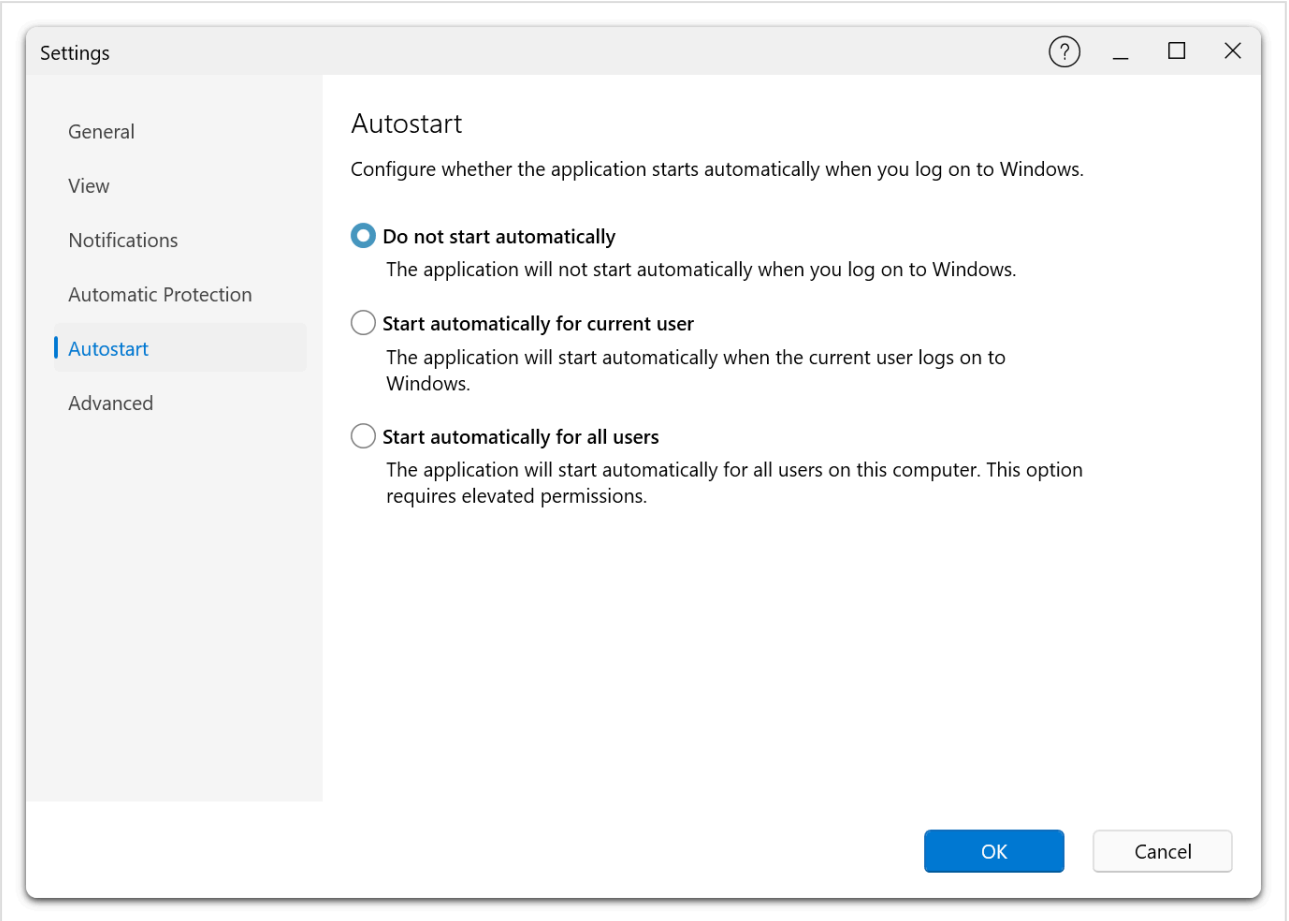


操作の流れ

Premium Edition は次の 2 つのコンポーネントで構成されます。

1. **サービス** — 必要なシステム権限でバックグラウンド動作する Windows サービスです。プライバシー設定を監視し、自動的に適用します。
2. **クライアント** — サービスと通信するユーザー向けのアプリです。管理者権限がなくても設定を確認・変更できます。

権限が必要な操作はすべてサービスが担当するため、利用者は標準 Windows アカウントのままクライアントを操作できます。



主な機能

クライアントとサービスの構成

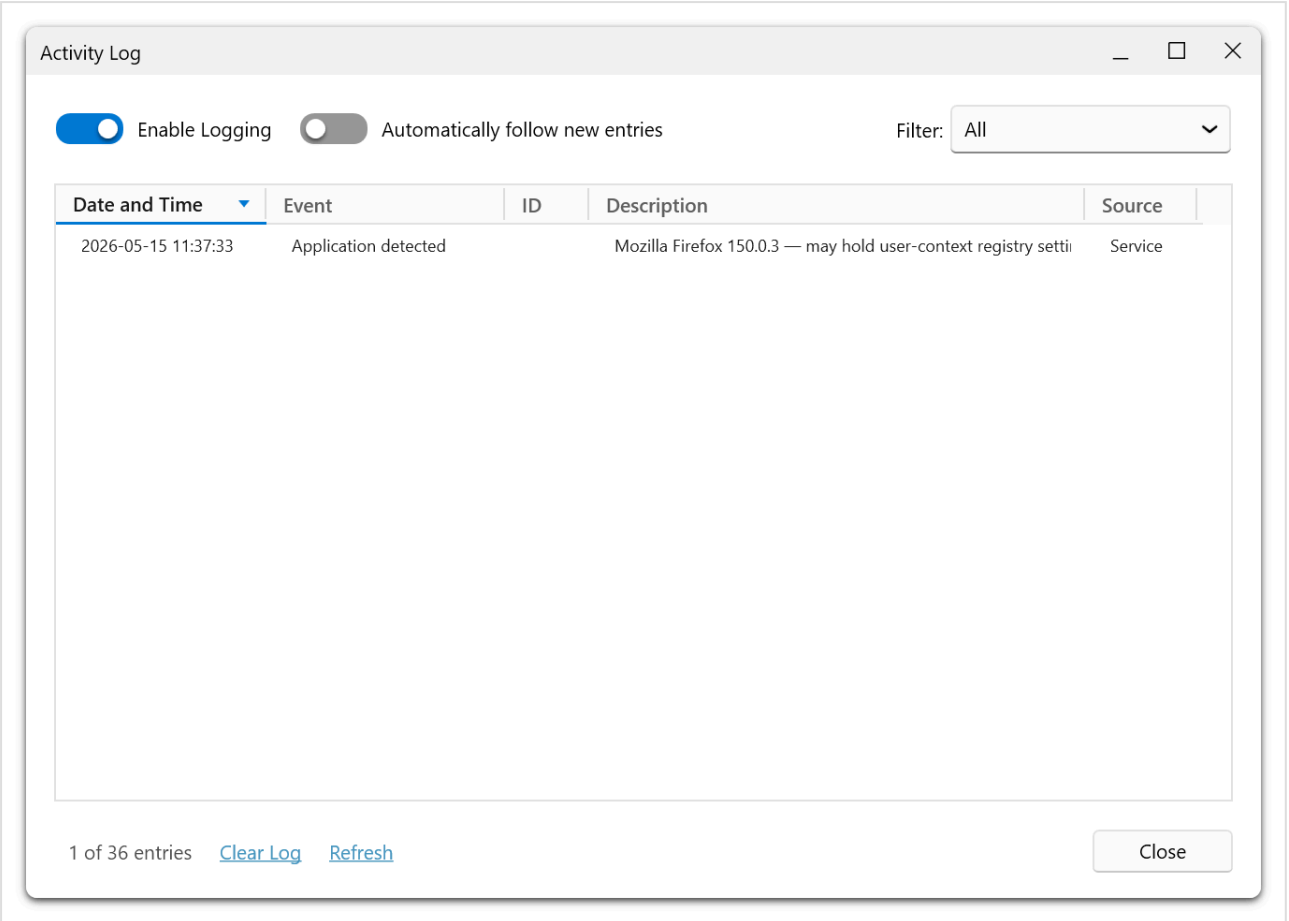
Free Edition で PC 全体の設定を変えるには手動で昇格します。Premium Edition では必要な権限を持つサービスが処理するので、利用者は昇格せずにクライアントを操作できます。

設定の自動保護

サービスは継続的に監視し、次のような理由で値が変わった場合に、希望する設定を再適用します。

- プライバシー設定を元に戻す **Windows の更新**。
- ローカル設定を上書きする**グループポリシーの変更**。
- プライバシーに関するレジストリ値を書き換える**システム構成の変更**。

自動保護の対象となる設定を、利用者が毎回操作しなくても維持できます。



利用者の管理者権限は不要

企業では標準アカウントを使用することが一般的です。権限が必要な操作をサービスが担当するため、利用者は UAC の確認画面や管理者の資格情報なしで、クライアントからプライバシー設定を確認・管理できます。

自動保護 Premium

希望の構成を一度設定すれば、サービスが自動で保護します。利用者がアプリを起動し直したり、設定を手動で点検したりする必要はありません。

Free Edition の機能

Premium Edition は、専用機能に加えて Free Edition のすべての機能を備えています。

- すべてのプライバシー設定カテゴリー（テレメトリ、位置情報、Cortana、Windows Update、アプリのアクセス許可など）
- 各項目の推奨レベル
- システムの復元ポイントの作成
- 推奨設定の一括適用と変更の取り消し

Premium Edition が適している用途

次のような環境での利用に適しています。

- **企業** — 利用者に管理者権限を与えずに運用したい場合。
- **IT 部門** — 複数のワークステーションで一貫したプライバシー設定を維持したい場合。
- **組織** — Windows の更新後にプライバシー設定を自動で再適用したい場合。
- **マネージドサービスプロバイダー（MSP）** — 複数の顧客のプライバシー設定を管理する場合。

個人利用や一度だけのプライバシー監査なら、Free Edition で対応できる場合があります。

システム要件

O&O ShutUp10 は Windows 10 と Windows 11 に対応しています。Free Edition はポータブル版です。Premium Edition はクライアントとバックグラウンドサービスをインストールします。

オペレーティングシステム

要件	Free Edition	Premium Edition
対応 OS	Windows 10、Windows 11	Windows 10、Windows 11
インストール	不要。実行ファイルから直接起動	クライアントとサービスをインストール
現在のユーザーの設定に必要な権限	標準ユーザー	標準ユーザー
PC 全体の設定に必要な権限	管理者（**ローカルマシン** タブの **管理者として再起動する** で昇格）	サービスが書き込み権限を提供。クライアントの昇格は不要
インストールに必要な権限	該当なし	管理者権限が必要になる場合あり

表示される項目は Windows のバージョンとエディションによって異なります。Windows 11 専用の設定は Windows 10 には表示されません。グループポリシーを使用する項目の一部は Windows Home では利用できません。プライバシー設定をご覧ください。

ディスク容量とファイルサイズ

Free Edition は約 76 MB の単一の実行ファイルです。必要なランタイムを同梱しているため、別途フレームワークをインストールする必要はありません。環境設定と変更の記録は、実行ファイルと同じフォルダーか、ユーザーのローカルアプリケーションデータフォルダーにある構成ファイルに保存されます。ファイルサイズをご覧ください。

表示言語

ツール(T) → 設定(S)... → 全般 で表示言語を選択できます。日本語のほか、英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ロシア語、中国語などを利用できます。変更を反映するにはアプリを再起動してください。

関連項目

- 最初の操作
- 機能比較

最初の操作

利用するエディションの手順に沿って初期設定を行ってください。

Free Edition

Free Edition はインストール不要です。次の手順で Windows のプライバシー設定を確認・変更できます。

1. ダウンロードして起動する

1. O&O Software のウェブサイトから O&O ShutUp10 の実行ファイルをダウンロードします。
2. 実行ファイルを直接起動します。インストール作業はありません。
3. 現在のユーザーの設定は標準ユーザーで確認・変更できます。PC 全体の設定を変更するには、**ローカルマシン** タブの **管理者として再起動する** を選択し、**ユーザーアカウント制御（UAC）** の画面で許可します。

> **参考**
>
> 昇格が必要なのは、PC 全体の設定やシステムの復元ポイントの作成などの操作です。権限が足りない場合は「ローカルマシン」タブに理由と再起動のボタンが表示されます。

2. プライバシー設定を確認する

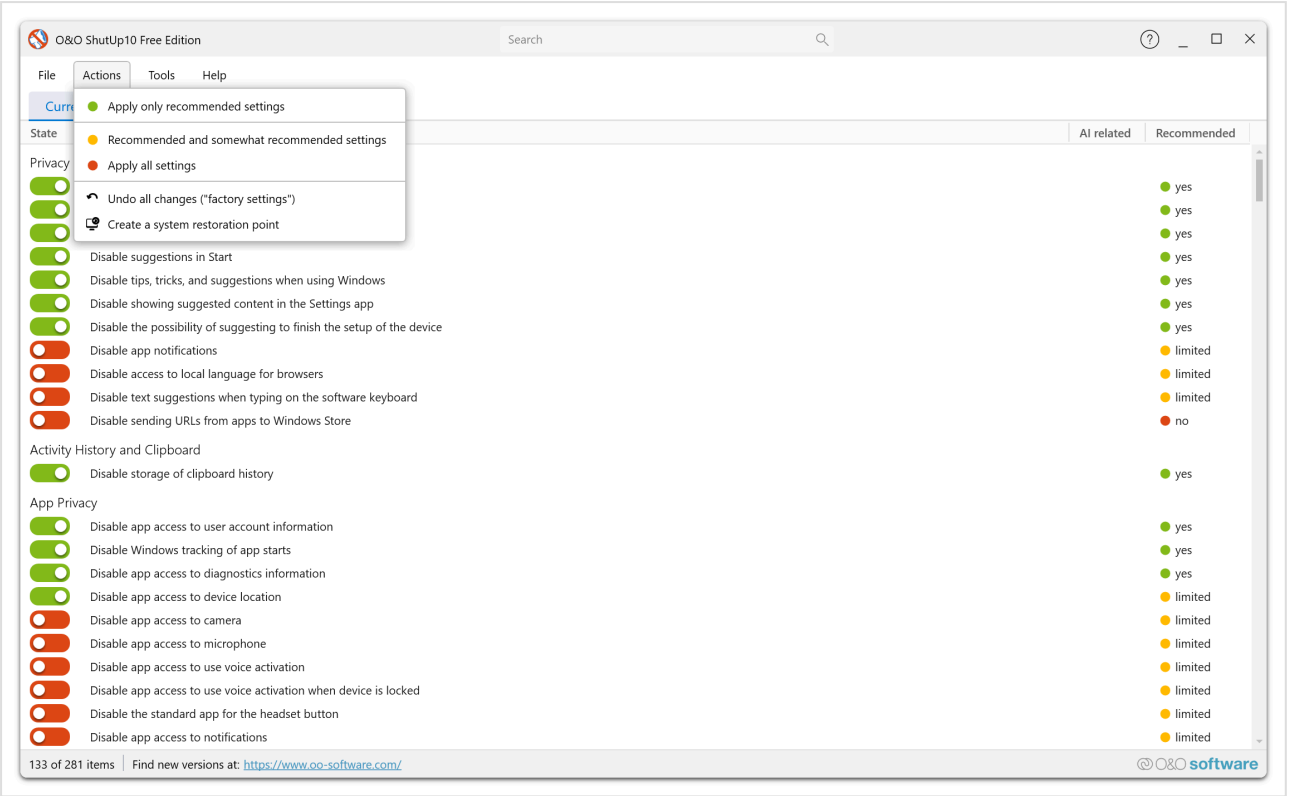
起動すると、現在の Windows のプライバシー設定とテレメトリ設定が読み取られます。利用できる項目がカテゴリー別に並び、各項目に次の情報が表示されます。

- 現在の状態（オンまたはオフ）を示す**スイッチ**。
- **推奨レベル**。推奨、条件付き推奨、非推奨のいずれかです。

変更する前に、設定内容と推奨レベルを確認してください。

3. システムの復元ポイントを作成する

設定を変更する前に **行動(A)** メニューからシステムの復元ポイントを作成します。



1. **行動(A) → システムの復元ポイントを作成(S)** を選びます。
2. 確認画面で作成を確定します。

予期しない問題が起きた場合は、復元ポイントを使ってシステム設定を変更前の状態に戻せます。

4. 推奨設定を適用する

推奨設定を一括適用するには、次のように操作します。

1. **行動(A) → 推奨設定のみを適用(A)** を選びます。
2. 確認画面で適用を確定します。

推奨 に分類されたすべての項目がオンになります。これらは多くのユーザーに適しており、通常の Windows 機能への影響が小さい設定です。

5. 個別に調整する

一括適用後、残りの項目を確認し、必要な設定を個別に変更します。

- **条件付き推奨**の設定は通常は安全ですが、一部の機能に影響する場合があります。
- **おすすめしません** の設定は Windows の重要な機能に影響することがあります。結果を理解した場合にのみ適用してください。

6. アプリを終了する

設定が済んだらアプリを終了できます。変更は Windows レジストリに保存され、ユーザー、Windows の更新、またはその他のシステム変更によって書き換えられるまで有効です。

> **ヒント**
>
> Windows の大型更新後は O&O ShutUp10 を再度起動し、プライバシー設定が元に戻っていないか確認してください。

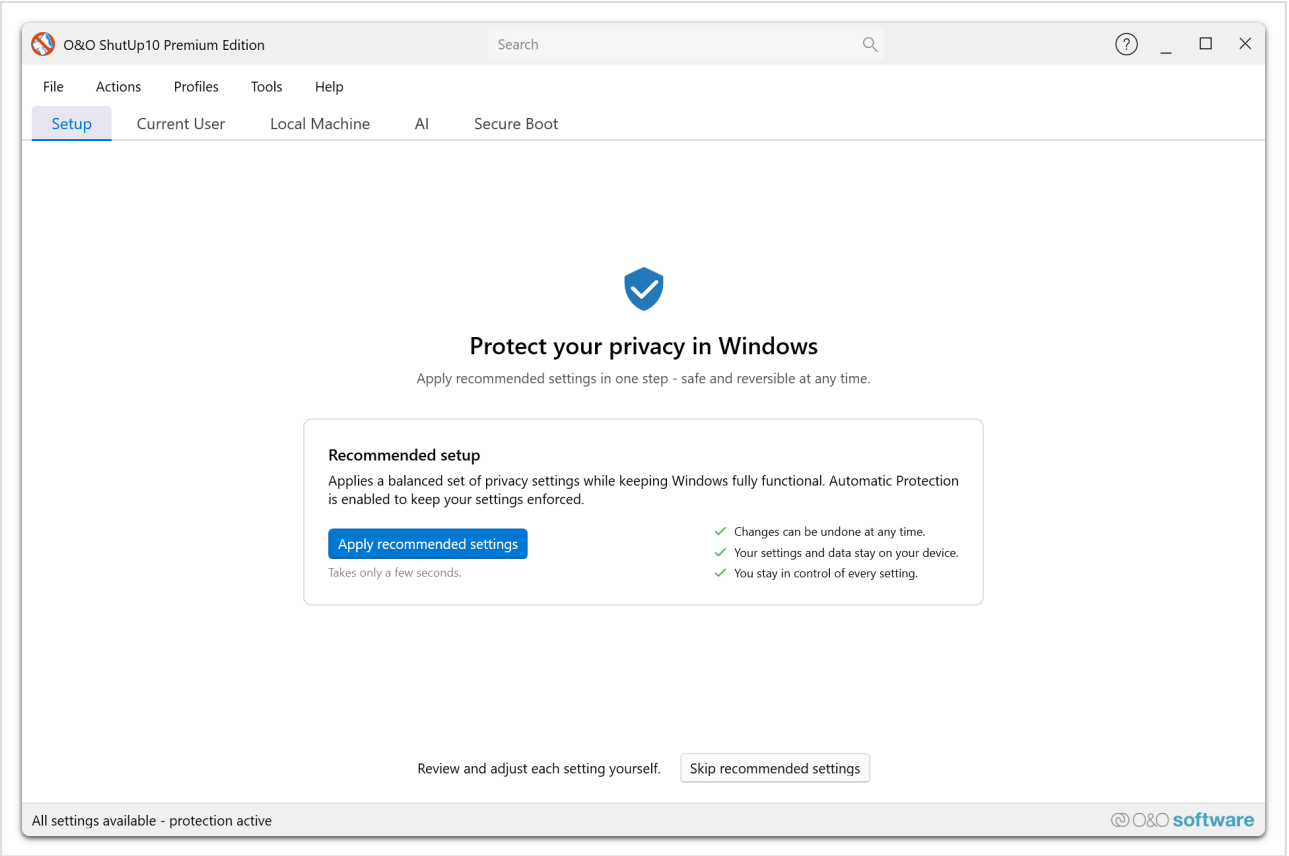
Premium Edition

Premium Edition のインストーラーでクライアントとバックグラウンドサービスをインストールします。インストールには管理者権限が必要な場合があります。サービスの起動後は、クライアントを昇格せずに PC 全体の設定を変更できます。

セットアップ

初回起動時に **セットアップ** タブで次のいずれかを選びます。

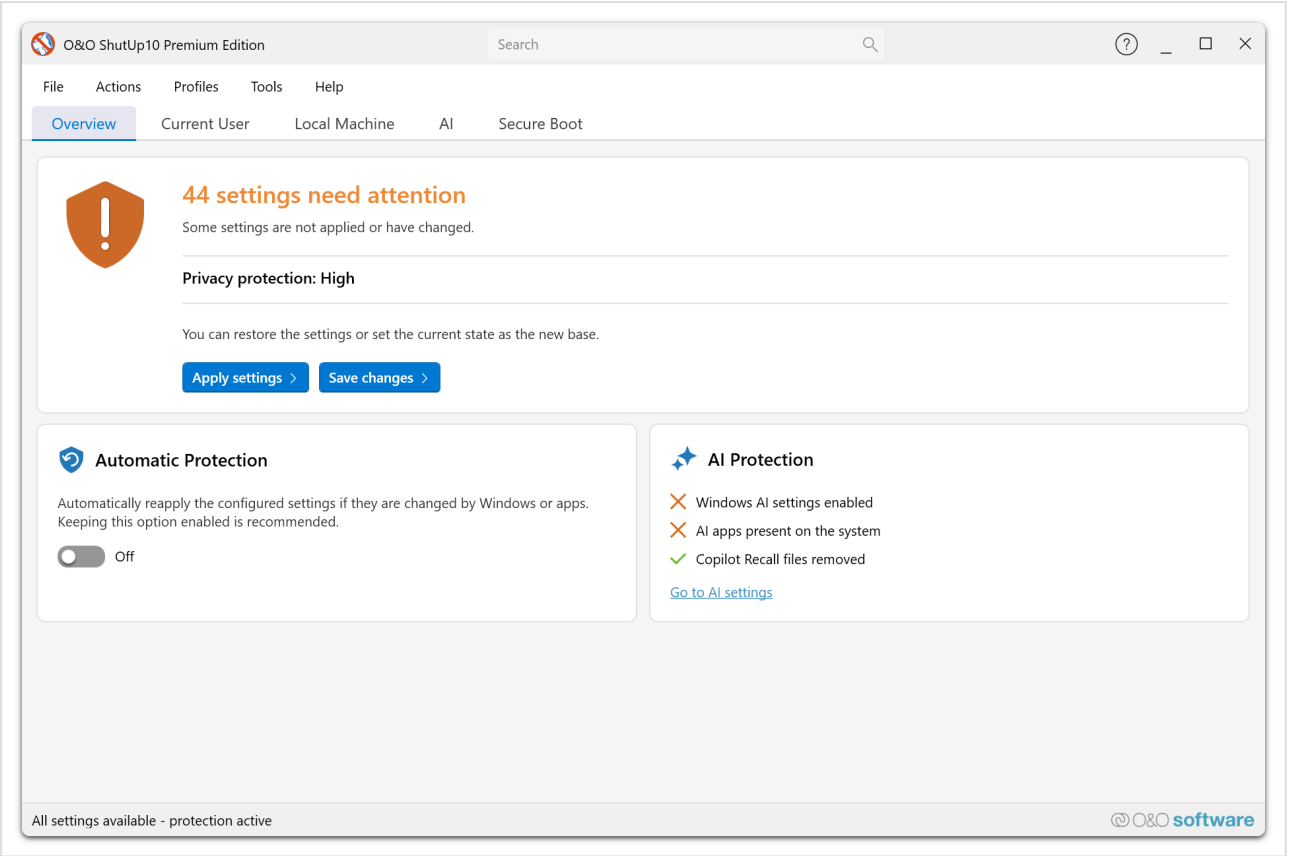
- **推奨設定を適用** は推奨設定を適用し、サービスが利用できる場合は自動保護の有効化を要求します。保護が有効になったかは「概要」タブで確認してください。
- **推奨設定をスキップしてください** は概要画面を開きます。設定を自分で確認・調整できます。この選択ではプロファイルの適用も自動保護の有効化も行われません。



初期設定の完了状態は保存されます。すべての推奨設定が適用済みであれば、この画面を自動でスキップする場合があります。サービスはインストーラーが導入します。この画面でサービスをインストールしたりプロファイルを選んだりすることはありません。

概要

セットアップ後の **概要** タブには、現在のプライバシー設定、使用中のプロファイル、自動保護、AI コンポーネントの状態が表示されます。



使用中のプロファイルは希望する構成を示し、適用状況は現在のシステムがその構成とどの程度一致するかを示します。自動保護が有効かどうかは別の状態です。差異やロックされた項目、Windows が保護している項目を確認してください。再適用できない設定もあります。

プロファイルの選択・変更はプロファイルエディター、バックグラウンドでの適用は自動保護をご覧ください。通知、ハイブリッドモード、自動起動は **ツール(T) → 設定(S)...** で指定します。詳しくは設定ダイアログをご覧ください。

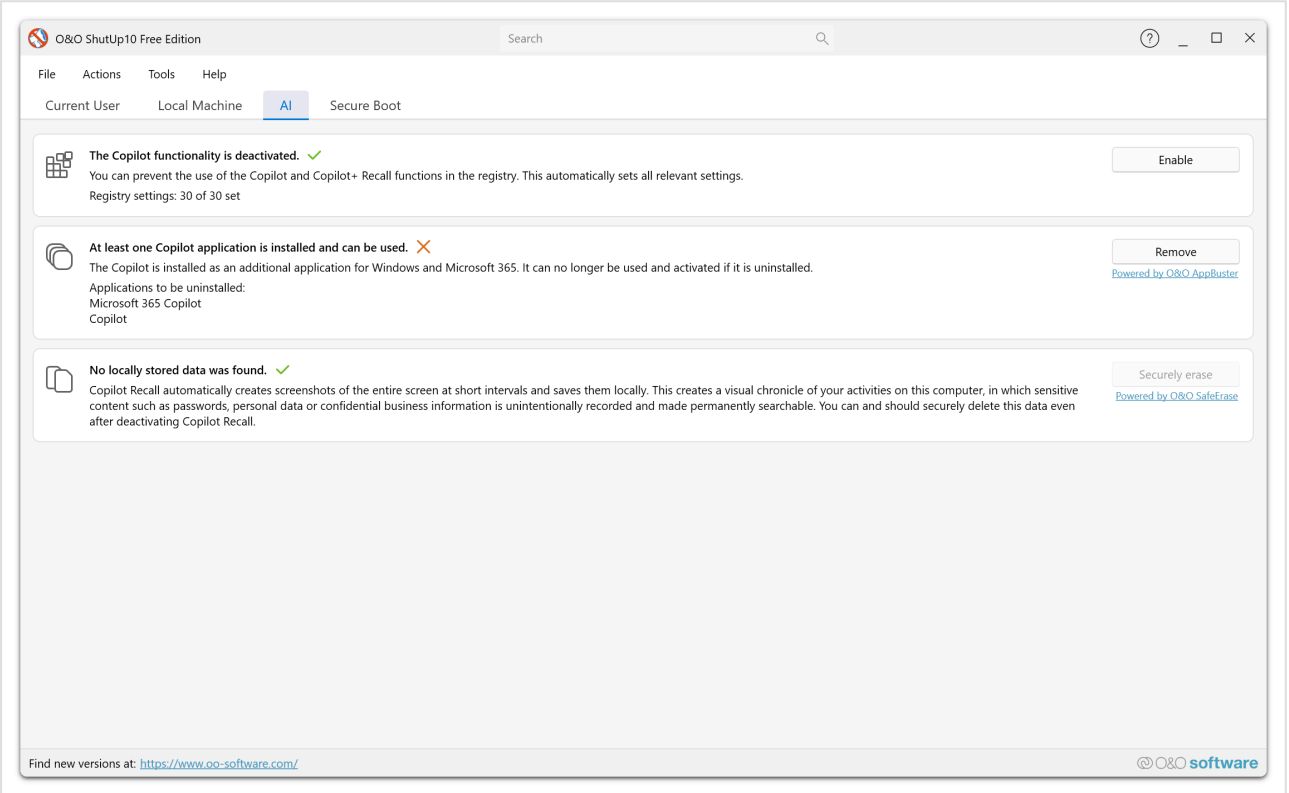
サービスを利用できない場合

自動保護にはサービスの実行が必要です。Windows の「サービス」（`services.msc`）で状態を確認するか、管理者にお問い合わせください。セットアップが完了していてもサービスが稼働しているとは限りません。一時的に接続が切れても、初期設定をやり直す必要はありません。

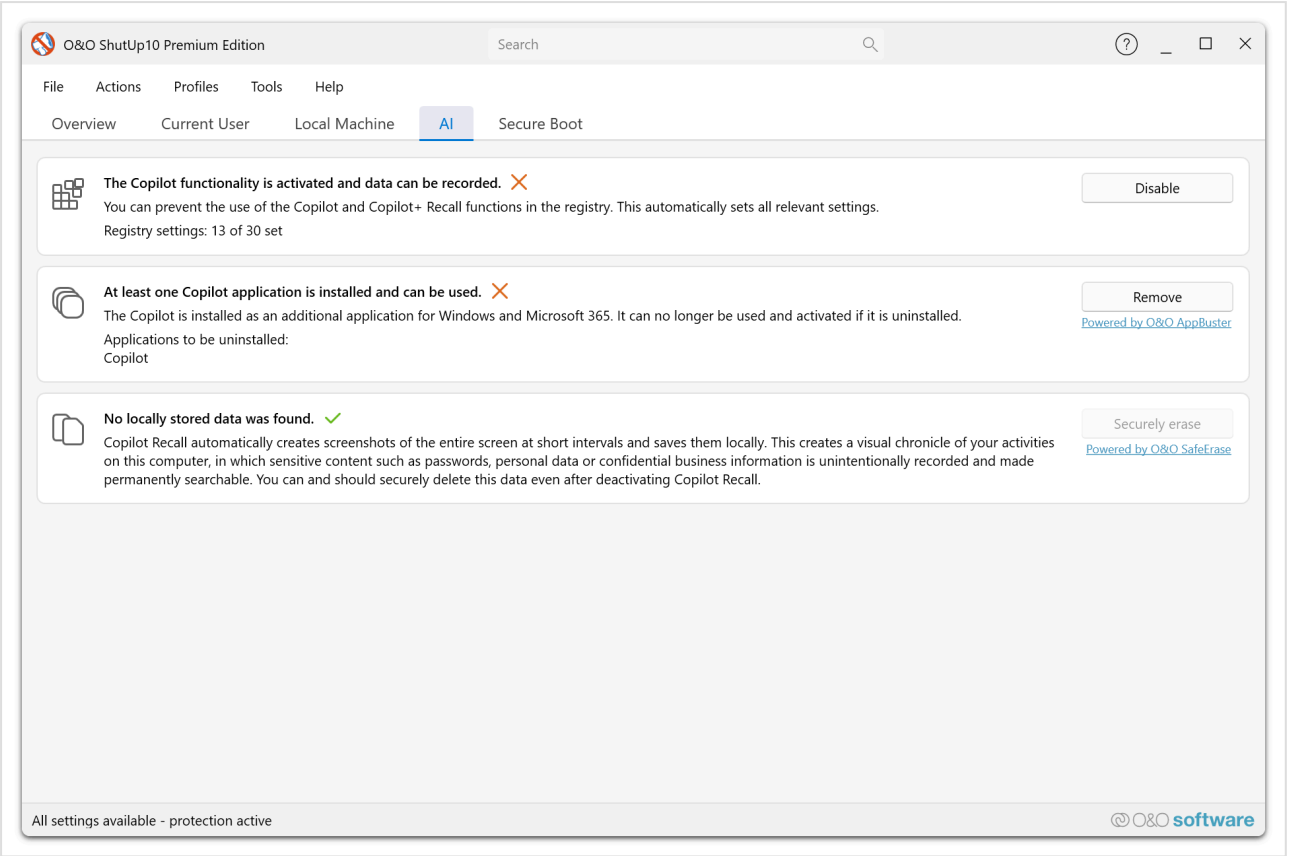
AI 機能の削除

メイン画面の **AI** タブでは、Microsoft Copilot と Recall の関連機能を 3 段階で無効化・削除できます。O&O ShutUp10 の設定機能、O&O AppBuster のアプリ削除機能、O&O SafeErase の完全消去機能を同じ画面で利用できます。

Free Edition



Premium Edition



Copilot+ PC の Recall は画面を定期的に撮影してローカルに保存し、AI を使って過去の操作を検索できるようにします。AI タブでは、この機能を有効にするレジストリ設定、動作に使うアプリ、すでに PC に保存されたデータをそれぞれ処理できます。

AI 設定

第 1 段階では、Copilot と Windows の AI 機能を制御するレジストリ設定を変更します。これは **Copilot & Windows AI** カテゴリーにある**通常のプライバシー設定**をまとめて操作する機能です。

設定とその効果

設定	効果
Windows Copilotを無効にする	Windows の AI アシスタント Copilot を無効にします。
全ユーザーへの Recall 機能の提供を無効にする	デバイスで Copilot+ Recall が有効化されないようにします。
Windows Copilot+ Recall を無効にする	Recall によるローカルデータの AI 分析を停止します。
タスクバーからCopilotボタンを無効にする	タスクバーから Copilot ボタンを非表示にします。
マイクロソフトペイントのイメージクリエーターを無効にする	ペイントの AI 画像生成機能を無効にします。
Microsoft PaintのCocreatorを無効にする	ペイントの AI 機能 Cocreator を無効にします。
マイクロソフト・ペイントでAIによる画像塗りつぶしを無効にする	ペイントの生成塗りつぶしを無効にします。

操作の流れ

- AI タブに、AI 関連の設定のうち無効な項目数が表示されます（例：「8のうち5が無効化されています」）。
- **無効** をクリックすると、推奨される AI 設定を一括適用できます。
- レジストリに書き込む値は、メインの設定一覧で各項目を個別に切り替えた場合と同じです。

通常のレジストリ設定なので、**いつでも再び有効にできます**。メインの設定一覧で該当項目を元に戻すか、AI タブから逆の設定を適用してください。

> **ヒント**
>
> アプリやデータを削除せずに Copilot と Recall だけを無効にしたい場合は、この段階で終了してください。ここでの設定変更は取り消せます。

AI アプリの削除（O&O AppBuster）

第 2 段階では **O&O AppBuster** の機能を使用し、Microsoft Store アプリとしてインストールされた Copilot+ 関連アプリを検出してアンインストールします。

処理内容

- ユーザー単位および PC 全体にインストールされた Copilot+ 関連アプリを検索します。
- 見つかった Copilot アプリの名前を表示します。

- **削除** をクリックすると、検出されたアプリがアンインストールされます。

検出結果

AI タブには現在の状態が表示されます。

表示	意味
アプリ名の一覧	1 つ以上の Copilot+ 関連アプリがインストールされています。
Copilotのアプリケーションは見つかりませんでした。	Copilot+ 関連アプリはインストールされていません。

> **アプリの削除は O&O ShutUp10 では取り消せません**
>
> アプリの削除は **O&O ShutUp10 では取り消せません**。元に戻すには、Microsoft Store から手動で再インストールするか、Windows の該当コンポーネントをリセットする必要があります。

Recall データの完全消去（O&O SafeErase）

第 3 段階では **O&O SafeErase** の機能を使用し、Copilot+ Recall がデバイスに保存したデータを完全に消去します。

Recall のフォルダーに保存されるデータ

Recall は、ローカルアプリケーションデータ内の `CoreAIPlatform.00` フォルダー（`%LOCALAPPDATA%\CoreAIPlatform.00`）に次のデータを保存します。

- **スクリーンショット** — 操作中の画面を定期的に撮影した画像。
- **OCR テキスト** — 過去の操作を検索できるよう、画像から読み取った文字。
- **インデックスデータベース** — 過去の操作を検索して表示するための索引。
- **AI モデル関連のデータ** — デバイス上での AI 分析に使われる処理データ。

Recall の動作中に画面に表示されたものは記録に含まれる可能性があります。表示したパスワード、個人的なメッセージ、金融情報、文書などの機密情報も例外ではありません。

操作の流れ

- AI タブは Recall のデータフォルダーを調べ、見つかったファイル数、フォルダー数、合計サイズを表示します。
- データがない場合は **ローカルに保存されているデータは見つからなかった。** と表示されます。
- **完全に取り除く** をクリックすると、検出された Recall データの完全消去を開始します。

O&O SafeErase の機能で、検出されたローカルの Recall データを消去します。

完全消去したデータは復元できません

完全消去は**取り消せません**。O&O ShutUp10 には消去した Recall データを復元する機能はありません。対象は検出されたローカルファイルのみで、バックアップなど別の場所にあるコピーは消去されません。

保存済みの Recall データが今後必要ないと確認できた場合にのみ実行してください。

すべての AI コンポーネントをまとめて処理する

3 段階の操作をまとめて実行することもできます。全コンポーネントの無効化を選ぶと、実行前に確認画面が表示されます。

> すべてのコンポーネントを無効にし、Copilot+ Recallによって収集されたデータを安全かつ不可逆的に削除したいのですが、よろしいですか？

確定すると次の 3 つの操作が行われます。

1. AI に関するレジストリ設定をすべて**無効化**します。この変更は取り消せます。
2. 検出されたすべての Copilot+ アプリを**削除**します。O&O ShutUp10 では再インストールできません。
3. デバイスに保存された Recall データを**完全消去**します。消去は取り消せません。

概要画面での状態表示

Premium Edition の概要タブには、Copilot+ 関連機能の削除状況が表示されます。

項目	状態の例
設定:	「YのうちXが無効化されています」
アプリケーション:	「インストールされていません」または「X個インストール済み」
Recallファイル:	「ファイルは検出されませんでした」または「ファイルが検出されました」

全体の状態は次のように表示されます。

全体の状態	意味
すべてのCopilot+コンポーネントが削除されました	関連設定はすべて無効、対象アプリは未インストール、Recall ファイルもありません。
部分的に削除されました	一部のコンポーネントにのみ対処済みです。
Copilot+コンポーネントがアクティブです	削除・無効化の操作はまだ行われていません。

プロファイルとエクスポート

どちらのエディションも設定を保存して再利用できますが、ファイル形式と操作は異なります。

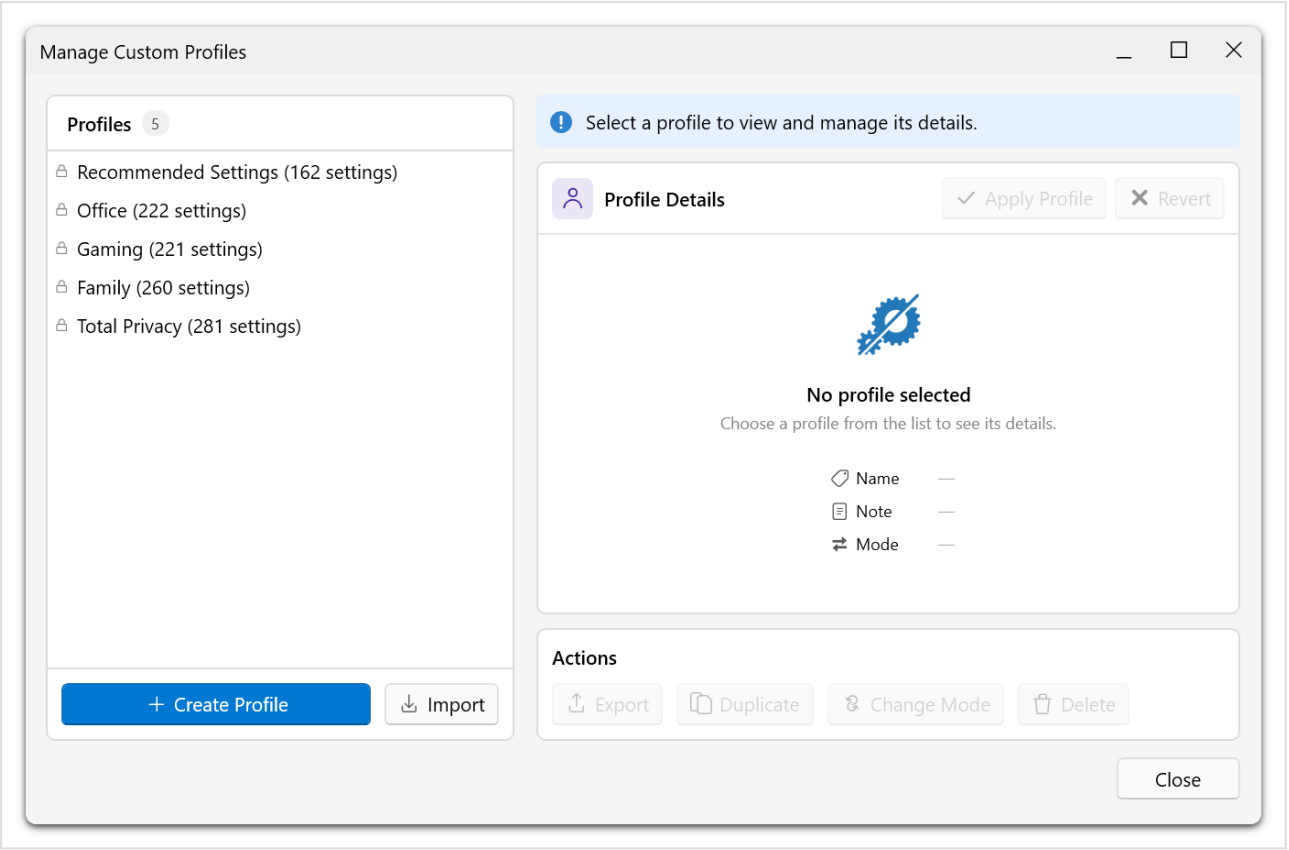
Free Edition

ファイル(F) → 設定をエクスポート(E)... は現在の設定を `.cfg` テキストファイルに保存し、**ファイル(F) → 設定をインポート(I)...** は保存済みの設定を読み込んで適用します。別の PC から取り込む場合は、適用前に内容を確認してください。

Premium Edition

プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)... では、現在の設定、保留中の変更、または既存のプロファイルを基に、名前付きプロファイルを作成できます。**プロフィール(P) → プロファイルのインポート(I)...** で `.pcfg` プロファイルを一覧に追加しても設定は変わりません。使用するには管理画面で対象を選び、**プロフィールを応募** をクリックします。

プロフィール(P) → プロファイルのエクスポート(X)... で管理画面を開き、対象を選んでエクスポートします。Premium Edition のファイルは XML 形式で、Free Edition の `.cfg` 設定ファイルとは互換性がありません。



作成方法と適用モードはプロファイルエディター、ファイル形式はプロファイルのファイル形式をご覧ください。記録済みの変更を元に戻すには変更履歴を使用します。

コマンドラインから設定を適用する

設定ファイルはコマンドラインから適用できます。この操作と、Premium Edition の名前付きプロファイルを一覧に取り込む操作は別のものです。`.cfg` ファイルの代わりに `.pcfg` ファイルを指定できるとは限りません。

編集モード

編集モードを使うと、複数のプライバシー設定をシステムに反映する前に確認できます。両エディションで利用できます。

編集モードを使う理由

通常は、スイッチを切り替えると、すぐに Windows レジストリの値が変わります。少数の調整には便利ですが、一度に多くの項目を変更すると、設定の組み合わせによって予期しない動作が起きることがあります。

編集モードでは、変更内容を**一時的に保留**します。設定を試しながら内容を見直し、まとめて適用または破棄できます。Premium Edition では、保留中の変更をカスタムプロファイルとして保存することもできます。

操作の流れ

編集モードを有効にする

1. メイン画面で **ツール(T) → 編集モード(E)** を開きます。
2. **有効化** をクリックします。

編集モードが有効になると、次のように表示されます。

- 設定一覧の上部に、編集モードが有効で、変更が保留されることを示すバナーが表示されます。
- バナーには、保留中の変更件数が表示されます（例：5 件）。
- 切り替えた設定が強調表示されます。この時点では**システムには反映されません**。

設定を変更する

通常と同じようにスイッチを切り替えます。各変更は一時保存され、レジストリには書き込まれません。適用するまでは、システムに影響を与えずに何度でも切り替えられます。

保留中の変更を適用する

内容を確認したら、次の手順で適用します。

1. **ツール(T) → 編集モード(E)** の **適用**、またはバナーの **適用** をクリックします。
2. 確認画面に保留中の件数が表示されます。適用してよいか確認してください。
3. 確定すると、保留中の変更が一括でシステムに適用されます。

保留中の変更を破棄する

変更を適用せずにすべて取り消すには、次のように操作します。

1. **ツール(T) → 編集モード(E)** の **破棄**、またはバナーの **破棄** をクリックします。
2. 確認画面で破棄を確定します。
3. 保留中の変更がすべて削除され、各項目の表示が以前の状態に戻ります。

編集モードを終了する

有効化 をもう一度クリックしてオフにすると、未適用の変更がないか確認されます。変更が残っている場合は、適用するか破棄するかを選んでから編集モードを終了します。

変更をプロファイルとして保存する Premium

1. 編集モードを有効にし、必要な設定を変更します。
2. **プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)...** を開き、**プロファイルを作成** をクリックします。
3. **バッファされた変更** を選び、名前を入力します。必要に応じてメモを入力し、適用モードを選びます。
4. **プロファイルを作成** をクリックすると保存されます。この操作だけではシステムは変わりません。使用するときにプロファイルを別途適用してください。

現在の設定からプロファイルを作成したり、既存のプロファイルを複製したりすることもできます。プロファイルエディターをご覧ください。

編集モードの利点

利点	内容
意図しない変更の防止	確定するまではシステムに変更が適用されません。
一括操作	関連する項目をまとめて適用できます。
事前確認	適用前にすべての変更内容を確認できます。
まとめて取り消し	保留中の変更を一度に破棄できます。
プロファイルの作成	選択した変更を保存して再利用できます（Premium Edition のみ）。

> **ヒント**
>
> 複数の項目をまとめて変更するときは、編集モードを活用してください。適用前に設定をまとめて確認できるため、誤ってシステムを変更するのを防げます。

変更履歴

O&O ShutUp10 は設定の変更を記録するので、どのスイッチを切り替えたかを覚えていなくても元に戻せます。**Free Edition** と **Premium Edition** の両方で、**行動(A) → 元に戻す(U)** から取り消し操作を選べます。

セッションとは

変更は**セッション**単位で記録されます。起動してから終了するまでの変更が一つの記録になります。スイッチを手動で 3 つ切り替えた場合も、プロファイルを適用した場合も、推奨設定を一括適用した場合も同じ形式で記録されます。

各項目について保存されるのは、変更*する前*の値です。取り消すと、単にすべてのスイッチがオフになるのではなく、元の状態に戻ります。もともと値が存在しなかった場合は、値のない状態に戻ります。

履歴には直近の **10 セッション**が保存されます。上限に達すると、新しい記録の追加時に最も古いものが削除されます。

直前のセッションを取り消す

行動(A) → 元に戻す(U) の先頭には、取り消しの対象となるセッションが表示されます。表示例：

> 2026/07/31 13:22 の変更を元に戻す (2 件の設定)

選択すると、そのセッションで変更したすべての項目が直前の値に戻ります。取り消せるセッションがない場合、この項目は表示されません。

履歴から取り消す

行動(A) → 元に戻す(U) → 履歴(H)... を選ぶと、新しい順にセッションが並びます。各セッションには記録日時と変更件数が表示されます。操作の種類が一つなら、*手動変更*、*プロファイルの適用*、*推奨設定の適用*、*すべての設定の適用*のいずれかも表示されます。

セッションを選ぶと、変更された項目と変更の方向（例：`on to off` はオンからオフ）が表示されます。実行前に、どの値が元に戻るかを確認できます。

> **警告**
>
> あるセッションまで巻き戻すと、それより**新しいセッションもすべて**取り消されます。途中のセッションだけを取り消して、それより後のセッションを残すことはできません。

履歴の項目は、対応する設定の復元に成功した後で削除されます。サービスに接続できない場合や変更に失敗した場合は、エラーが表示され、該当する履歴は再試行できるように残ります。復元中はダイアログの操作が

一時的に無効になります。復元処理はバックグラウンドで動作するため、サービスから応答がなくてもウィンドウ全体は固まりません。

初回起動時の設定に戻す

行動(A) → 元に戻す(U) → 初期設定に戻す(I) は、この PC で O&O ShutUp10 を初めて起動したときに記録した状態、つまり本製品を使用する前の設定に戻します。

この記録はセッション履歴から独立しています。履歴が空の場合や、最初の変更が直近 10 セッションより前の場合でも利用できます。

すべての設定を Windows の既定値に戻す

行動(A) → 元に戻す(U) → すべての設定（「工場出荷時設定」）(A) は、すべてのプライバシー設定を Windows の既定値に戻します。

リセット自体もセッションとして記録されるため、後で取り消せます。また、空になったポリシーのサブキーも削除されます。これにより、O&O ShutUp10 の以前の設定の痕跡だけを理由に Windows に **一部の設定は組織によって管理されています** と表示され続けることを防ぎます。

> **参考**
>
> **初期設定に戻す(I)** と異なり、このリセットでは O&O ShutUp10 を初めて使ったときの状態にかかわらず、Windows の既定値が適用されます。本製品を使用する前に手動または別のツールで変更した設定もリセットされます。

O&O ShutUp10 以外で行われた変更

履歴の対象は *O&O ShutUp10 を使って行った変更* です。Windows の機能更新などで設定が元に戻っても、セッションとしては記録されません。このような変更には Premium Edition の自動保護を使用します。

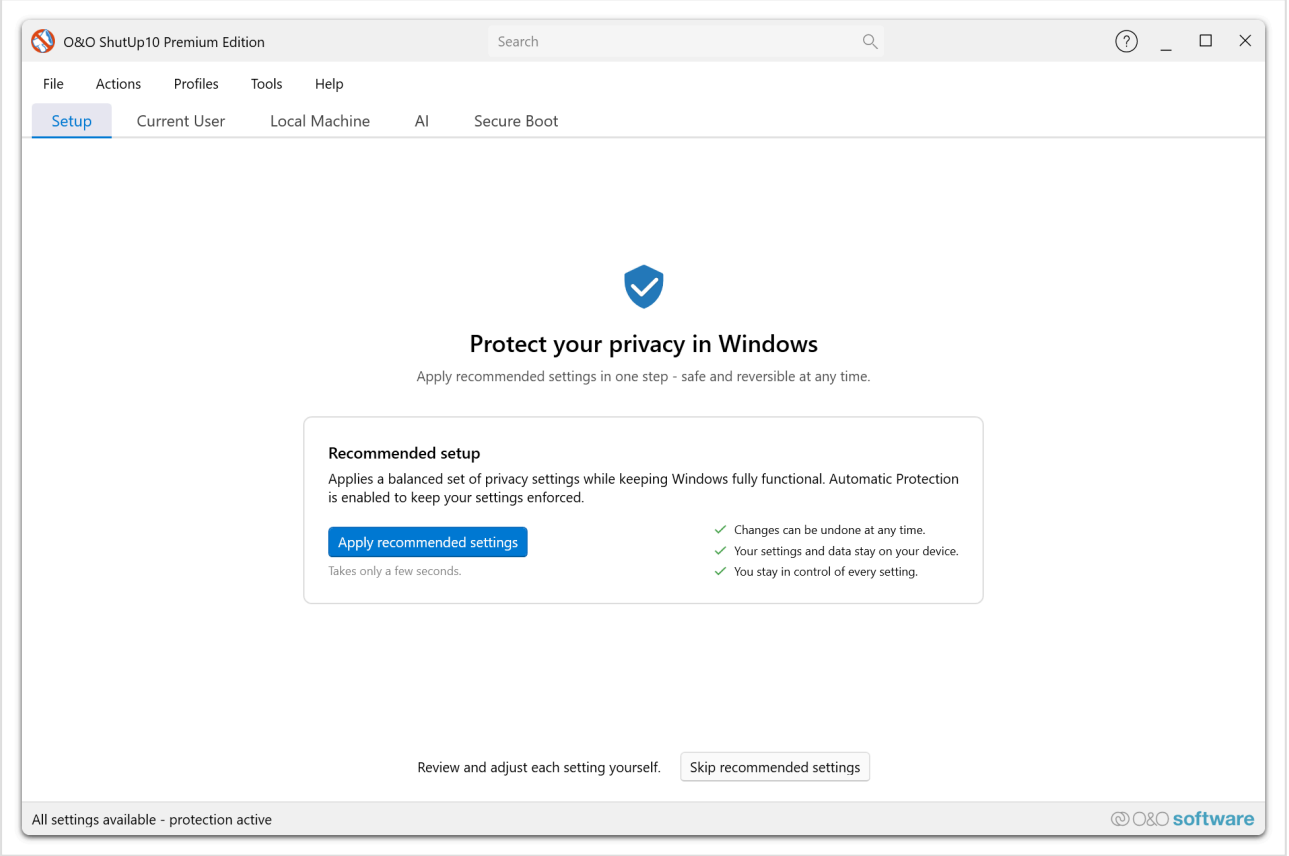
> **ヒント**
>
> 多数の項目を一度に変更する場合は、システム全体を戻す手段として復元ポイントも作成しておくと安心です。変更前に **行動(A) → システムの復元ポイントを作成(S)** を選んでください。

Premium Edition の概要 Premium

セットアップ

初回起動時に **セットアップ** タブで次のいずれかを選びます。

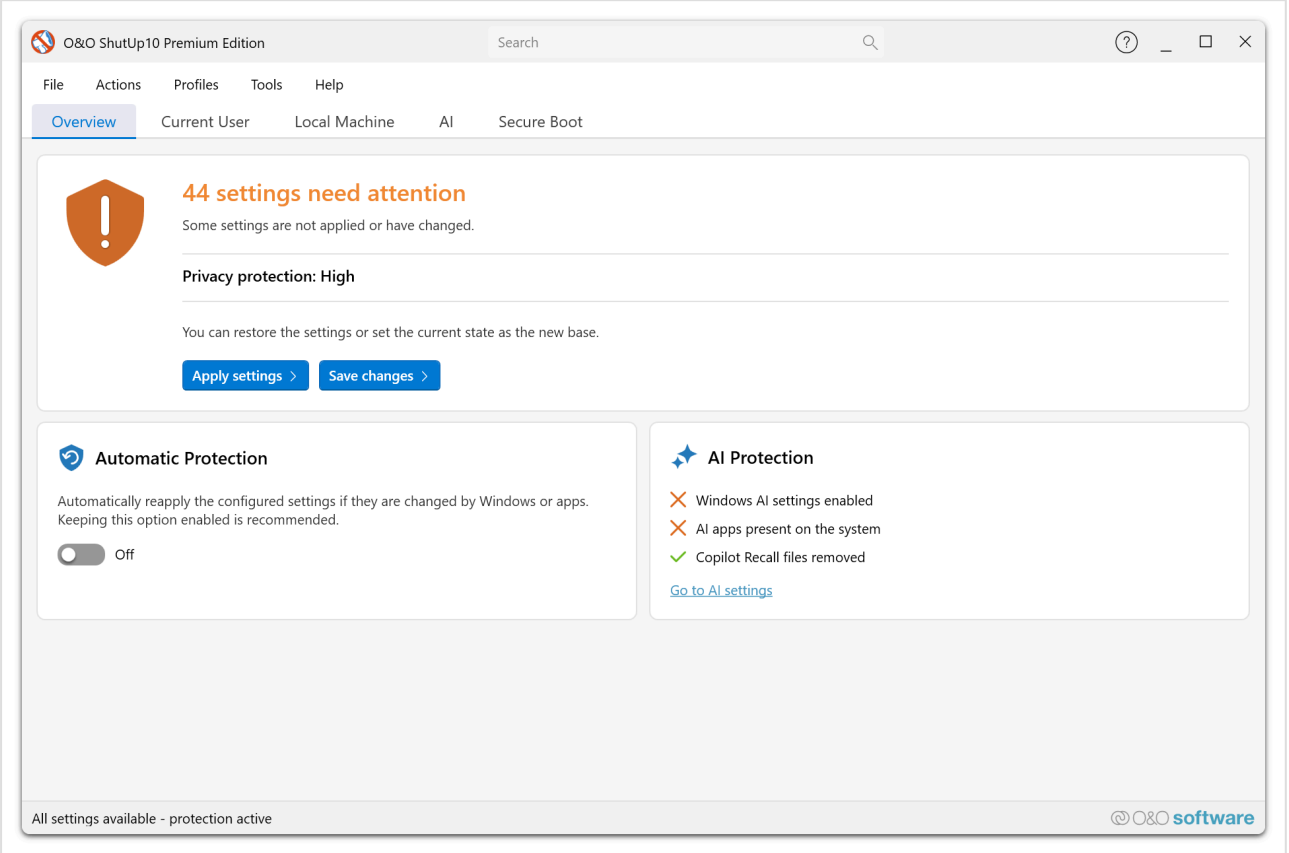
- **推奨設定を適用** は推奨設定を適用し、サービスが利用できる場合は自動保護の有効化を要求します。保護が有効になったかは「概要」タブで確認してください。
- **推奨設定をスキップしてください** は概要画面を開きます。設定を自分で確認・調整できます。この選択ではプロファイルの適用も自動保護の有効化も行われません。



初期設定の完了状態は保存されます。すべての推奨設定が適用済みであれば、この画面を自動でスキップする場合があります。サービスはインストーラーが導入します。この画面でサービスをインストールしたりプロファイルを選んだりすることはありません。

概要

セットアップ後の **概要** タブには、現在のプライバシー設定、使用中のプロファイル、自動保護、AI コンポーネントの状態が表示されます。



使用中のプロファイルは希望する構成を示し、適用状況は現在のシステムがその構成とどの程度一致するかを示します。自動保護が有効かどうかは別の状態です。差異やロックされた項目、Windows が保護している項目を確認してください。再適用できない設定もあります。

O&O ShutUp10 の外部で変更した設定は、プロファイルとの差異として表示されます。内容を確認し、プロファイルに取り込むか、プロファイルの値に戻せます。外部の変更を受け入れるをご覧ください。

プロファイルの選択・変更はプロファイルエディター、バックグラウンドでの適用は自動保護をご覧ください。通知、ハイブリッドモード、自動起動は **ツール(T) → 設定(S)...** で指定します。詳しくは設定ダイアログをご覧ください。

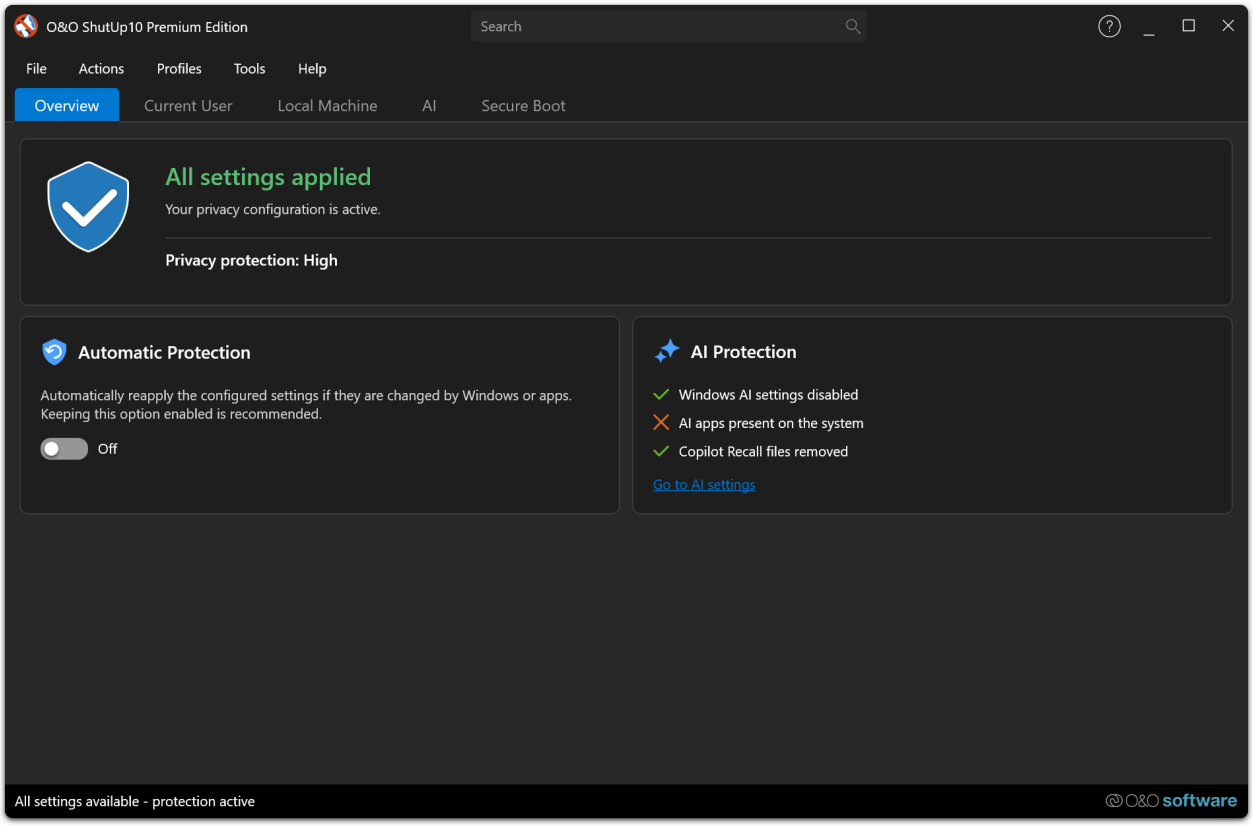
サービスを利用できない場合

自動保護にはサービスの実行が必要です。Windows の「サービス」（`services.msc`）で状態を確認するか、管理者にお問い合わせください。セットアップが完了していてもサービスが稼働しているとは限りません。一時的に接続が切れても、初期設定をやり直す必要はありません。

自動保護 Premium

> **注記**
>
> 自動保護を有効にし、サービスを実行しておく必要があります。Windows が保護している項目やハイブリッドモードで除外された項目など、再適用できない設定もあります。ポリシーと競合した場合は、画面に表示された結果を確認してください。

自動保護は **O&O ShutUp10 Premium Edition** 専用です。Windows の更新、グループポリシーの変更などで書き換えられたプライバシー設定を再適用します。



概要

Windows の更新により、プライバシー設定が既定値に戻る場合があります。Free Edition ではユーザーが更新後に確認して必要な設定を再適用します。Premium Edition では自動保護に任せることができます。

操作の流れ

O&O ShutUp10 のサービスはバックグラウンドで対象の設定を監視します。Windows の更新、グループポリシー、その他のシステム変更によって値が変わったことを検出すると、保護対象の設定に指定した値を再適用します。

監視する変更

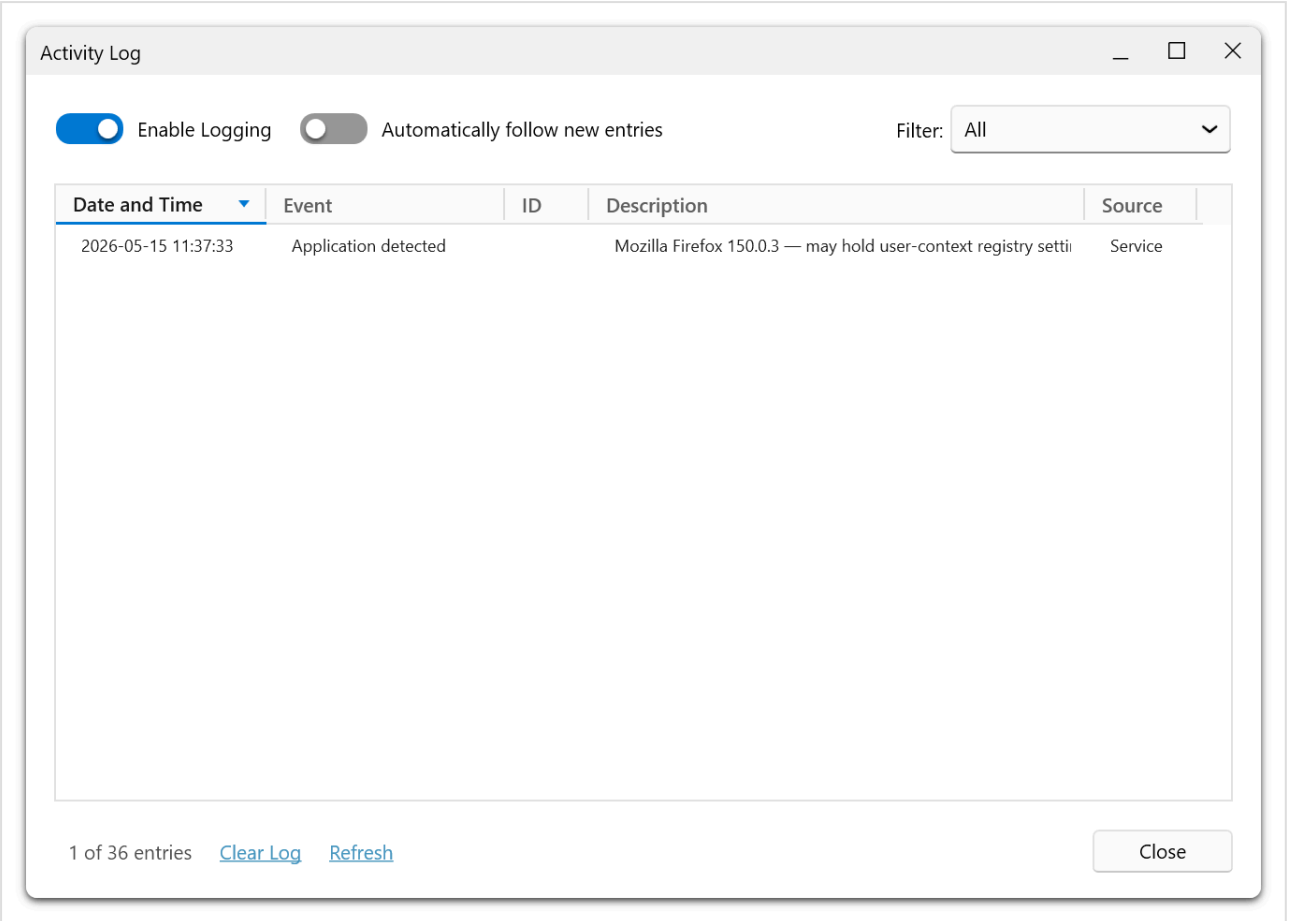
サービスは次の変更に対応します。

- **Windows Update** — 累積更新や機能更新で元に戻った設定を再適用します。
- **グループポリシーの変更** — ポリシーの適用で希望の設定が上書きされた場合、保護対象の項目を再適用します。
- **レジストリの直接変更** — 対象のプライバシー設定値に対する変更を検出して修正します。

再適用のタイミングとハイブリッドモード

サービスはレジストリ値を継続的に監視しますが、外部の管理機能との上書きの繰り返しを避けるため、再適用の頻度を制限しています。サインイン時に一度、指定した設定が適用されます。その後は差異を検出したときに間隔を調整して適用し、30 秒ごとにすべての設定を書き直すわけではありません。

ハイブリッドモード を有効にすると、ドメインのグループポリシーなどが繰り返し変更する項目を検出し、自動保護から除外します。除外した項目は組織のポリシーに委ね、それ以外の項目では保護を継続します。**ツール(T) → 設定 → 自動保護** で設定できます。



自動保護の設定

クライアントで希望のプライバシー設定を指定します。サービスはこの構成を保存し、自動保護の基準とします。

O&O ShutUp10 以外の変更を受け入れる

Windows の「設定」で、必要になった機能をもう一度有効にするなど、意図的に設定を変える場合があります。このような変更を自動保護で元に戻さずに残すことができます。

概要 タブで、自動保護スイッチの下にある **O&O ShutUp10 以外で行われた変更を受け入れる** をオンにします。O&O ShutUp10 の一覧にある項目を Windows や別のプログラムで変更した場合、オン・オフのどちらに変えても自動では戻らなくなります。変更はプロファイルとの差異として表示され、個別に処理を選べます。

> **注記**
>
> 対象は O&O ShutUp10 の一覧にある項目のみです。それ以外の Windows 設定は記録しません。

このスイッチは自動保護がオンのときのみ使えます。自動保護がオフであれば、値は自動で元に戻りません。組織の共通構成で強制される項目には、スイッチの状態に関係なく組織の設定が適用されます。

自動保護	外部の変更を受け入れる	外部で変更した設定	結果
オフ	—	すべて	変更を保持し、差異を表示
オン	オフ	プロファイルでオンの設定	プロファイルの値に戻す
オン	オフ	プロファイルでオフの設定	変更を保持し、差異を表示
オン	オン	すべて	変更を保持し、差異を表示

プロファイルとの差異を確認する

使用中のプロファイルと現在の設定に差異があると、設定一覧の上部に件数（例：3 件）が表示されます。ここで **確認** をクリックするか、**プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)...** にある使用中のプロファイルのカードで同じボタンをクリックし、**プロファイルとの相違** を開きます。項目ごとにプロファイルの値と現在の値が表示され、分かる場合は変更元と検出時刻も表示されます。

処理する項目を選び、次のいずれかを実行します。

- **プロファイルに取り込む** — 現在の値を使用中のプロファイルに書き込み、以後はその値を自動保護します。変更できない組み込みプロファイルの場合は **新しいプロファイルとして保存...** を選んでください。
- **新しいプロファイルとして保存...** — 選択した値を取り込んだプロファイルに新しい名前を付けて保存し、使用中のプロファイルに切り替えます。
- **プロファイルの値に戻す** — 選択した項目をプロファイルの値に戻します。

Microsoft Defender が自ら元に戻す値には印が付き、初期状態では選択されません。O&O ShutUp10 の停止中に変わった項目には「発生元不明」と表示されます。自動保護がオフの場合は、O&O ShutUp10 上で行った変更も一覧に表示され、プロファイルに取り込めます。

外部の変更の受け入れを停止する

O&O ShutUp10 以外で行われた変更を受け入れる をオフにすると、自動保護は受け入れていた変更をプロファイルの値に戻します。確認画面に対象件数が表示されます。**先に確認する** で一覧を開くか、**元に戻す** で続行します。プロファイルでオフの項目は戻さず、差異が引き続き表示されます。

> **参考**
>
> 自動保護には O&O ShutUp10 サービスが必要です。サービスが停止した場合、再起動するまで自動再適用は行われません。

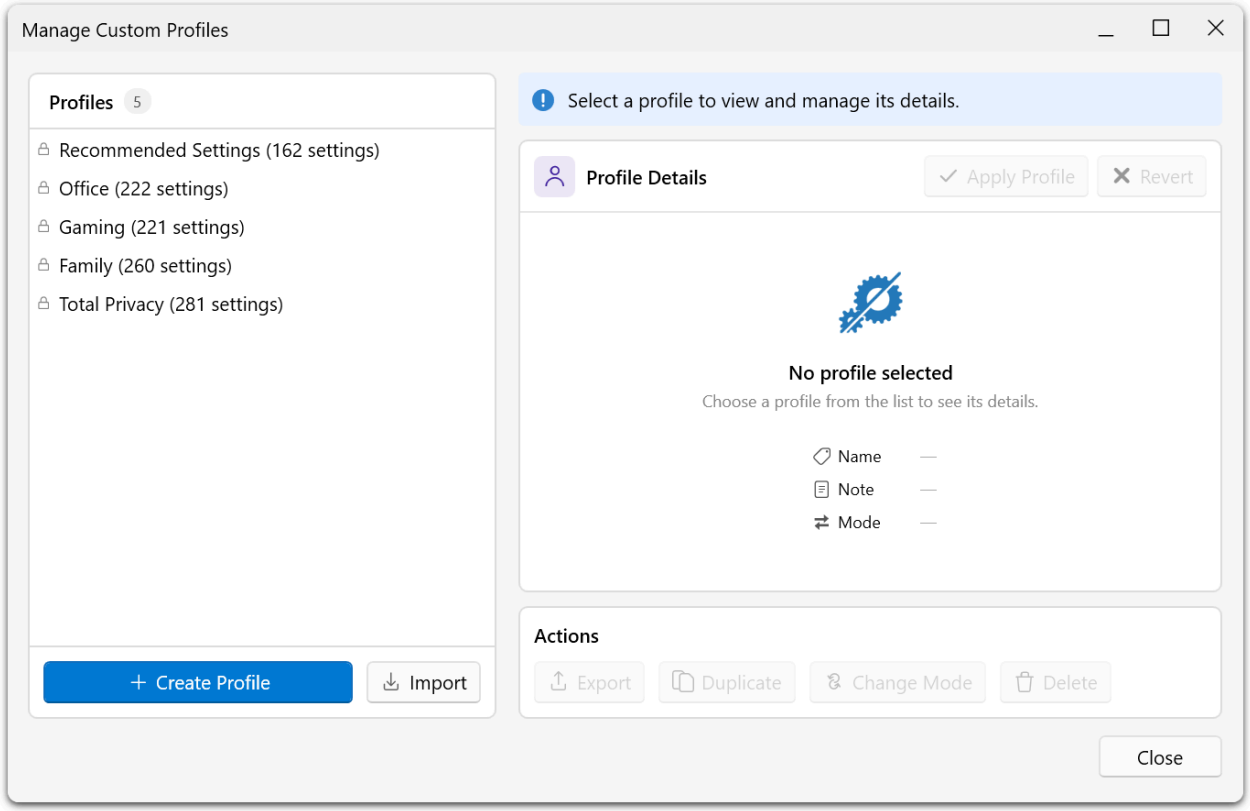
保護のオン・オフを切り替えるときにサービスが処理中で通信が一時失敗した場合、クライアントは再試行します。保存された状態を変更するのはサービスが操作を確認した後です。失敗した場合は変更前の状態を維持し、応答がなかったのか適用できなかったのかをエラーで通知します。

自動保護の利点

- **設定を維持** — 対象の項目は一度設定すれば継続的に監視されます。
- **更新後に再適用** — Windows の更新で値が戻った場合も、対象の設定に希望の値を再適用します。
- **手動操作が不要** — サービスがバックグラウンドで処理します。

プロファイルエディター Premium

Premium Edition で **プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)...** を開くと、名前付きプロファイルの作成、整理、入出力、適用ができます。



組み込みプロファイル

プロファイル	内容
推奨設定	推奨レベルが「推奨」の設定を適用します。
職務	オフィスでの利用を想定した構成です。
ゲーム	ゲーム用の構成です。
家族	家族で使用する PC 向けの構成です。
すべての設定（最大プライバシー）	すべての推奨レベルの設定を適用します。Windows やアプリの機能、セキュリティに影響する項目も含みます。

> **警告**
>
> 組み込みプロファイルは読み取り専用です。編集するには **複製** でコピーを作成します。特に **すべての設定（最大プライバシー）** を適用する前には、各項目の内容と影響を確認してください。

プロファイルを作成する

1. **プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)...** を開き、**プロファイルを作成** をクリックします。
2. **現在の設定**、**バッファされた変更**、**既存のプロファイルを複製** のいずれかを選びます。保留中の変更を使う場合は、先に編集モードで設定を変更してください。複製する場合は元のプロファイルを選んでください。
3. 名前と任意のメモを入力し、適用モードを選びます。
4. **プロファイルを作成** をクリックして保存します。保存しただけでは適用されません。

名前は必須で最大 64 文字、メモは最大 1,000 文字です。既存のカスタムプロファイルと同じ名前を指定すると、確認後に内容を置き換えられます。組み込みプロファイルは置き換えられません。保留中の変更を基に作る場合は未適用の変更が必要ですが、現在の設定を基にする場合には必要ありません。

プロファイルを管理・適用する

プロファイルを選ぶと設定と詳細が表示されます。カスタムプロファイルは、名前やメモの変更、複製、エクスポート、削除のほか、**モード変更** で適用モードを変更できます。組み込みプロファイルでは適用、複製、エクスポートが可能です。

プロフィールを応募 をクリックすると、選択した構成を適用し、使用中のプロファイルに設定します。すべての値がすでに一致していても、使用中のプロファイルとして選択できます。すでに使用中で適用可能な差異がない場合は適用操作が無効になります。ロックされた項目や現在利用できない項目はローカルで変更できません。

追加のみ はプロファイル内の値を適用し、ほかの項目は変更しません。**すべて置換** はそれに加えて、現在オンでプロファイルにない適用中の項目をオフにします。どちらも Windows の既定値に戻す操作ではありません。プロファイルのファイル形式をご覧ください。

使用中のプロファイルに差異がある場合は、カードに **確認** ボタンが表示されます。開いた一覧で現在値を取り込むか、新しいプロファイルとして保存できます。プロファイルとの差異を確認するをご覧ください。

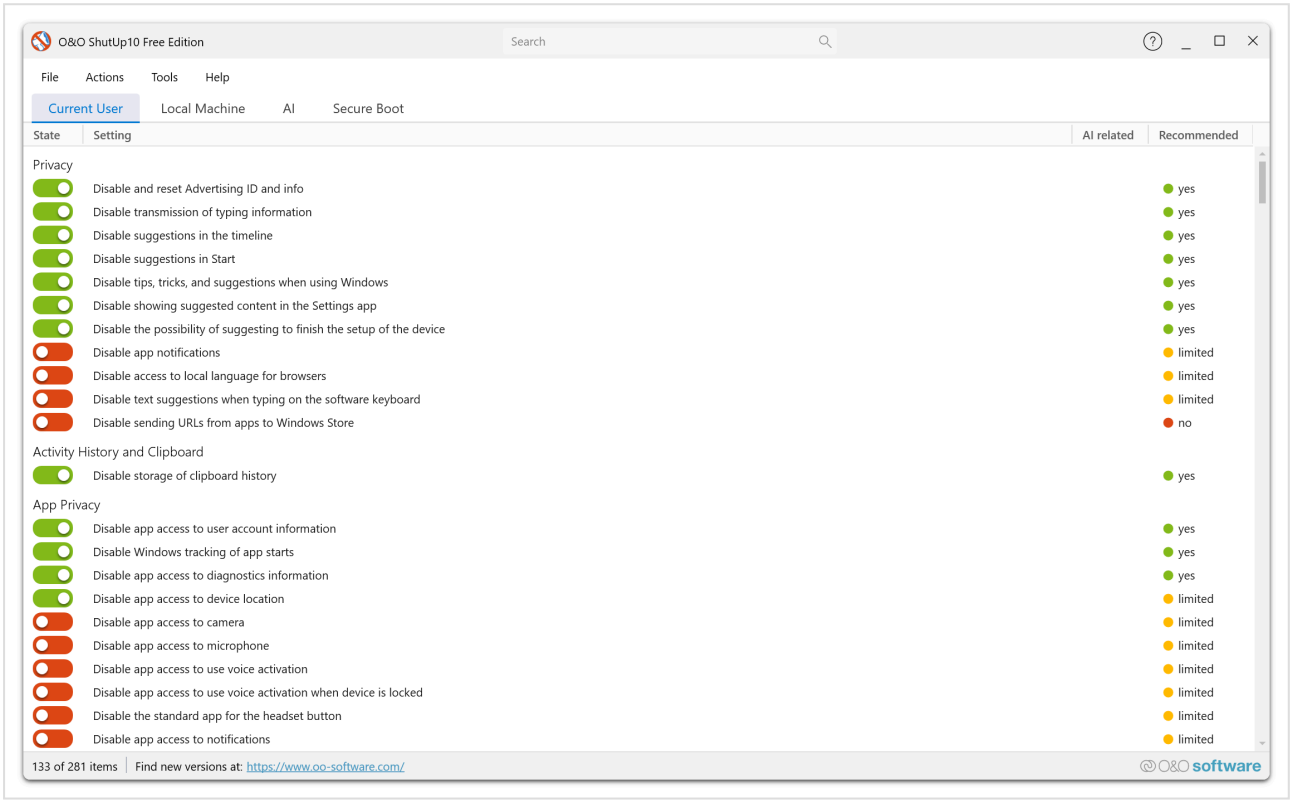
インポートとエクスポート

輸入 で `.pcfg` を一覧に追加し、使用するときは選んで適用します。**輸出** は選んだプロファイルを保存します。インポート時には新しい ID が割り当てられ、同名の項目があれば名前の末尾に番号が付きます。Free Edition の `.cfg` ファイルとは形式が異なります。

設定の適用は変更履歴に記録されます。履歴を元に戻しても、削除したプロファイルや置き換える前の保存内容は復元されません。

プライバシー設定

O&O ShutUp10 は 20 を超えるカテゴリーで約 300 項目の Windows プライバシー設定を管理します。以下は両エディションで利用できるカテゴリーと設定例です。すべてが推奨項目ではありません。実際に適用する前に、アプリで各項目の推奨レベル、適用範囲、利用条件、説明を確認してください。



概要

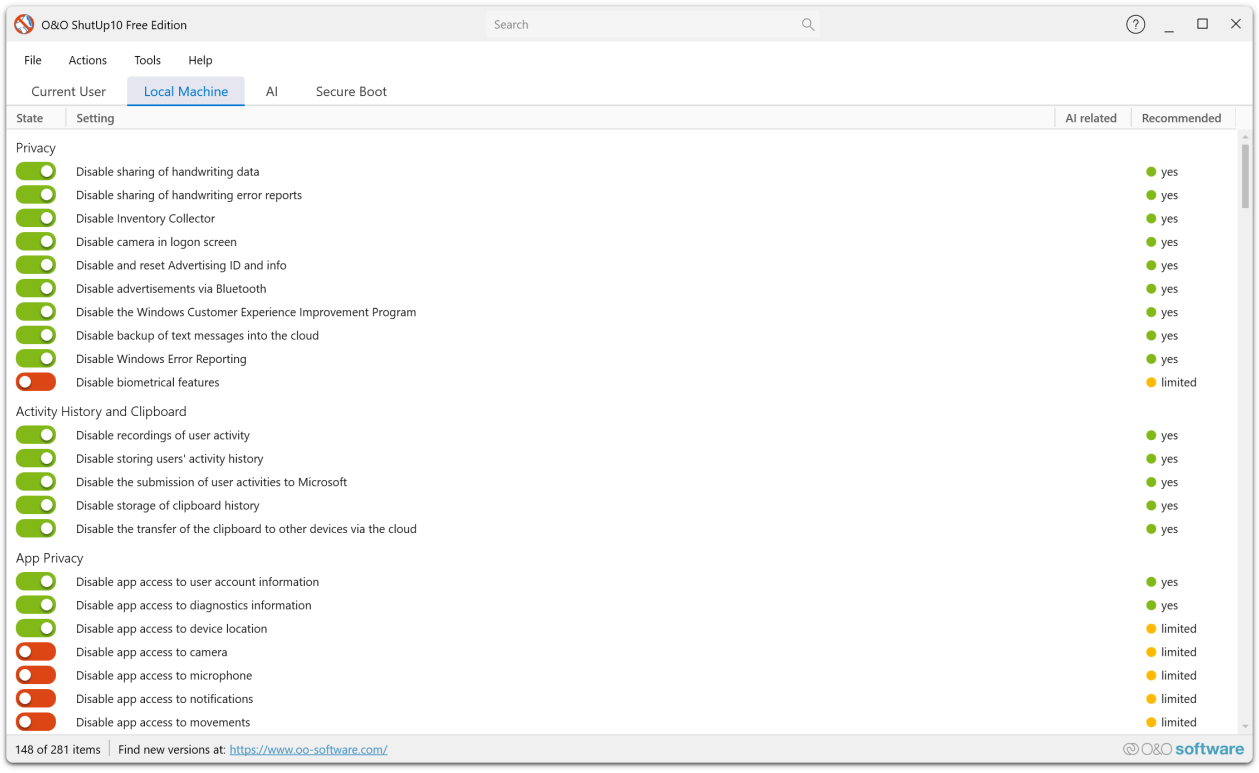
Windows 10 と Windows 11 では、プライバシーに関する設定が「設定」アプリ、グループポリシー、レジストリなどに分かれています。O&O ShutUp10 はそれらをカテゴリー別に整理し、各項目に推奨レベルを表示します。一つの画面で内容を確認して調整できます。

適用範囲：現在のユーザーとローカルマシン

変更を保存する Windows の場所によって、設定は 2 つのタブに分かれています。

タブ	レジストリの範囲	適用対象
現在のユーザー	`HKEY_CURRENT_USER`（HKCU）	現在サインインしているユーザーのみ。
ローカルマシン	`HKEY_LOCAL_MACHINE`（HKLM）	PC 全体、つまりすべてのユーザー。書き込みには管理者権限が必要です。

多くの設定は片方のタブのみにあります。一方、ユーザー単位と PC 全体の両方に値を持つ項目は**両方のタブ**に表示されます。O&O ShutUp10 は、異なるレジストリハイブで同じ設定を指定するこうした項目の対応関係を認識します。



どちらの設定が優先されますか？

同じ項目に両方の値を指定した場合は、通常、**PC 全体の値が現在のユーザーの値に優先します**。これは Windows のポリシーの基本動作です。PC 全体で保護を有効にすると、個別のユーザー設定にかかわらず、その保護が全ユーザーに適用されます。

PC 全体の設定を変えるとユーザー単位の値も変わりますか？

2 つの値は別々に保存されるので、PC 全体の値を変えても**確認なしにユーザー側の値を書き換えることはありません**。必要に応じて次の手順で値を合わせられます。

関連するユーザー側の値と異なるローカルマシン設定に切り替えると、**リンクされたシステム/ユーザー設定**の確認画面が開きます。通常は PC 全体の値が優先されることが説明され、競合を避けるために**ユーザー側も**

同じ値に合わせるかを確認できます。

- **はい** を選ぶと、現在のユーザーの値を PC 全体の値に合わせます。
- **いいえ** を選ぶと、ユーザー側の値を保持します。この場合も通常は PC 全体の値が優先されます。

> **注記**
>
> 確認が表示されるのは **ローカルマシン** の値を変更したときだけです。**現在のユーザー** タブで設定を変更しても、PC 全体のポリシーを書き換えることはありません。

利用条件、権限、書き込み結果

使用中の Windows のバージョンとエディションに実在する設定のみを表示・適用します。他の Windows バージョン向けの値をバックグラウンドで書き込むことはありません。

標準ユーザーでも、そのアカウントで書き込める範囲の設定を管理できます。PC 全体の設定を変更できない場合は **ローカルマシン** タブに理由が表示され、Free Edition を管理者として再起動するなどの対処を選べます。Premium Edition では、クライアントを昇格させずにサービスの権限で書き込めます。

鍵マークは、共通構成ファイルで強制された読み取り専用の設定です。それ以外の設定は書き込み後に値を読み直して確認します。Windows、グループポリシー、サービスによって変更が妨げられた場合は、スイッチを適用済みとせず、実際の原因を表示します。

> **参考**
>
> Windows Insider Program に参加している PC では、参加条件と競合する診断データ設定を検出します。通知で競合の理由を確認し、該当するプライバシー設定を無効にできます。

最近のバージョンで追加された設定

バージョン 3.2〜3.4 で次の項目が追加されました。表示される項目は使用中の Windows のバージョンとエディションによって異なります。

カテゴリー	追加された設定
Windows AI	Click to Do（C208）、設定エージェント（C209）、メモ帳の AI 機能（C210）、エクスプローラーの AI アクション（C211）を無効化。
位置情報	「デバイスを探す」を無効化（L008）。
検索	Microsoft アカウントのクラウドコンテンツ検索（M029）、職場または学校アカウントのクラウド検索（M030）、デバイスの検索履歴（M031）、PC 全体での Bing による Windows 検索の拡張（M103）を無効化。
Windows の提案	スタートメニューのヒント・ショートカット・新しいアプリのおすすめ（M032）、スタートメニューのアカウント通知（M033）、「設定」のアカウント通知（M034）を無効化。
テレメトリ	診断データからデバイス名を除外（U008）。
アプリのプライバシー	生成 AI とプレゼンス センシングへのアクセスを制限（P082–P085）。パスキー、Bluetooth デバイス、入力デバイス、保存済みパスキーの列挙、カスタムセンサー、シリアルポート、USB デバイス、Wi-Fi 情報、Wi-Fi Direct へのアクセスを PC 全体または現在のユーザー単位で制御（P086–P094、P186–P194）。
Office	Office の初回起動時の動画（F020）と Office へのサインイン（F021）を無効化。
Windows のプライバシー	クラウドからのコンシューマーアカウント状態に基づくコンテンツを無効化（P095）、クラッシュダンプの収集を制限（P096）、Microsoft のコンシューマー向け機能を無効化（P097）。
位置情報の上書き	デバイス自体の位置の代わりにリモート接続元の位置を使用することを禁止（P098）。
エクスプローラー	office.com のファイルをエクスプローラーに表示しない（P099）。

かっこ内の設定 ID は、アプリで ID を表示したり、**Ctrl+F** で設定を探したりする際に使用できます。

推奨レベル

各プライバシー設定には、次の推奨レベルがあります。

レベル	内容
推奨	多くのユーザーに適しており、主要な機能への悪影響はありません。
限定的	通常は安全ですが、一部の個人用設定に影響する場合があります。
おすすめしません	重要な機能に影響する可能性があります。結果を理解した場合にのみ適用してください。

> **ヒント**
>
> 初めて使う場合は **推奨** の設定から始めてください。個別の設定は後からいつでも調整できます。

設定カテゴリー

プライバシー

エラー報告、通知、提案など、Windows の基本的なプライバシー動作を制御します。個人情報の送信や不要な案内の表示を制限できます。

設定例

- **Windowsのエラー報告を無効にする** — 個人データを含むメモリダンプなど、クラッシュレポートが Microsoft に送信されることを防ぎます。
- **Windows使用時のヒント、トリック、提案を無効にする** — 通知領域やアクションセンターのポップアップを抑制します。
- **設定アプリでおすすめコンテンツの表示を無効にする** — Windows の「設定」に表示されるプロモーションを抑えます。
- **タイムラインのサジェストを無効にする** — タイムラインに表示される OneDrive などの広告をブロックします。
- **アプリの通知を無効にする** — タイル、ロック画面、デスクトップにアプリの通知を表示しないようにします。

テレメトリとユーザーの行動

製品改善のため Windows が Microsoft に送る診断データとテレメトリを管理します。これらの制限を有効にすると、送信される使用状況、クラッシュレポート、行動分析データを減らせます。

設定例

- **アプリケーションの遠隔測定を無効にする** — アプリの使用状況やクラッシュ情報の送信を停止します。
- **ユーザー体験のカスタマイズから診断データを無効にする** — Microsoft が診断データを個人向け設定に利用するのを防ぎます。
- **診断ログの収集を無効にする** — 詳細な診断ログの収集を停止します。
- **OneSettings構成設定のダウンロードを無効にする** — Microsoft から OneSettings 経由で構成を取得し、デバイスに適用することを防ぎます。

アプリのプライバシー

Windows アプリが利用できるシステム機能や個人データを制御します。音声による起動、カメラ、マイク、連絡先、カレンダー、メッセージなどが対象です。アクセス許可を制限すると、標準アプリや他社製アプリが取得できる情報を減らせます。

設定例

- **音声アクティベーションを使うためにアプリアクセスを無効にしてください** — 音声コマンドによるアプリの起動を防ぎます。
- **ユーザーアカウント情報へのアクセスを無効にしてください** — アプリがアカウント名やプロフィール画像を読み取れないようにします。
- **アプリの動画アクセスを無効にしてください** — アプリからビデオライブラリへのアクセスを禁止します。
- **デバイスのロック中にアプリが音声によるアクティブ化を使用することを無効にする** — デバイスのロック中にアプリが音声で起動しないようにします。

コルタナ（パーソナルアシスタント）

Cortana や入力の個人用設定を制御します。Cortana の学習や認識精度の向上を目的とする音声、手書き、キーボード入力データの収集を制限できます。

設定例

- **入力パーソナライズを無効にする** — 音声、手書き、キーボードの入力データが Microsoft に収集されるのを防ぎます。
- **タスクバーの検索ハイライトを無効にする** — Microsoft のサーバーと通信する検索のハイライトを表示しません。
- **検索でウェブ結果を表示しない** — Cortana の検索語句が Bing に送信されることを防ぎます。

ロケーションサービス

Windows とアプリによる現在地の利用を制御します。GPS、Wi-Fi、センサーを利用する位置情報サービスを無効にすると、そのサービスが得た位置情報が Microsoft や他社製アプリに渡らなくなります。

設定例

- **アプリによる位置情報へのアクセスを無効にする** — Windows アプリからデバイスの現在地を取得できなくします。
- **システムの位置と向きを特定するセンサーを無効にする** — GPS やジャイロセンサーを無効にします。タブレットの画面の自動回転に影響する場合があります。
- **システムの位置を特定する機能を無効にする** — システムにおける位置追跡をブロックします。
- **システムの位置を特定するスクリプト機能を無効にする** — スクリプトから現在地を検出できなくします。

検索

Web 検索との連携や検索履歴の収集など、Windows Search の動作を制御します。

設定例

- **BingによるWindows検索の拡張機能を無効にする** — スタートメニューに入力した検索語句が Bing に送られるのを防ぎます。

Windows設定の同期

Microsoft アカウントによるデバイス間の設定同期を制御します。有効にすると、Windows の設定、パスワード、言語やテーマなどが Microsoft のサーバーに保存されます。

設定例

- **すべての設定の同期を無効にする** — Windows 設定を Microsoft のサーバーに同期する機能を停止します。
- **認証情報（パスワード）の同期を無効にする** — パスワードが Microsoft のサーバー経由で保存・同期されることを防ぎます。
- **言語設定の同期を無効にする** — デバイス間で言語設定を共有しません。
- **デザイン設定の同期を無効にする** — テーマや外観設定の同期を停止します。

セキュリティ

Wi-Fi センサー、DRM、ステップ記録ツール、カスタマーエクスペリエンス向上プログラムなど、プライバシーにも関わる機能を調整します。主要なセキュリティ機能を維持しながら、Microsoft と共有する情報を減らすことができます。

設定例

- **連絡先のWiFiセンスを無効にする** — Wi-Fi センサーの関連設定で、連絡先のネットワークへの自動接続や、Microsoft のサーバーを介した Wi-Fi パスワードの共有を防ぎます。
- **ユーザー・ステップ・レコーダーを無効にする** — 画面の画像や入力テキストなど、ユーザー操作を記録するステップ記録ツールを停止します。
- **Windows Mediaデジタル著作権管理（DRM）のインターネットアクセスを無効にする** — DRM に関するインターネット通信をブロックします。DRM 保護されたメディアを使用しない場合にのみ適用してください。
- **Windowsカスタマー・エクスペリエンス向上プログラムの無効化** — ハードウェアやソフトウェアの使用状況を Microsoft に送信するのを停止します。

ウィンドウズ・アップデート

ピアツーピア配信、ドライバーの自動更新、オプション更新やプレビュー更新など、更新の取得・インストール方法を制御します。セキュリティ更新は重要ですが、一部の更新機能はデータを送信したり、必須でない内容をインストールしたりします。

設定例

- **ピアツーピア経由でWindows Updateを無効にする** — この PC がインターネット上の他の PC に更新データを配信するのを防ぎます。
- **オプションの更新プログラム（プレビュー更新プログラムを含む）を無効にする** — 開発途中のプレビュー更新などがインストールされないようにします。
- **アップグレードの延期を有効にする** — 機能アップグレードを延期し、適用時期を調整できるようにします。

Microsoft Edge（Chromiumベースの新バージョン）

Chromium ベースの Microsoft Edge の設定です。データ収集、自動入力、クラウド連携、ブラウザー内のプロモーションなどを管理します。

設定例

- **Webからブラウザへの自動サインインを無効にする** — Microsoft のウェブサイトにサインインしたときに、ブラウザーにも自動でサインインすることを防ぎます。
- **ビジュアル検索を無効にする** — ビジュアル検索用の画像が Bing に送られるのを防ぎます。
- **フォームのテキスト予測を無効にする** — ブラウザーのフォームでクラウドによる入力予測を使わないようにします。
- **クラウドベースのタブサービスを無効にする** — タブのデータを Microsoft のクラウドサービスに同期しません。
- **Microsoft Rewardsを非表示にする** — ブラウザーで Microsoft Rewards の案内を表示しません。

Microsoft Edge（レガシーバージョン）

Chromium を使わない旧 Microsoft Edge の設定です。フォームの入力候補、検索履歴、Web 追跡、Edge バーを管理します。

設定例

- **ウェブでのトラッキングを無効にする** — 旧 Edge で Do Not Track（追跡拒否）の意思を示す信号を送信します。
- **フォームの提案を無効にする** — フォーム入力の記憶と候補の表示を停止します。
- **検索履歴を表示しない** — 過去に入力した検索語句を Edge に表示しません。
- **エッジバーを無効にする** — デスクトップに重ねて表示される Edge バーを非表示にします。

Microsoft Office

Microsoft Office のプライバシーとテレメトリに関する設定です。接続エクスペリエンス、診断データ、フィードバックによる Microsoft への使用情報の送信を制御します。

設定例

- **コンテンツ分析でコネクテッド・エクスペリエンスを無効にする** — 入力したデータを分析のために Office から Microsoft のクラウドに送信するのを防ぎます。
- **診断データの送信を無効にする** — Office による使用状況の診断データの送信を停止します。
- **Microsoft Officeのアンケートを無効にする** — Office 内のアンケートの案内を抑制します。
- **カスタマー・エクスペリエンス向上プログラムへの参加を無効にする** — Office の利用状況を Microsoft に送るのを停止します。

Microsoft 365

Microsoft 365 のクラウド連携機能やサービスに固有のプライバシー設定です。

Windowsエクスプローラ

OneDrive との連携、スタートメニューの提案、最近開いた項目の記録など、エクスプローラーに関するプライバシー設定を管理します。

設定例

- **Windowsエクスプローラ/OneDriveの広告を無効にする** — エクスプローラーの広告と同期プロバイダーの通知を非表示にします。
- **Microsoft OneDriveを無効にする** — Microsoft のクラウドストレージとの連携を無効にします。
- **ログイン前にOneDriveのネットワークへのアクセスを無効にする** — ユーザーがサインインする前に OneDrive が同期するのを防ぎます。
- **スタートメニューにアプリの候補を表示しないようにする** — スタートメニューにアプリの広告を表示しません。

ロック画面

Windows のロック画面に表示する情報を制御します。通知、広告、Microsoft と通信する Windows スポットライトのコンテンツなどが対象です。

設定例

- **ロック画面に楽しい事実、ヒント、トリックなどを表示しないようにする** — ロック画面に広告やスポンサー付きコンテンツを表示しません。
- **ロック画面の通知を無効にする** — サインイン前の画面に個人的なアプリ通知が表示されないようにします。
- **Windowsスポットライトを無効にする** — Microsoft が選んだ画像やコンテンツをロック画面に表示しません。

タスクバー

Microsoft のサーバーと情報をやり取りするウィジェット、検索ボックス、ニュースフィード、ソーシャル機能など、タスクバーのプライバシーを管理します。

設定例

- **Windowsエクスプローラでウィジェットを無効にする** — Windows 11 のウィジェットが Microsoft のサーバーと通信しないようにします。
- **タスクバーの検索ボックスを無効にする** — Microsoft に検索語句を送信するタスクバーの検索ボックスを非表示にします。
- **タスクバーのニュースや興味を無効にする** — 閲覧状況や興味に関する情報を送信するニュースフィードを非表示にします。
- **タスクバーのPeopleアイコンを無効にする** — タスクバーから連絡先用の People 機能を非表示にします。

活動履歴とクリップボード

アプリやデバイス間の操作履歴とクリップボード履歴を制御します。Windows は操作を記録したり、クラウドを介して共有するためにクリップボードの内容を保存したりできます。

設定例

- **マイクロソフトへのユーザーアクティビティの送信を無効にする** — アクティビティデータを Microsoft に送信しません。
- **ユーザーの活動履歴の保存を無効にする** — Windows がアプリの使用履歴を記録するのを防ぎます。
- **クリップボード履歴の保存を無効にする** — コピーした情報が履歴に残るのを防ぎ、機密情報が残るリスクを減らします。
- **クリップボードのクラウド経由での他のデバイスへの転送を無効にする** — Microsoft のサーバーを介したデバイス間のクリップボード同期を停止します。

マイクロソフトディフェンダーとマイクロソフトスパイネット

Defender のサンプル送信や SpyNet への参加など、脅威分析のために Microsoft に共有する情報を管理します。

設定例

- **マイクロソフトへのデータサンプルの提出を無効にする** — Defender がクラウド分析用のファイルサンプルを送信しないようにします。
- **Microsoft SpyNetメンバーシップを無効にする** — テレメトリネットワーク Microsoft SpyNet への参加を停止します。
- **マルウェア感染情報の報告を無効にする** — マルウェアの検出情報を Microsoft に報告しないようにします。

> **警告**
>
> 代替のウイルス対策製品が有効で定期的に更新されている場合を除き、Microsoft Defender 自体を無効にしないでください。

Copilot & Windows AI

Microsoft Copilot、専用キーによる起動、ペイントなどの標準アプリの AI 機能を制御します。

設定例

- **Windows Copilotを無効にする** — Windows の Copilot アシスタントを無効にします。
- **タスクバーからCopilotボタンを無効にする** — タスクバーの Copilot ボタンを非表示にします。
- **キーボードのWindows Copilotキーを無効にする** — 専用の Copilot キーを押してもアシスタントが起動しないようにします。
- **マイクロソフトペイントのイメージクリエーターを無効にする** — ペイントの AI 画像生成を無効にします。

- **マイクロソフト・ペイントでAIによる画像塗りつぶしを無効にする** — ペイントの生成塗りつぶしを無効にします。

モバイル機器

スマートフォン連携や関連通知など、PC とモバイルデバイスの連携を管理します。

設定例

- **Phone Linkアプリを無効にする** — スマートフォン連携（Phone Link）アプリを無効にします。
- **PCとモバイル機器の接続を無効にする** — PC とスマートフォンを接続する機能を制限します。
- **モバイル機器へのアクセスを無効にする** — モバイルデバイスへのアクセスをブロックします。
- **Windowsでモバイルデバイスを使用する際の提案表示を無効にする** — モバイルデバイス連携を勧める通知を非表示にします。

その他

フィードバックの依頼、アプリの自動インストール、ネットワーク接続確認など、ほかのカテゴリーに属さない項目を扱います。

設定例

- **フィードバックリマインダーを無効にしてください** — 定期的なフィードバックの依頼と、関連する診断データの送信を停止します。
- **推奨されるWindowsストアアプリの自動インストールを無効にする** — おすすめのアプリが通知なしにインストールされることを防ぎます。
- **Windows使用中のヒント、トリック、提案を無効にする** — Windows に表示されるプロモーションのポップアップや提案を抑えます。
- **鍵管理サービスのオンライン認証を無効にする** — Microsoft との定期的なライセンス認証確認をブロックします。影響を理解している場合にのみ使用してください。

ゲーム

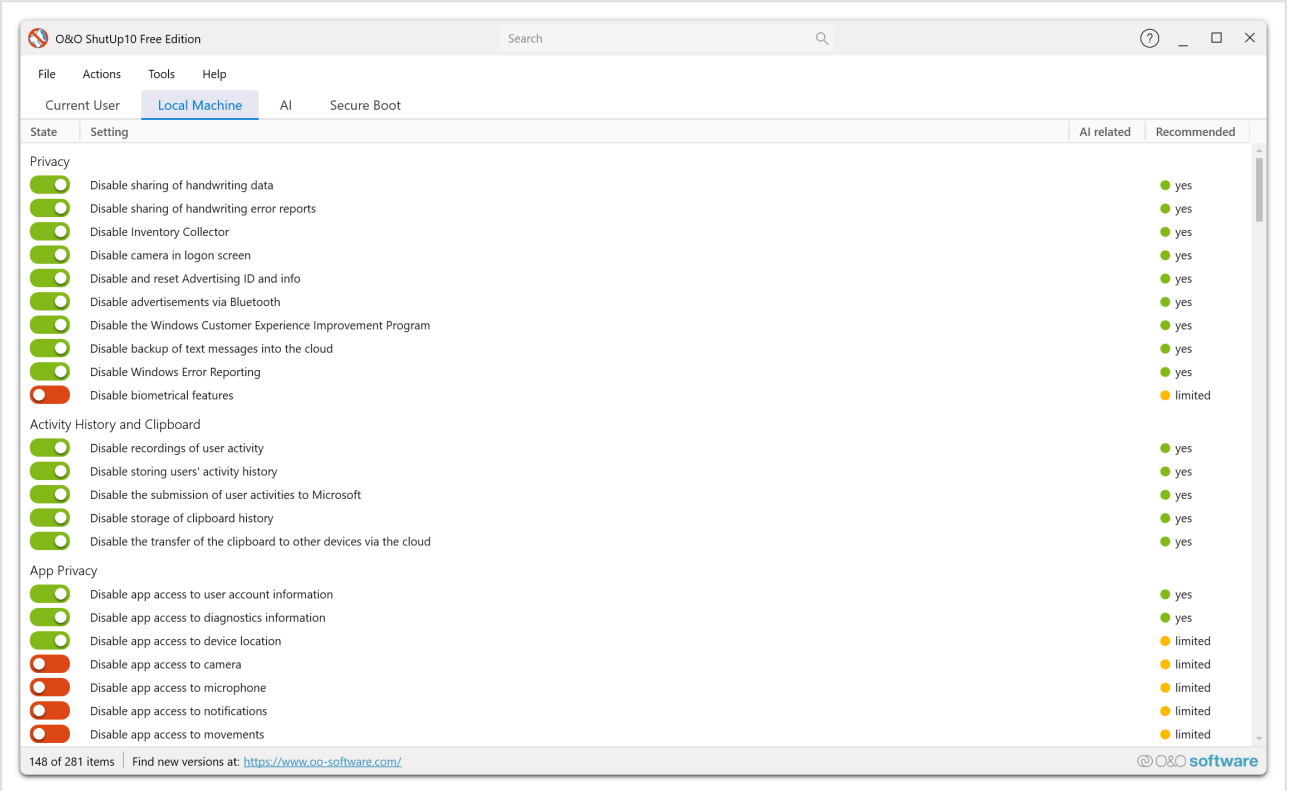
データ収集や意図しない動作に関わるゲーム機能を制御します。

設定例

- **XboxのゲームバーとゲームDVRを無効にしてください** — Xbox Game Bar、Game DVR、アプリのキャプチャ機能を無効にし、不要な Microsoft Store の案内を防ぎます。

テレメトリの制御

どちらのエディションでも、Windows が Microsoft に送るテレメトリや診断データを管理できます。



概要

Windows は製品の改善や問題の解決のため、診断データや使用状況データ（テレメトリ）を収集し、Microsoft に送信します。収集される量は、システムに設定された収集レベルによって異なります。

O&O ShutUp10 を使用すると、Windows が送信するテレメトリデータを制限できます。

主なテレメトリ設定

診断データの収集レベル

Windows には複数の収集レベルがあります。O&O ShutUp10 では必要最低限のレベルに設定し、Microsoft に送るデータを減らせます。

個人に合わせたエクスペリエンス

Microsoft は診断データを使って、利用者に合わせたヒント、広告、おすすめを表示します。無効にすると、診断データがこうした個人向けの表示に使われなくなります。

フィードバックの頻度

Windows が意見を求める頻度を指定できます。依頼を完全に無効にすることもできます。

診断データ ビューアー

Windows には診断データ ビューアーが用意されています。診断データの保存を最小限にしたい場合は、ビューアーにデータを渡す収集処理を無効にできます。

エラー報告

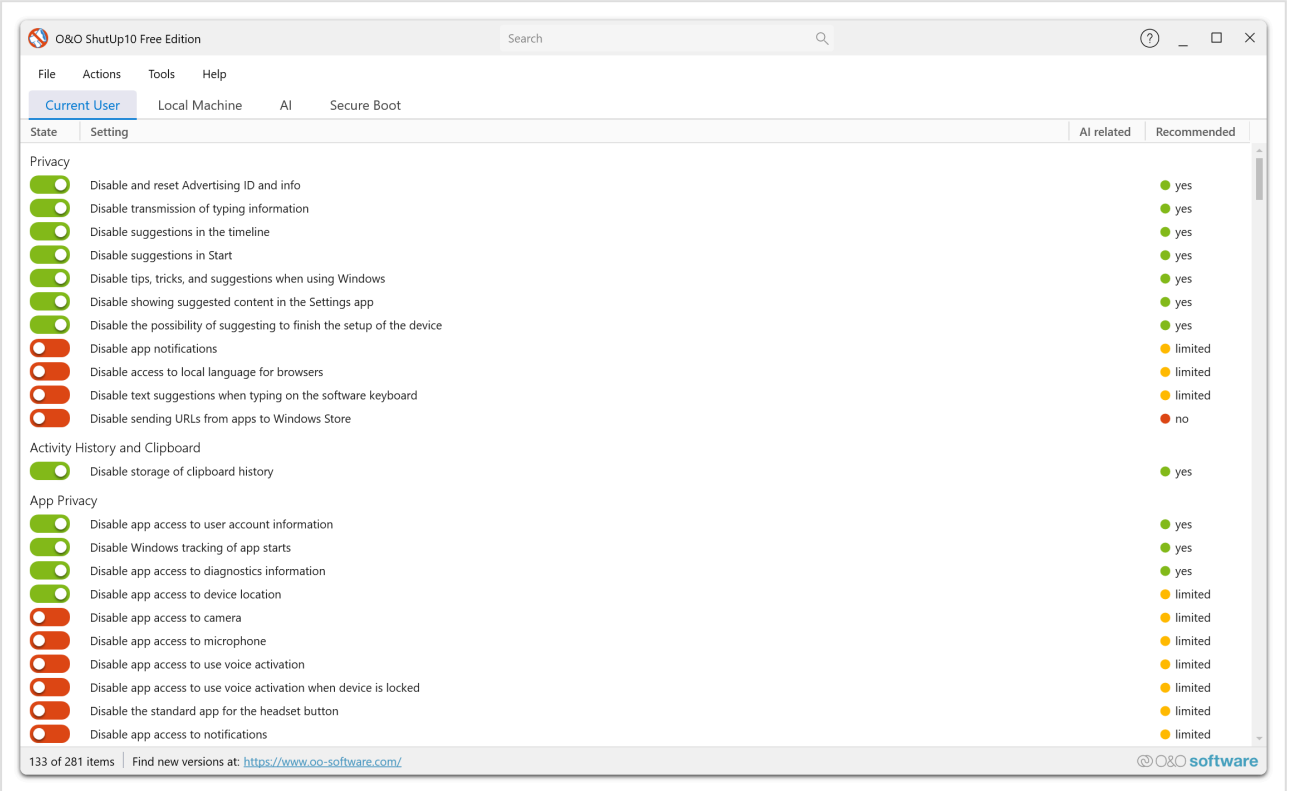
Windows エラー報告はクラッシュやエラーの情報を Microsoft に送信します。この情報を収集・送信するかどうかを指定できます。

注記

収集量を最小にするとプライバシー保護の効果が高まりますが、その構成に固有の問題を Microsoft が特定・修正しにくくなる場合があります。

位置情報サービス

Free Edition と Premium Edition のどちらでも、Windows とアプリによる位置情報の利用を制御できます。



概要

Windows は、天気、地図、場所に応じたリマインダーなどに位置情報を利用します。これらのサービスを利用すると、現在地が Microsoft やサードパーティのアプリに送信されることがあります。

設定できる項目

システム全体の位置情報へのアクセス

システム全体で位置情報へのアクセスを無効にできます。無効にすると、アプリやサービスは Windows からデバイスの位置情報を取得できなくなります。

Windowsのジオロケーションサービスを無効にする（L005） の動作は OS のバージョンによって異なります。Windows 10 から Windows 11 23H2 までは、サービスのスタートアップ設定を変更するため、再起動が必要です。Windows 11 24H2 以降では、そのバージョンに対応する方式を使用します。

アプリによる位置情報へのアクセス

現在のユーザーまたは PC 全体の位置情報設定で、Windows を介したアプリのアクセスを制限できます。個々のアプリに許可を与える場合は、Windows の「設定」を使用します。

位置情報のオーバーライドを無効にする（P098） を有効にすると、Windows、アプリ、サービスは、このデバイスの位置の代わりにリモート接続元の位置を使えなくなります。アプリが位置情報のアクセスポリシーを回避できるかどうかを制御する項目ではありません。

位置履歴

Windows はデバイスが訪れた場所の履歴を保存します。O&O ShutUp10 では、この履歴の収集を無効にできます。

デバイスの検索

「デバイスを探す」を無効にする（L008） を有効にすると、Microsoft のデバイス検索サービスは位置情報を使用・保存できなくなります。PC の紛失時に「デバイスを探す」を使用する場合は、このプライバシー設定を有効にしないでください。

ジオフェンシング

一部のアプリは、指定した範囲に出入りしたときに通知などの動作を開始します。この機能は無効にできます。

位置情報を利用する広告

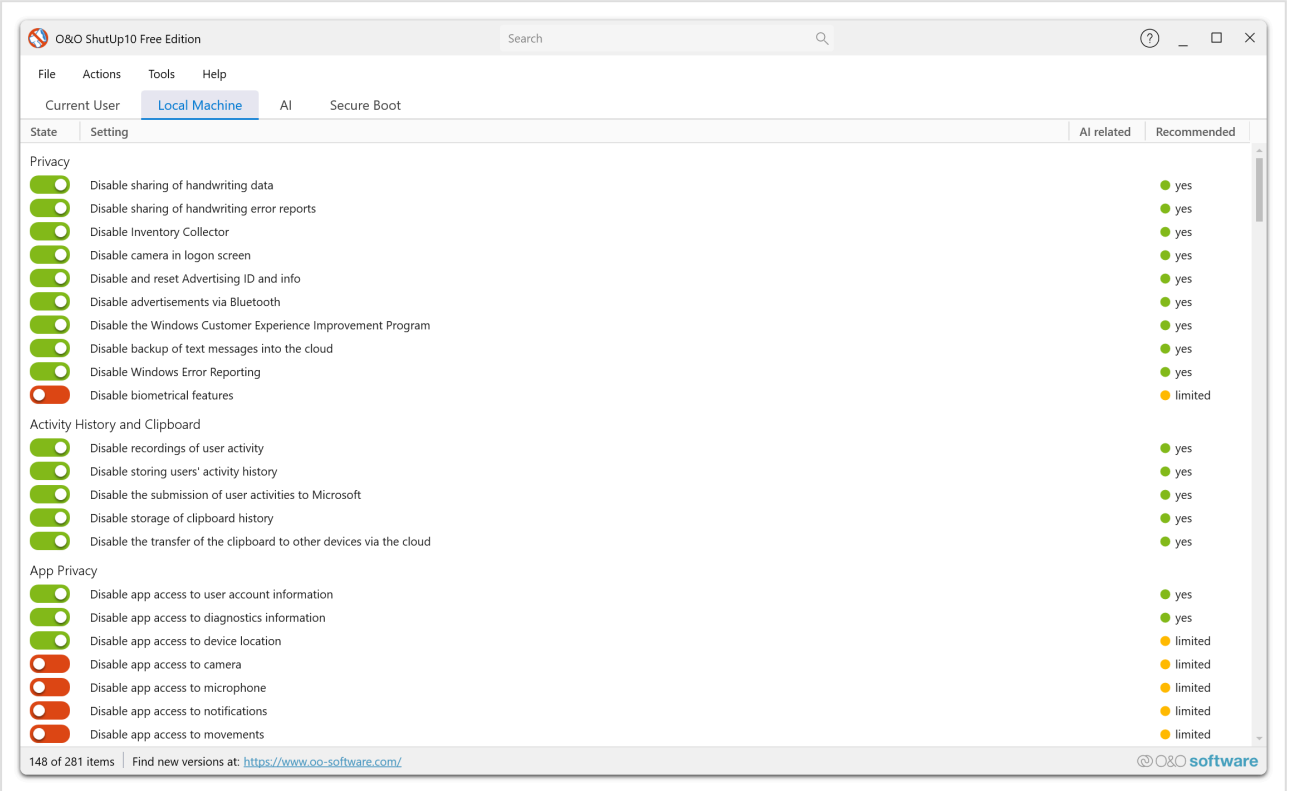
広告ネットワークは、現在地に合わせた広告の配信に位置情報を利用する場合があります。位置情報の広告利用を防ぐことができます。

ヒント

地図や天気ウィジェットなど位置情報を使うアプリを利用せず、プライバシーを優先したい場合は、位置情報サービス全体を無効にすることをお勧めします。

Windows Update の設定

Free Edition と Premium Edition のどちらでも、Windows Update の動作を調整できます。



概要

Windows Update はシステムの安全性と安定性を保つために欠かせません。一方、ほかの PC と更新プログラムを共有する機能や、ドライバーの自動ダウンロードなど、プライバシーに関係する機能もあります。

設定できる項目

更新プログラムの配信の最適化

Windows は、ダウンロードした更新プログラムをローカルネットワークやインターネット上のほかの PC と共有できます（ピアツーピア配信）。共有を無効にするか、ローカルネットワークのみに制限できます。

ドライバーの自動更新

Windows Update は Microsoft からドライバーをダウンロードし、自動でインストールすることがあります。自動更新を許可するか、手動で更新するかを選べます。

Windows Update によるドライバーの自動更新を無効にする（W010） は、ドライバーの取得元から Windows Update を除外するポリシーを適用します。Windows Home でも有効なこのポリシーを使用し、Pro 以上でしか評価されない Windows Update for Business の値は Home に書き込みません。そのため、Windows に上書きされることがある **デバイスのインストール設定** の値には依存しません。

アプリの自動更新

Microsoft Store は、バックグラウンドでアプリを自動更新します。O&O ShutUp10 でこの動作を制御できます。

Windows の自動更新

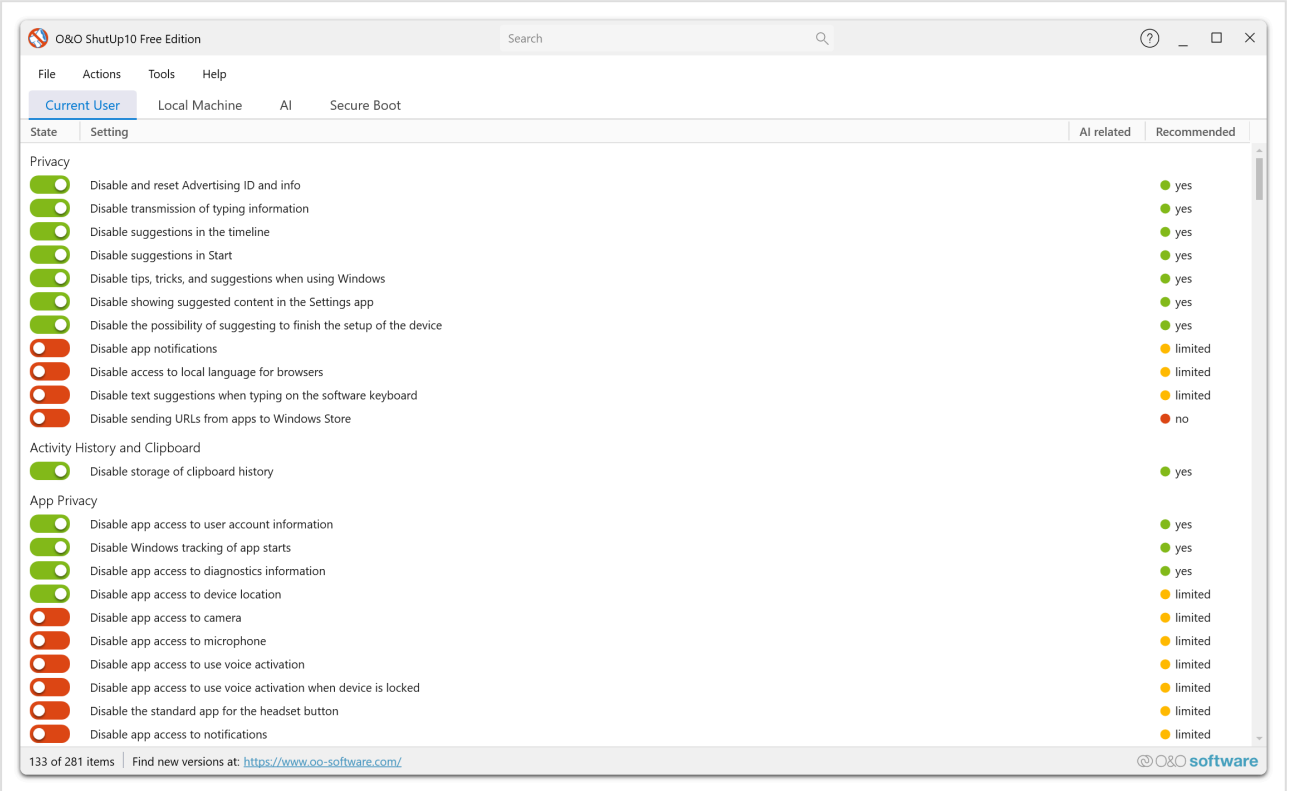
更新プログラムのダウンロード方法やインストールのスケジュールを調整できます。

警告

Windows Update の機能を無効にすると、重要なセキュリティ更新プログラムが適用されないおそれがあります。別の更新方法を確保してから変更してください。

Cortana と検索

Free Edition と Premium Edition のどちらでも、Cortana と Windows Search の動作を調整できます。



概要

Cortana や Windows Search は、検索語句、音声データ、利用状況を Microsoft に送ることがあります。O&O ShutUp10 では、こうした機能を制限または無効にできます。

設定できる項目

スタートメニューの Web 検索

Windows は既定で、スタートメニューに入力した検索語句を Bing に送ります。Web 検索結果を無効にすると、PC 内だけを検索できます。

Cortana の音声による起動

Cortana は音声コマンドを待ち受けます。音声による起動を無効にすると、この機能が周囲の音声を処理しなくなります。

検索履歴

Windows は、次回以降の検索結果を改善するために検索履歴を保存します。履歴の収集は無効にできます。

クラウド検索

Windows Search は、OneDrive や Outlook などのクラウドサービスの内容も検索できます。検索対象を PC 内のコンテンツだけに制限できます。

検索インデックス

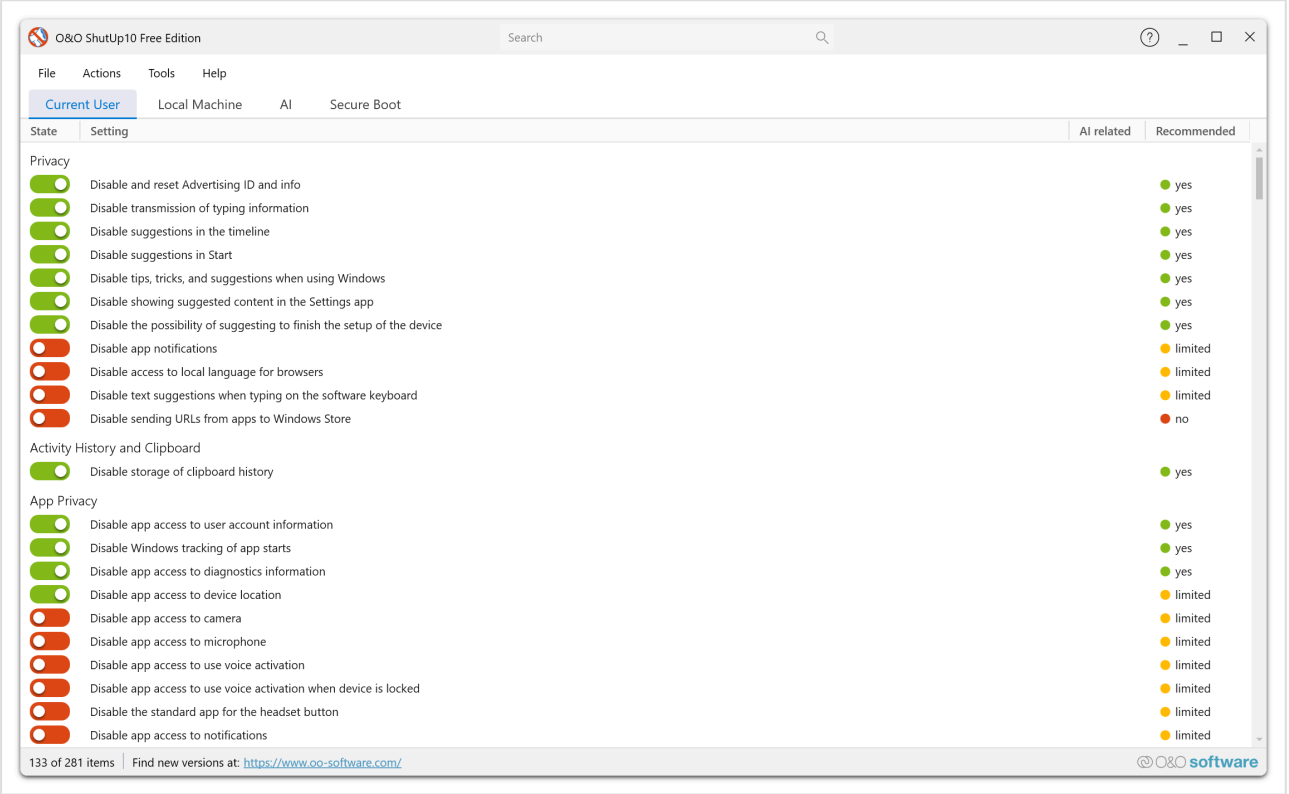
インデックスを作成するフォルダーやコンテンツの種類は、Windows の「設定」で選びます。O&O ShutUp10 には、インデックスの対象を編集する機能はありません。

ヒント

スタートメニューの Web 検索を無効にすると、ローカルで検索するたびに語句が Microsoft のサーバーに送られるのを防げます。よく利用されるプライバシー設定の一つです。

アプリのアクセス許可

両エディションで、Windows アプリのアクセス許可をスイッチで制限できます。適用範囲は項目によって異なり、現在のユーザーだけが対象のものと PC 全体が対象のものがあります。個々のアプリにアクセスを許可する場合は、Windows の「設定」を使用します。



設定できる項目

アプリのプライバシー カテゴリーでは、カメラ、マイク、連絡先、カレンダー、通話履歴、メール、メッセージ、通知、アカウント情報などへのアクセスを制限できます。ファイルやフォルダー、無線機能、各種デバイスに加え、生成 AI やプレゼンス センシングなど新しい Windows 機能の設定もあります。利用できる項目は Windows のバージョンによって異なります。

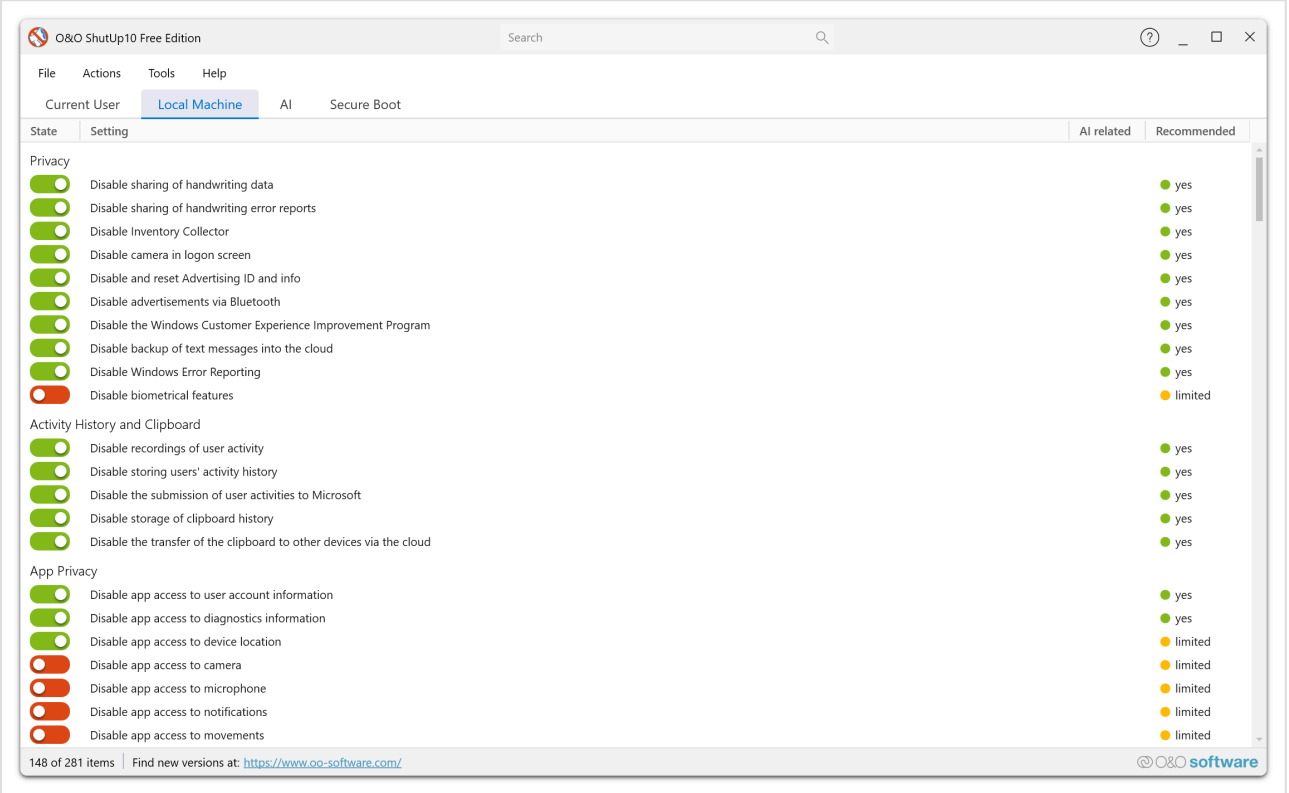
1. **現在のユーザー** または **ローカルマシン** タブを開き、**アプリのプライバシー** で目的のアクセス許可を探します。
2. 項目の説明と推奨レベルを確認します。
3. アクセスを制限するには、対応するスイッチをオンにします。記録済みの変更を取り消す方法は変更履歴をご覧ください。

注記

アクセスを制限すると、アプリが対象の機能を使えなくなることがあります。すべてのデスクトップアプリが Windows の同じアクセス許可に従うわけではありません。

エクスプローラーと広告

Free Edition と Premium Edition のどちらでも、エクスプローラーの動作と広告に関する設定を変更できます。



概要

エクスプローラーや Windows シェルには、広告、提案、案内を表示する機能があります。O&O ShutUp10 を使うと、不要な表示を止めることができます。

設定できる項目

同期プロバイダーの通知

OneDrive などの同期プロバイダーがエクスプローラーに表示する通知を無効にできます。

ヒントと提案

Windows の機能のヒントやおすすめのアプリが表示されることがあります。これらの案内は無効にできます。

スタートメニューの提案

スタートメニューにおすすめのアプリとして表示される Microsoft Store の広告を無効にできます。

ロック画面の広告

ロック画面には、ヒント、使い方の案内、広告が表示されることがあります。選んだ背景だけを表示するように設定できます。

タイムラインとアクティビティ履歴

Windows のタイムラインは、複数のアプリやデバイスをまたいでユーザーのアクティビティを記録します。履歴の収集とタイムライン機能を無効にできます。

OneDrive との連携

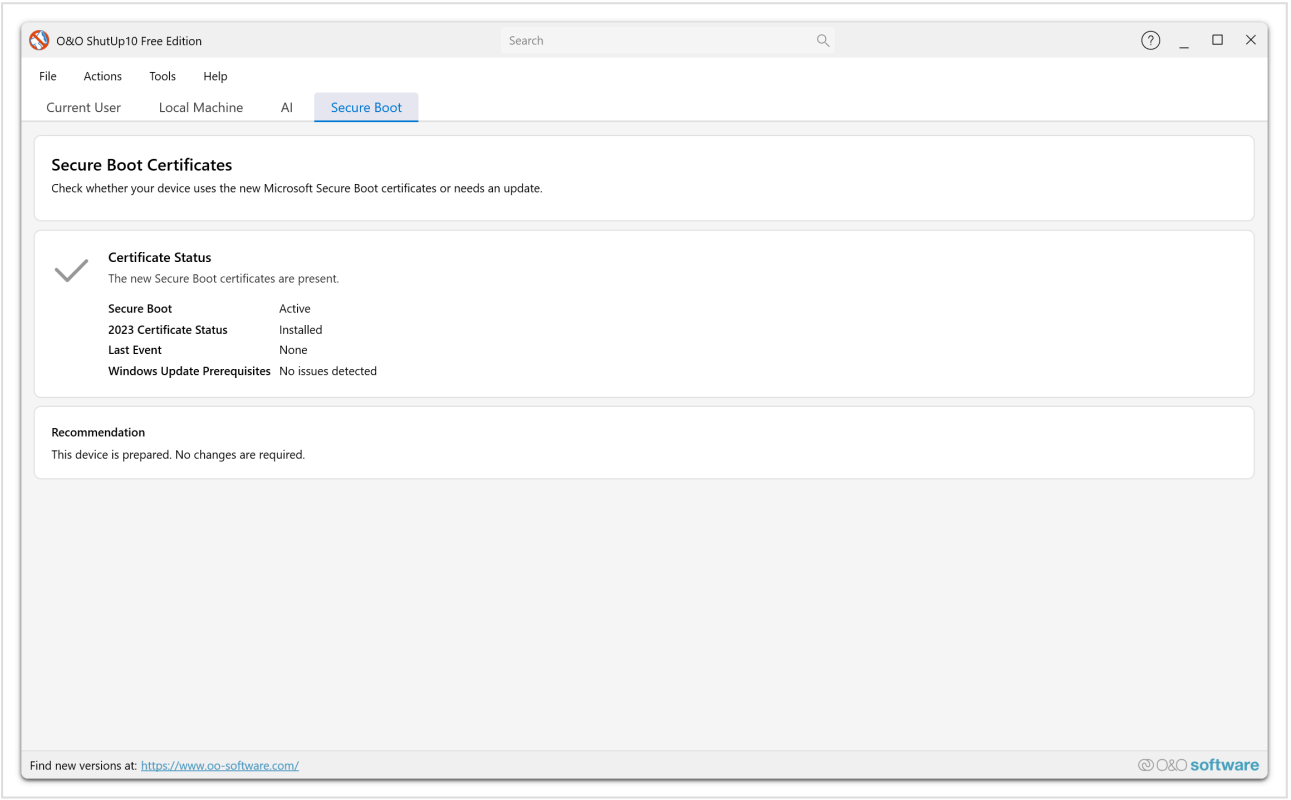
OneDrive の自動起動や案内の表示など、エクスプローラーと OneDrive の連携を調整できます。

ヒント

エクスプローラーの広告を無効にしても通常の機能には影響しないため、すべてのユーザーに推奨されます。

セキュリティ設定

Free Edition と Premium Edition のどちらでも、Windows のセキュリティに関する一部の設定を調整できます。



概要

Windows のセキュリティ機能には、プライバシーにも関係するものがあります。たとえば、クラウドによるマルウェア検出ではファイル情報が Microsoft に送信されます。また、テレメトリデータを送るセキュリティ機能もあります。O&O ShutUp10 では、こうした項目を個別に設定できます。

設定できる項目

Windows Defender のクラウド保護

Windows Defender は保護の精度を高めるため、ファイルのサンプルや検出情報を Microsoft のクラウドに送る場合があります。ファイル情報を外部に送らないようにしたい場合は、この機能を調整できます。

サンプルの自動送信

Windows Defender は、不審なファイルのサンプルを分析のために Microsoft に自動送信することがあります。O&O ShutUp10 では自動送信を無効にできます。

Windows セキュリティの通知

「Windows セキュリティ」（旧 Windows Defender セキュリティ センター）から表示される通知を制御できます。

無線機能

NFC、ワイヤレスディスプレイ、モバイルブロードバンド、Wi-Fi Direct を無効にしたり、Bluetooth のペアリングを制限したりできます。特に **WiFi Directを無効にする（S119）** を有効にすると、ワイヤレスディスプレイ（Miracast）、近距離共有、Wi-Fi Direct 経由の印刷も利用できなくなります。Wi-Fi アダプターによっては、モバイルホットスポットも使えなくなります。アプリからのアクセスだけを制限したい場合は、アプリのアクセス許可にある Wi-Fi Direct の設定を使用してください。

警告

セキュリティ設定を変更すると、Windows Defender などの保護機能が低下する場合があります。代替の保護手段がある場合にのみ変更してください。

設定ダイアログ

メインメニューの **ツール(T) → 設定(S)...** で、アプリの環境設定をタブ別にまとめたダイアログが開きます。

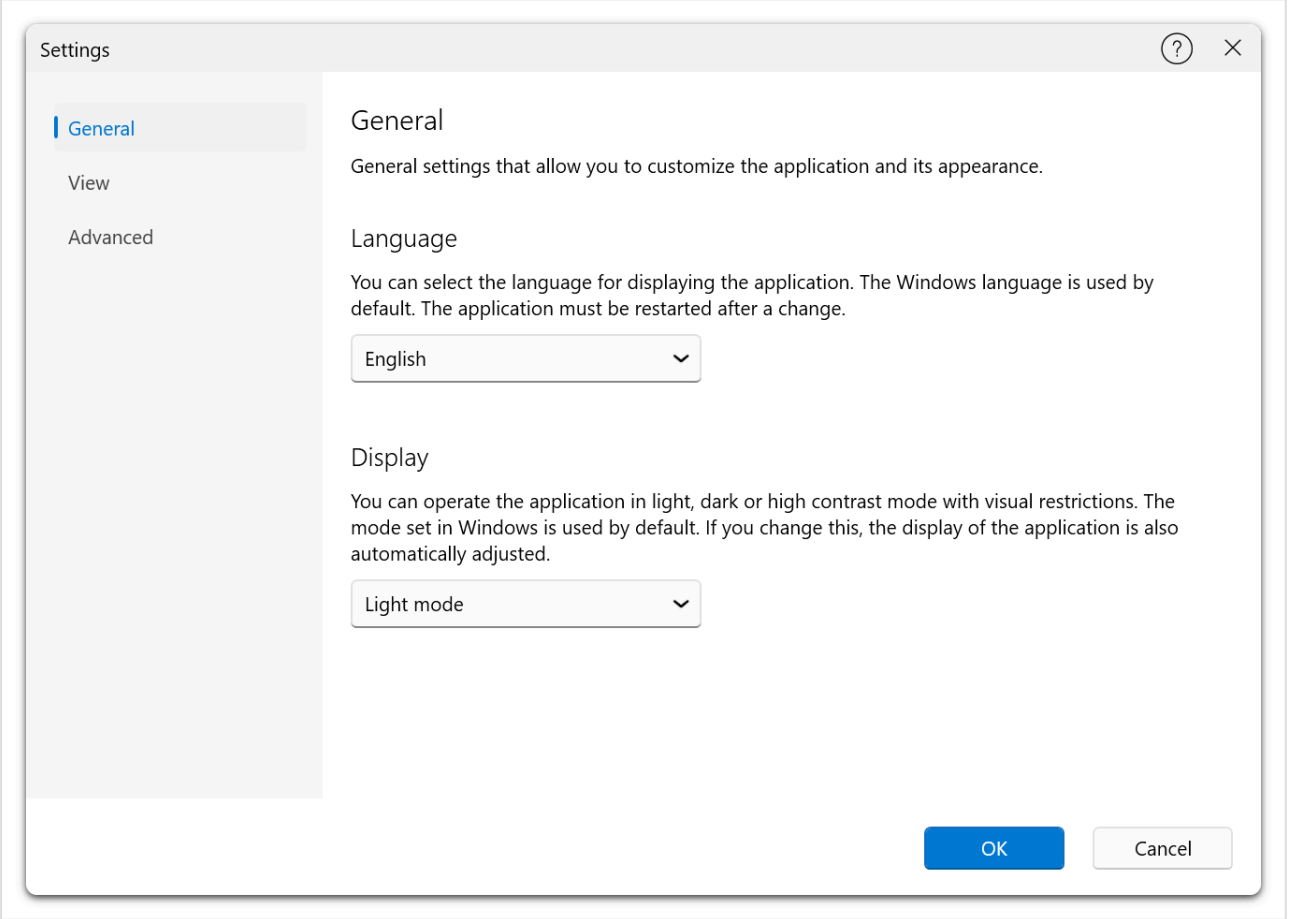
概要

以前は複数のメニューに分かれていた環境設定をここで変更できます。**OK** をクリックすると変更が保存されます。テーマや配色の変更はその場で画面に反映されます。

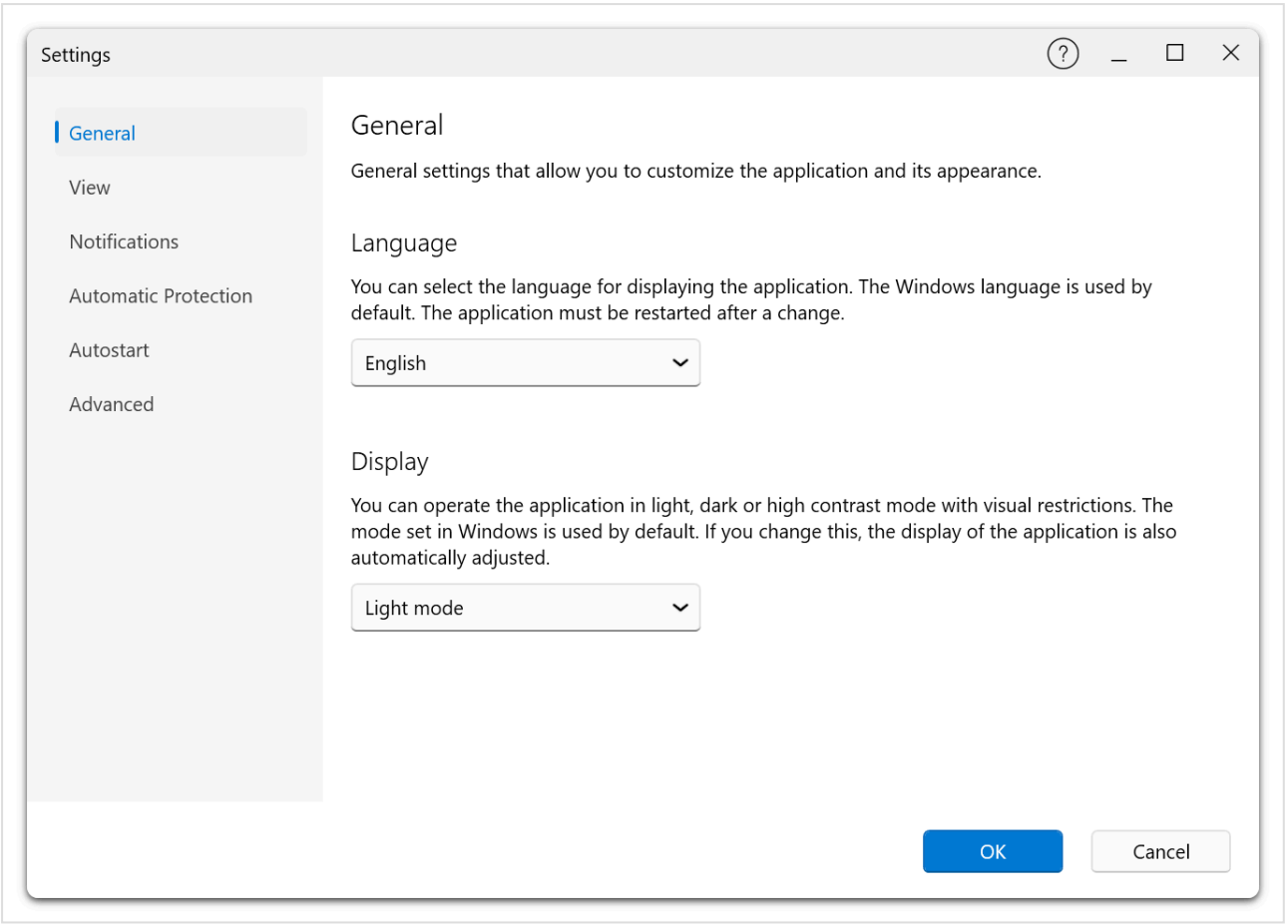
「全般」タブ

表示言語や画面の外観を設定します。

Free Edition



Premium Edition



表示言語

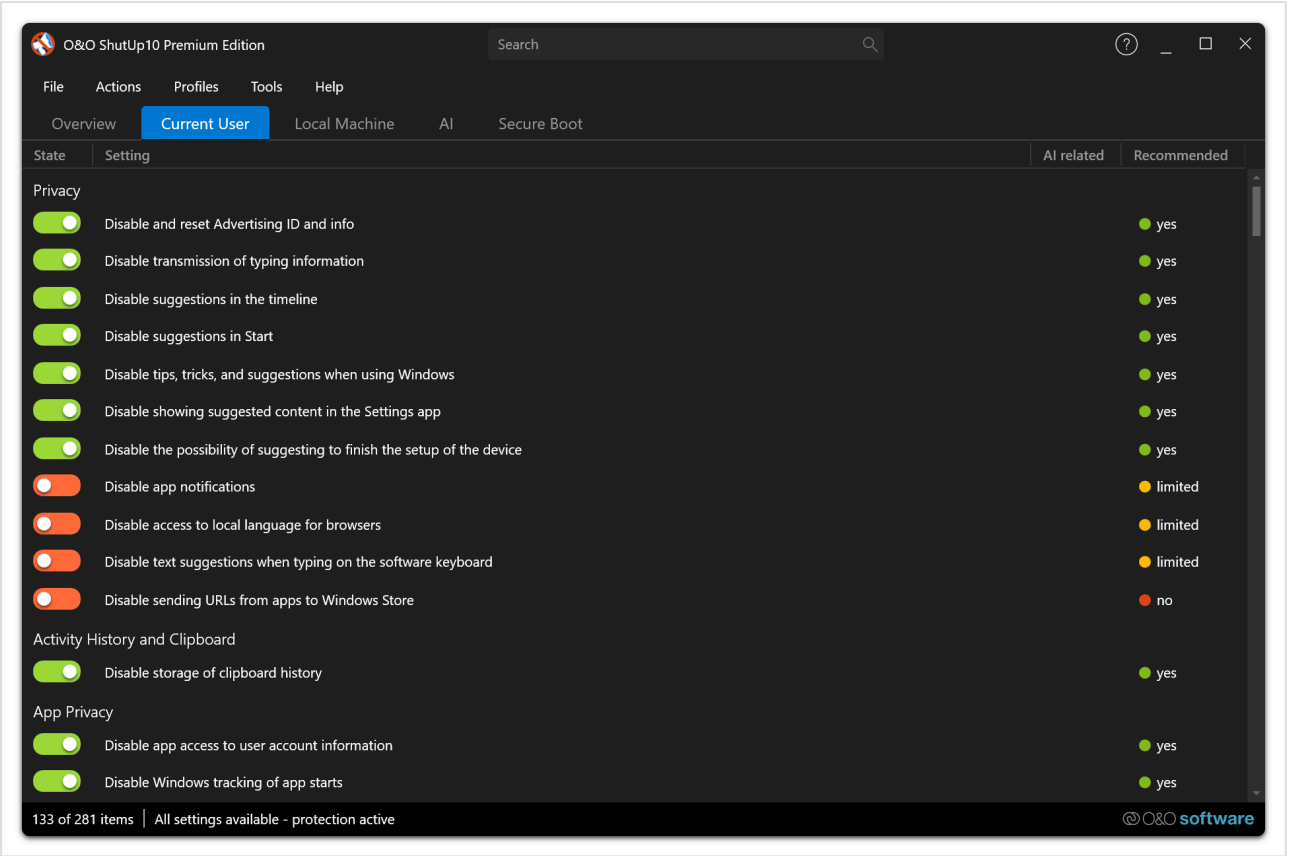
アプリの表示言語を選びます。日本語のほか、英語（既定）、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ロシア語、中国語などが利用できます。変更を反映するには再起動が必要です。

アプリの表示モード

アプリのテーマを選びます。

選択肢	動作
システム	Windows のライトまたはダークの設定に従います。
ライト(L)	常に明るい配色で表示します。
ダーク(D)	常に暗い配色で表示します。
ハイコントラスト（黒）	黒を背景にした高コントラスト表示です。
ハイコントラスト（白）	白を背景にした高コントラスト表示です。

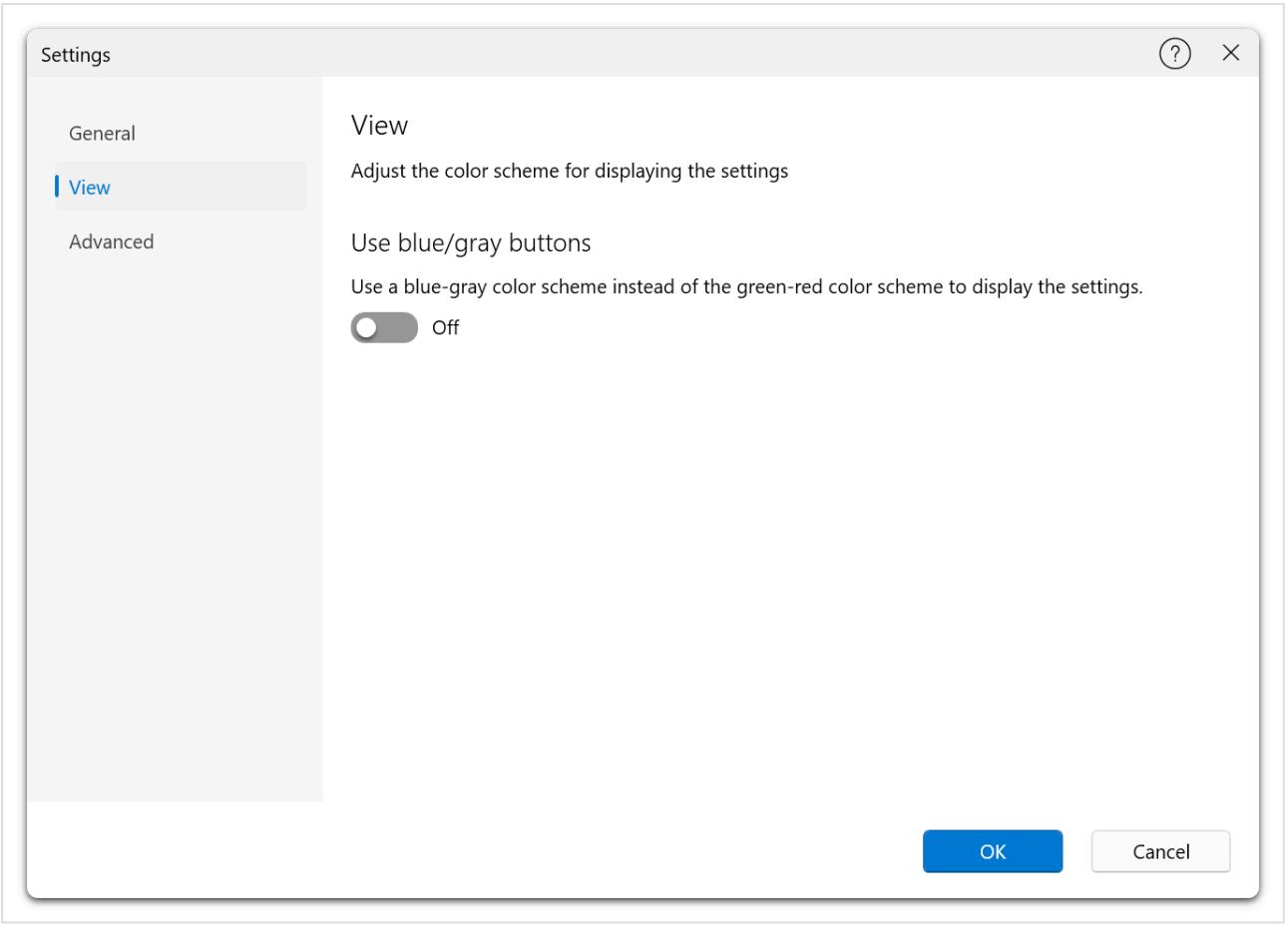
テーマの変更はすぐに反映されます。アプリの再起動は不要です。



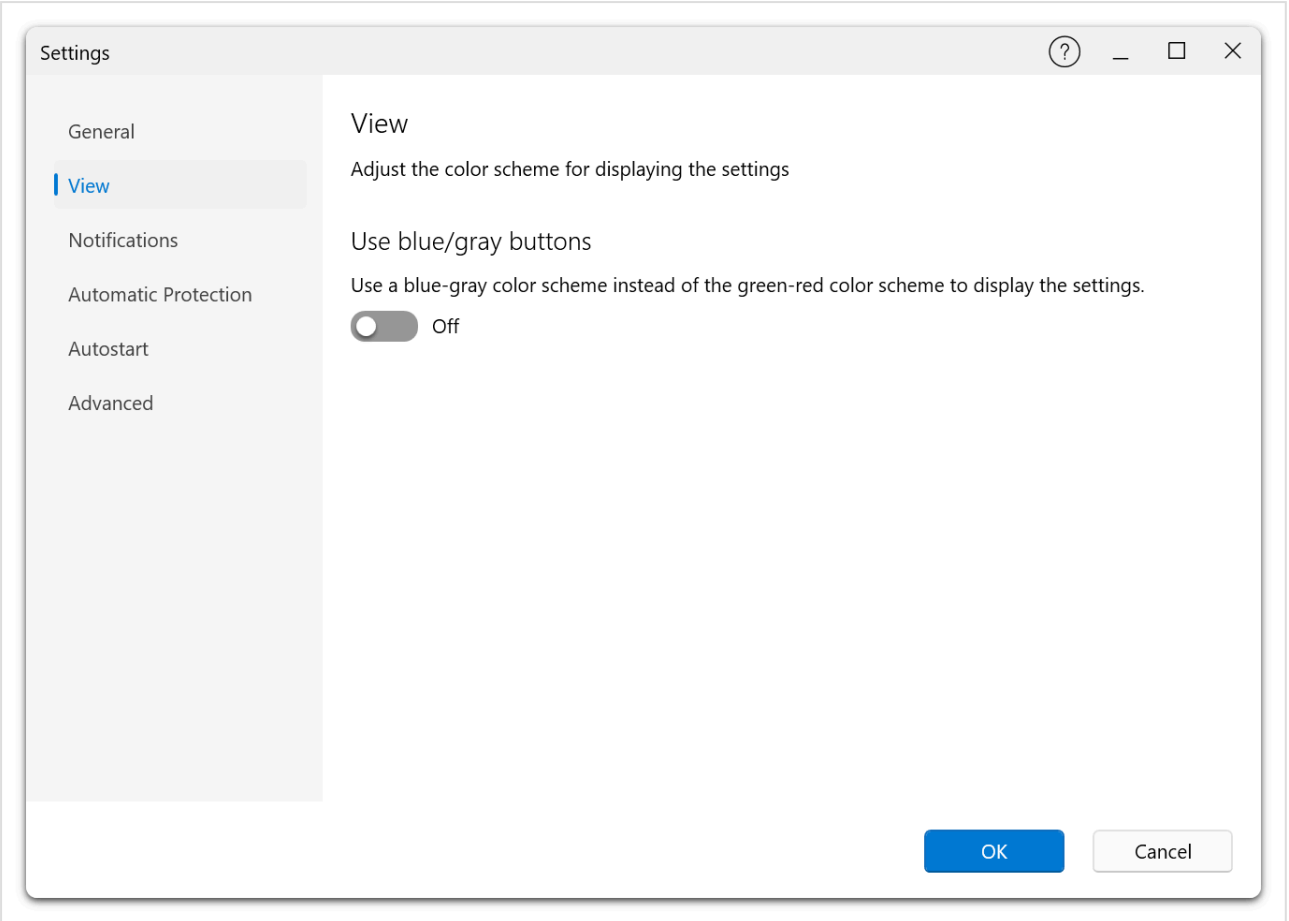
「眺め」タブ（設定一覧の表示）

設定一覧の配色を変更します。

Free Edition



Premium Edition



青やグレーのボタンを使いましょう

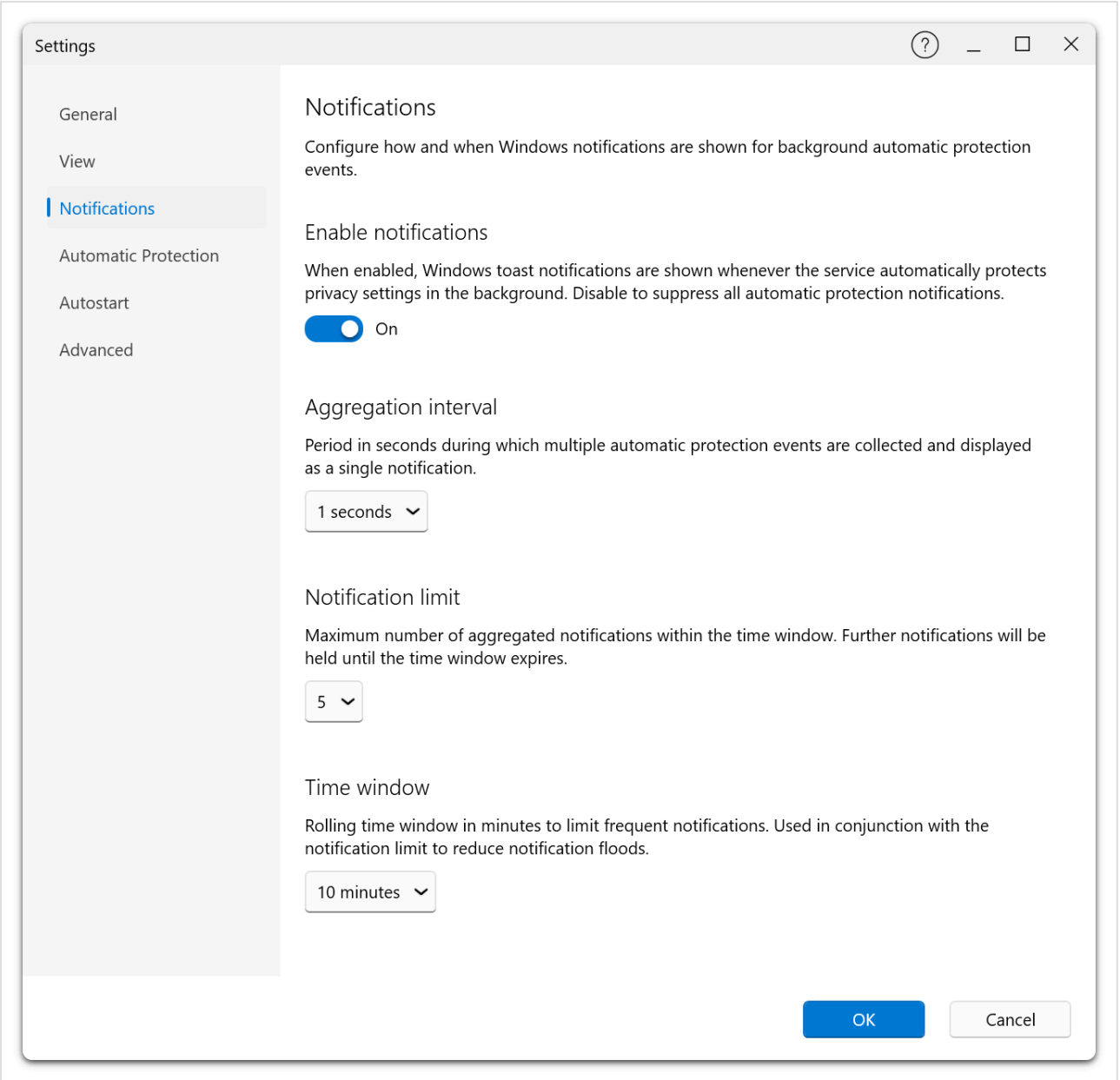
設定一覧のスイッチには次の 2 種類の配色があります。

- **緑／赤**（既定）— 緑はプライバシー保護が適用されている状態、赤は適用されていない状態です。
- **青／灰色** — 青と灰色を使用した配色です。

配色の変更はすぐに反映されます。

「通知」タブ Premium

自動保護がバックグラウンドで動作したときの Windows 通知を設定します。



このタブは Premium Edition 専用で、バックグラウンドサービスの実行が必要です。サービスを利用できない場合は警告が表示され、設定項目が無効になります。

通知を有効にする

有効にすると、サービスがプライバシー設定を自動保護したときに Windows の通知が表示されます。無効にすると、自動保護に関する通知をすべて非表示にします。

集約間隔

複数のイベントを一つの通知にまとめるために待機する秒数です。1、2、5、10、15、30、60、120 秒から選べます。

通知制限

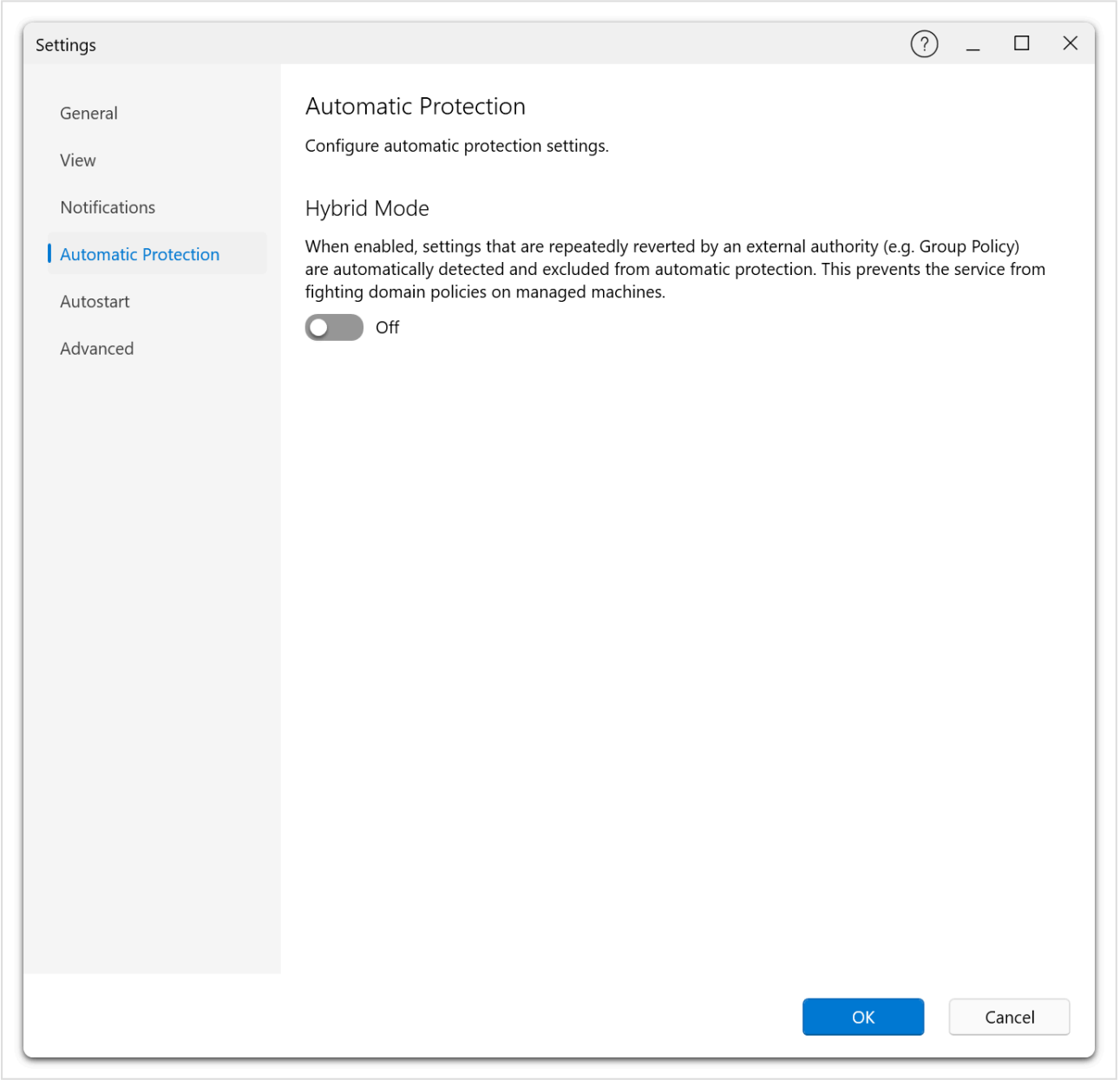
指定した期間に表示できる通知の最大件数です。上限に達すると、それ以降の通知を抑制します。1、2、3、5、10、15、20 件から選べます。

タイムウィンドウ

上限を判定する際に、現在からさかのぼる時間を分単位で指定します。通知が集中したときの連続表示を防ぎます。1、2、5、10、15、30、60 分から選べます。

「自動保護」タブ Premium

バックグラウンドでの自動保護を設定します。



このタブは Premium Edition 専用で、バックグラウンドサービスの実行が必要です。

ハイブリッドモード

有効にすると、グループポリシーなど外部の管理機能が繰り返し元に戻す項目を検出し、自動保護から除外します。組織で管理されている PC でサービスとドメインポリシーが値を上書きし合うことを防ぎます。

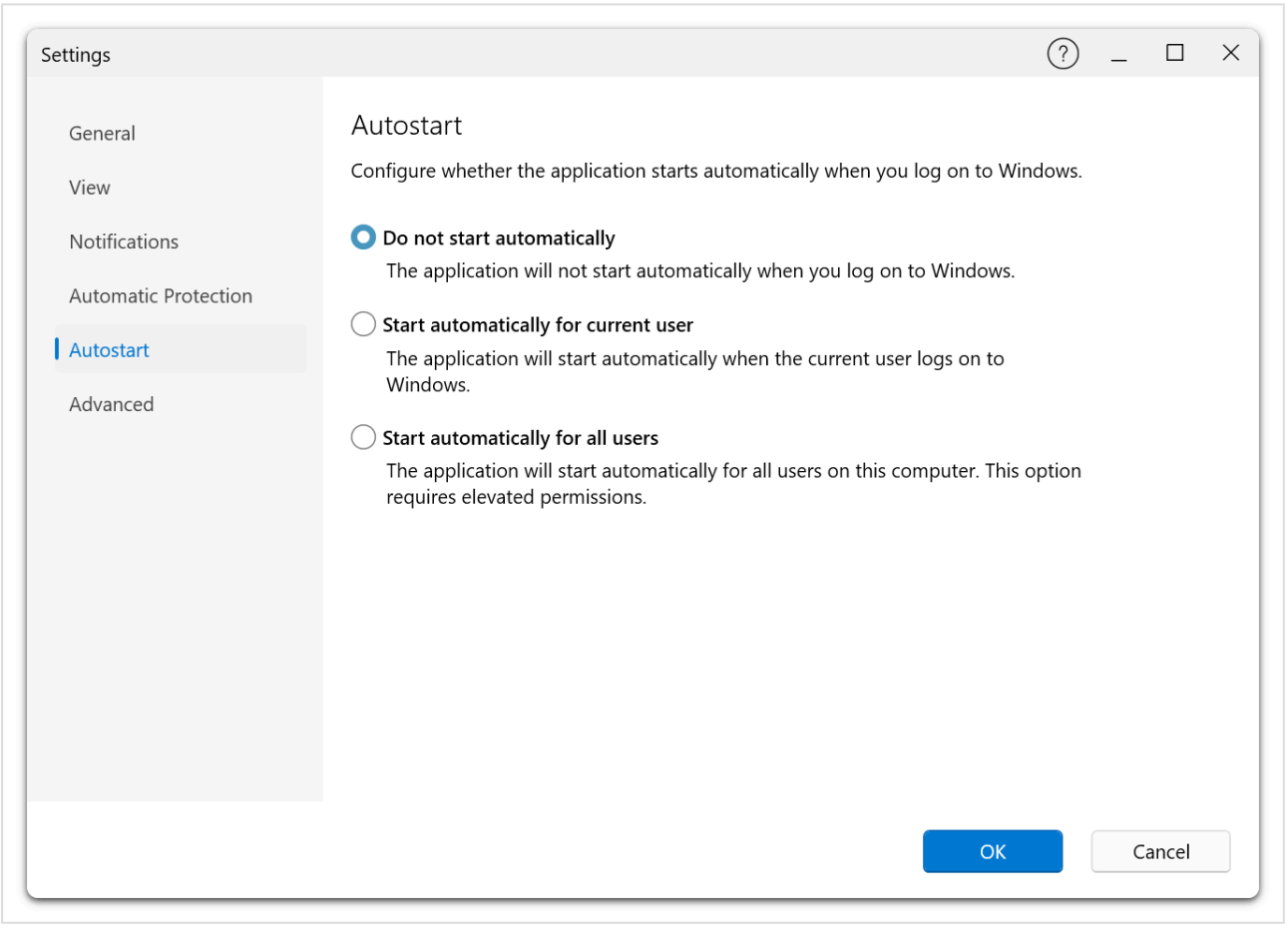
組織が一部のプライバシー設定をグループポリシーで管理し、その値を O&O ShutUp10 に上書きさせたくない場合に適しています。

設定のブロックを解除する

Windows やグループポリシーが繰り返し上書きしたために除外された項目は、**自動保護** タブの **すべてのブロックをリセットしてください** でブロックを解除できます。対象を確認して操作を確定してください。次の監視サイクルから保護が再開されます。上書きが続けば再びブロックされる場合があります。サービスが稼働している必要があります。

「自動スタート」タブ Premium

Windows へのサインイン時にアプリを自動起動するかどうかを指定します。



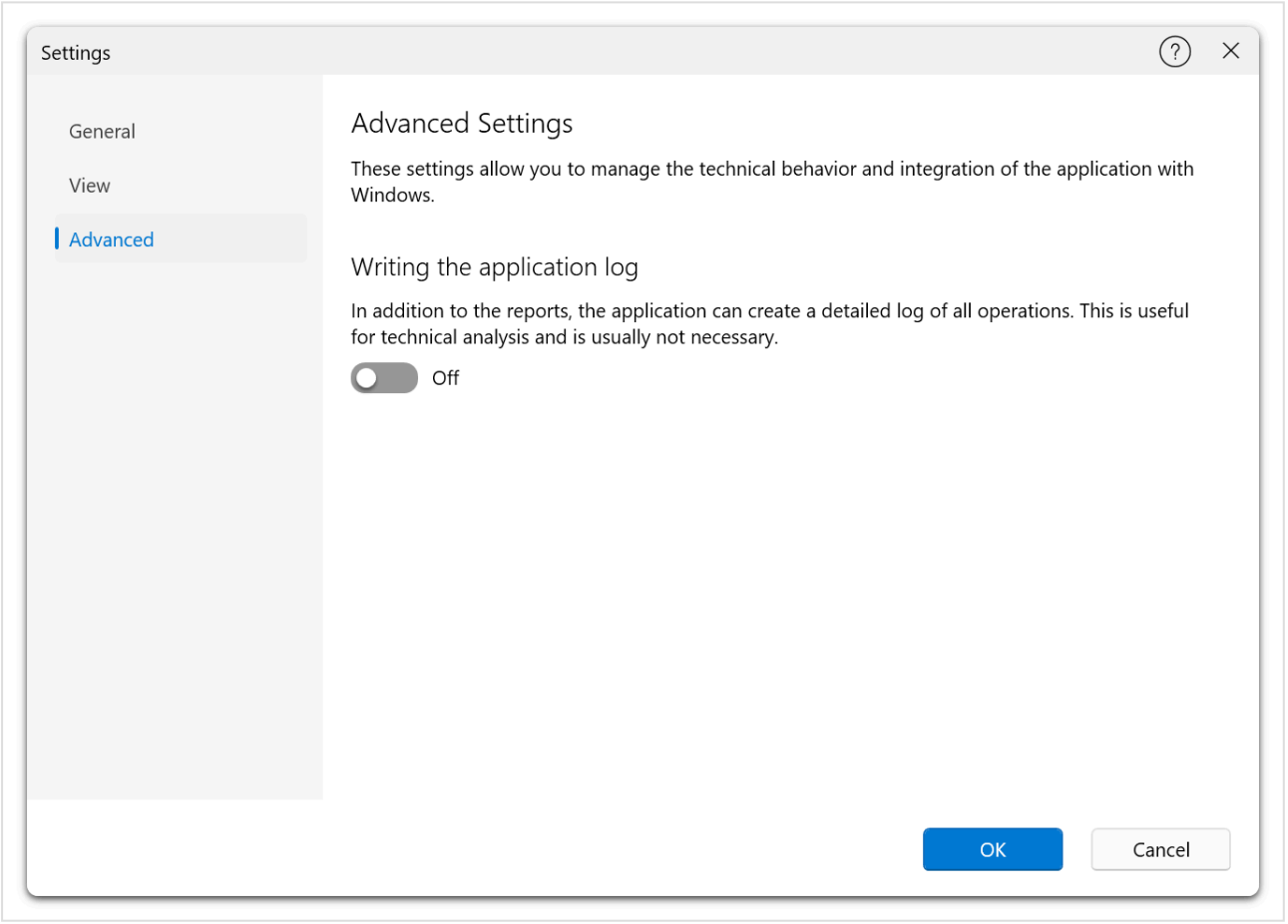
このタブは Premium Edition でのみ利用できます。

選択肢	動作
自動開始は禁止	Windows にサインインしてもアプリを起動しません。
現在のユーザーに対して自動的に起動	現在のユーザーが Windows にサインインすると起動します。
すべてのユーザーから自動的に開始	この PC のすべてのユーザーを対象に、サインイン時に起動します。設定には管理者権限が必要です。

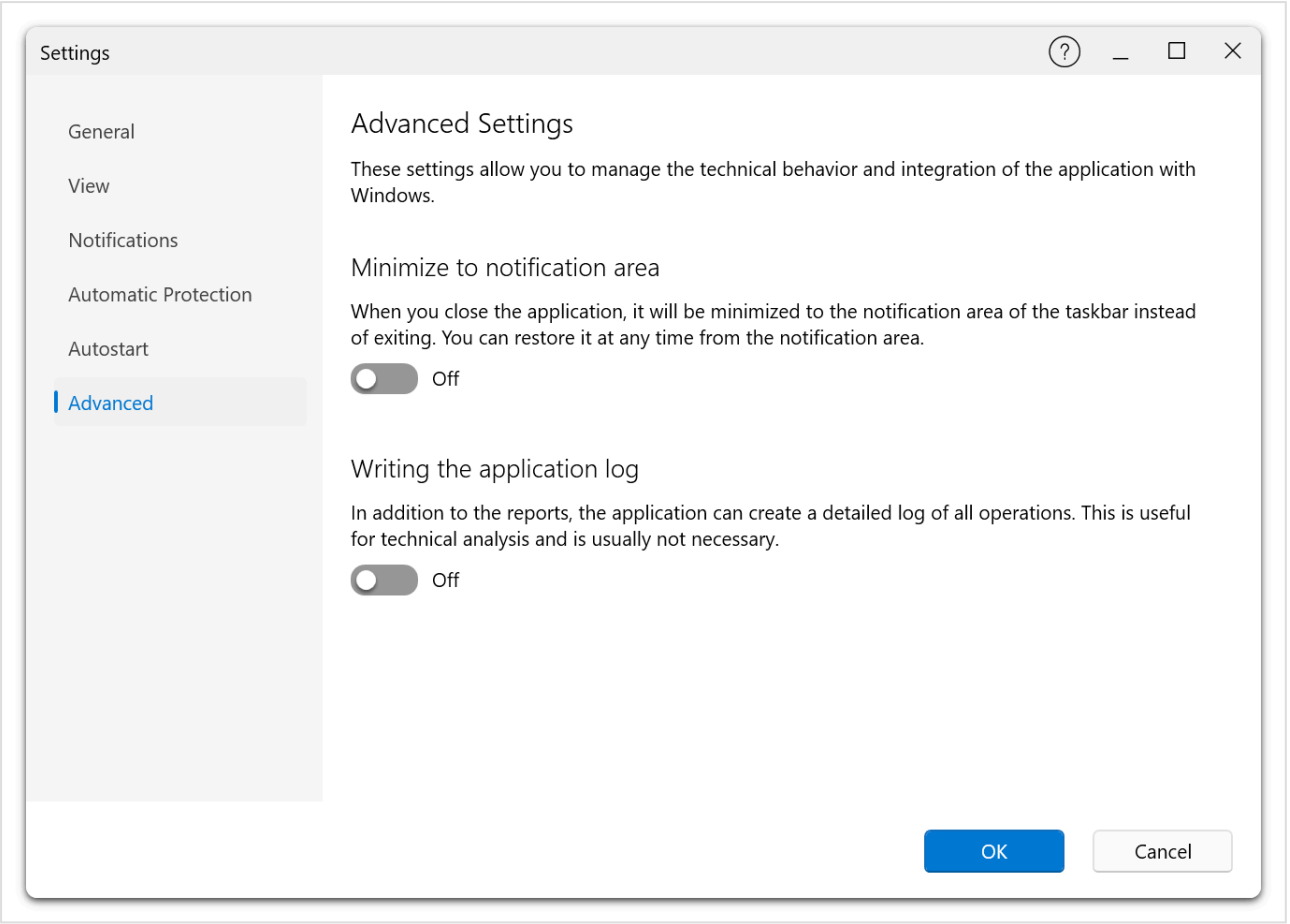
「アドバンスド」タブ

アプリの動作と Windows との連携を設定します。

Free Edition



Premium Edition



通知領域に最小化する Premium

有効にすると、ウィンドウを閉じても終了せず、通知領域（システムトレイ）に最小化されます。通知領域のアイコンからいつでもウィンドウを開けます。この機能は Premium Edition 専用です。

ログを有効にする

通常のレポートに加え、すべての操作の詳細なログを記録できます。技術的な分析や問題の調査に使用します。BlueCon と Fortress Mode 向けのビルドにはこの項目は表示されません。

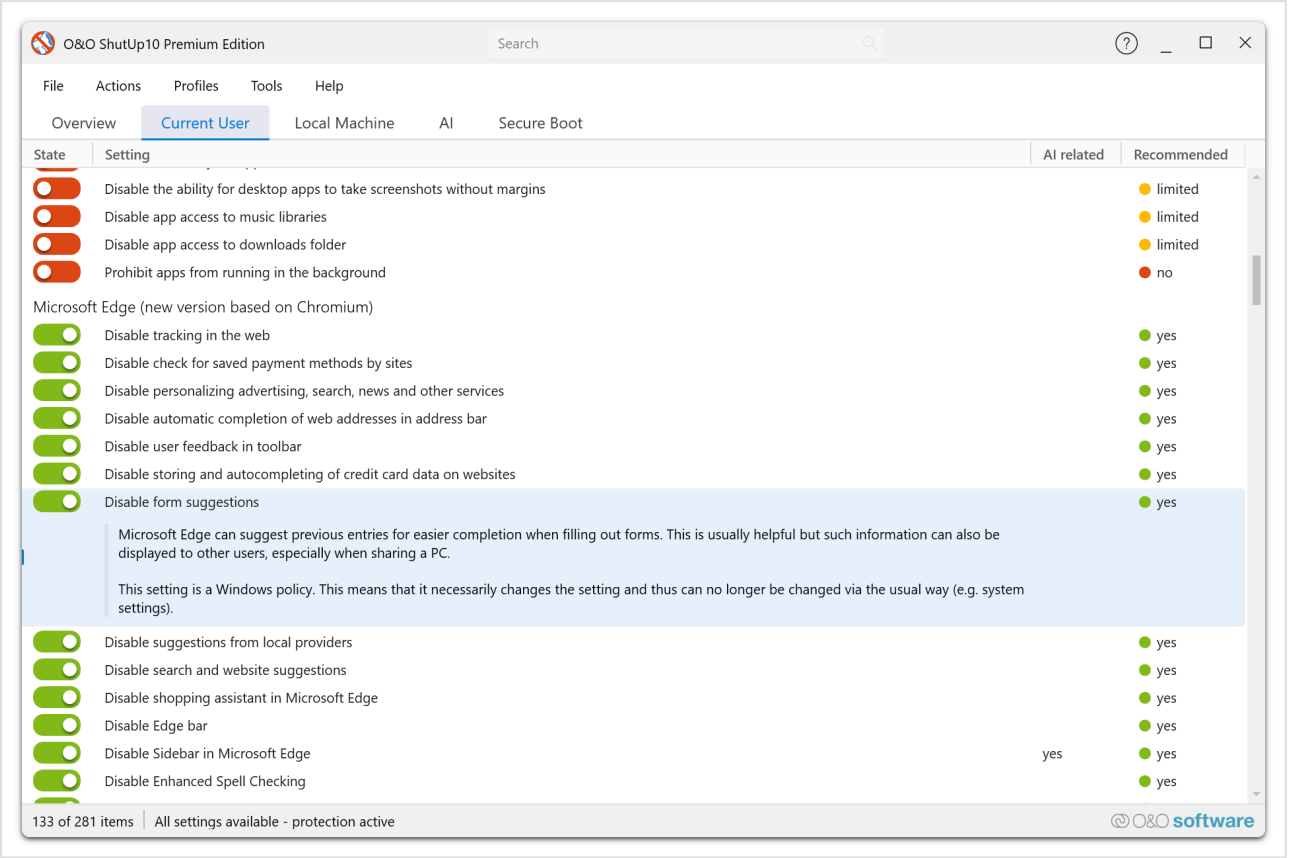
更新の確認

起動時に新しいバージョンを確認するかを指定します。有効にすると O&O Software の更新サーバーに接続し、更新があれば案内を表示します。

Free Edition の **ヘルプ(H) → 新バージョンをオンラインで確認(C)** はダウンロードページを開きます。**Premium Edition** の **ヘルプ(H) → 今すぐ更新を確認(N)** は内蔵の更新機能で確認し、結果を表示します。短時間に繰り返し確認できる回数には制限があります。管理者の構成や、オンライン確認を行わない特別版ではコマンドが非表示になる場合があります。

「情報」タブ

アプリのバージョンと製品情報を表示します。



エディション、ビルド番号、著作権情報、直近の更新確認の結果を確認できます。サポートへの問い合わせや互換性の確認にご利用ください。

プロファイルのファイル形式

Free Edition でエクスポートする設定と、Premium Edition の名前付きプロファイルは形式が異なります。エクスポートした形式に対応するコマンドで読み込んでください。拡張子を変えても内容は変換されません。

Free Edition の設定ファイル（.cfg）

ファイル(F) → 設定をエクスポート(E)... を選ぶと、設定 ID と状態がテキストファイルに保存されます。**ファイル(F) → 設定をインポート(I)...** は内容を読み込んで適用します。各行には ID、タブ、`+`（オン）または `-`（オフ）が並びます。その後にタブと説明文が付く場合もあります。読み込み時にはセミコロン区切りも使用でき、空行と `#` で始まる行は無視されます。

次の例は S003 をオン、M003 をオフにします。

```
# Example settings
S003;+
M003;-
```

別の PC のファイルを取り込む前に、各設定の内容と利用条件を確認してください。「オフ」は設定状態を示すもので、最初に変更する前の値を記録したものではありません。

Premium Edition の名前付きプロファイル（.pcfg）

プロフィール(P) → プロファイルのエクスポート(X)... でプロファイル管理を開き、対象のプロファイルを選んで **輸出** をクリックします。出力される `.pcfg` ファイルは、`CustomProfile` をルート要素とする XML です。

フィールド	意味
`Id`	XML 属性として保存されるプロファイル ID。インポート時に新しい ID が割り当てられます。
`Name` / `Note`	表示名と任意のメモ。
`CreatedDate` / `ModifiedDate`	作成日時と最終更新日時。
`IsDefault`	組み込みプロファイルかどうかを示します。インポートしたコピーはカスタムプロファイルになります。
`IsTemporary`	一時プロファイルのフラグ。エクスポート時とインポート時に解除されます。
`ApplicationMode`	`AddOnly` または `ReplaceAll`。
`Settings`	保存した設定の ID と状態。

XML を確認する際は、実際にエクスポートしたファイルを参照してください。INI ファイルは使用できません。設定 ID を `DisableTelemetry` のような説明用の名前に置き換えないでください。

プロフィール(P) → プロファイルのインポート(I)... はプロファイルを一覧に追加しますが、設定は適用しません。インポートのたびに新しい ID が割り当てられ、同じ名前があれば末尾に番号が付きます。名前は 64 文字、メモは 1,000 文字を超えると切り詰められます。適用するには **プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)...** でインポートしたプロファイルを選んでください。

適用モード

モード	動作
追加のみ	プロファイル中の項目は、現在の値と異なっていても指定の値に設定します。含まれない項目はそのままです。
すべて置換	プロファイルの値を適用します。現在適用中の有効な設定でプロファイルに含まれていないものはオフにします。

どちらのモードも Windows の既定値に戻すものではありません。組み込みプロファイルは「追加のみ」、カスタムプロファイルはどちらのモードも使用できます。以前の値や Windows の既定値に戻すには **行動(A) → 元に戻す(U)** から目的に合うコマンドを選びます。変更履歴をご覧ください。

プロファイルの共有と編集

Premium Edition の PC 間で設定を移すには、プロファイルをエクスポートして移行先でインポートします。移行先で変更できる項目は Windows の構成とアクセス権に依存します。変更には原則としてアプリのプロ

ファイル管理を使用してください。手動でファイルを編集する場合は、元のエクスポートを別に保管しておきます。

用語集

用語	意味
O&O ShutUp10 以外で行われた変更を受け入れる	Premium Edition の概要タブにあるスイッチ。オンにすると Windows や別のプログラムによる変更を自動で戻さず、プロファイルとの差異として表示します。
追加のみ	プロファイルに含まれる設定に指定の値を適用し、それ以外を変更しないモード。
AI 機能の削除	AI タブで Copilot と Recall の設定を無効にし、Copilot 関連アプリを削除し、保存済みの Recall データを完全消去する機能。
適用モード	プロファイルを適用する方式。「追加のみ」と「すべて置換」があります。
自動保護	Premium Edition の機能。サービスが設定を監視し、Windows の更新、ポリシー変更などで値が変わると指定の値を再適用します。
保留中の変更	編集モードで変更し、まだシステムに書き込んでいない設定。適用、破棄、またはプロファイルへの保存ができます。
組み込みプロファイル	Premium Edition に付属する読み取り専用の構成。推奨設定、仕事向け、ゲーム向け、家族向け、最大限のプライバシー保護などがあります。
クライアント	Premium Edition の操作画面。サービスと通信するため、操作するユーザーに管理者権限は不要です。
Copilot	Microsoft が Windows で提供する AI アシスタント。O&O ShutUp10 で無効化や関連アプリの削除ができます。
現在のユーザー	サインイン中のアカウントの設定（`HKEY_CURRENT_USER`）を表示するタブ。
プロファイルとの相違	Premium Edition で、現在値が使用中のプロファイルと異なる項目の一覧。分かる場合は変更元と検出時刻も表示します。
編集モード	変更をすぐに適用せずに保留し、確認してからまとめて反映できるモード。
工場出荷時設定	**行動(A) → 元に戻す(U) → すべての設定（「工場出荷時設定」）(A)** ですべてのプライバシー設定を Windows の既定値に戻す操作。
ハイブリッドモード	自動保護のオプション。ドメインのグループポリシーなど、外部で繰り返し上書きされる項目を保護から除外します。
初期設定	本製品を PC で初めて起動したときに記録した状態。**行動(A) → 元に戻す(U) → 初期設定に戻す(I)** で復元できます。

用語	意味
関連付けられた設定	「現在のユーザー」と「ローカルマシン」の両方にある項目。PC 全体の値を変えたとき、ユーザー側の値を合わせるか確認されます。
ローカルマシン	PC 全体の設定（`HKEY_LOCAL_MACHINE`）を表示するタブ。変更には管理者権限またはバックグラウンドサービスが必要です。
鍵マーク	組織の共通構成ファイルで強制されている設定です。この PC では読み取り専用です。
プロファイル	Premium Edition の名前付き設定集（`.pcfg` ファイル）。作成、複製、インポート、エクスポート、適用ができます。
Recall	Copilot+ PC で画面を定期的に保存し、過去の操作を検索できるようにする Windows の機能。O&O ShutUp10 で無効にしたり、データを消去したりできます。
推奨レベル	Windows 機能への影響に応じた各設定の分類。推奨、条件付き推奨、非推奨があります。
すべて置換	プロファイル内の設定を適用し、含まれない有効な設定はオフにするモード。
セキュアブート証明書	セキュアブートのタブで、Microsoft の現行の証明書が使われているか、更新が必要かを確認できます。
サービス	Premium Edition がインストールする Windows サービス。必要な権限で動作し、設定の適用や自動保護を行います。
セッション	O&O ShutUp10 の起動から終了までに行った変更のまとまり。変更履歴の 1 件に相当します。
設定 ID	M003 や L005 など、項目を識別する短いコード。設定ファイルや一覧の検索で使います。
設定ファイル	Free Edition がエクスポート・インポートする、設定 ID と状態を収めたテキストファイル（`.cfg`）。
システムの復元ポイント	Windows のシステム状態の記録。O&O ShutUp10 で変更前に作成でき、Windows の「システムの復元」で戻せます。
テレメトリ	Windows が Microsoft に送る診断データと使用状況データ。O&O ShutUp10 を使うと、使用中の Windows エディションで許される最小レベルに制限できます。
スイッチ	各項目の横にある切り替えボタン。既定の配色では緑が保護適用済み、赤が未適用です。
変更履歴	直近 10 セッションの記録。対象セッションとそれ以降を順に取り消し、各項目を変更前の値に戻せます。

トラブルシューティング

該当する症状を選んで、原因と対処方法を確認してください。一般的な質問はよくある質問、変更の取り消しは変更履歴をご覧ください。

設定が何度も元に戻る

原因：Windows Update、グループポリシー、Windows のスケジュールされたタスク、または別のプライバシーツールが同じ設定を書き換えています。**BingによるWindows検索の拡張機能を無効にする**（M003）などの項目は、検索インデクサーの起動時などに Windows 自体が元に戻すこともあります。

対処方法

1. Windows の大型更新後に O&O ShutUp10 を起動し、設定を再適用します。元に戻った項目はスイッチが赤色になります。
2. Free Edition では設定、Premium Edition ではプロファイルをエクスポートしておくと、すぐに読み込めます。プロファイルとエクスポートをご覧ください。
3. 別のプライバシーツールでも同じ設定を管理している場合は、どちらで管理するかを決め、もう一方の対応するオプションを無効にしてください。別のツールで設定がオフと表示されるをご覧ください。
4. Premium Edition の自動保護は、変更された値をバックグラウンドで再適用します。頻繁に元に戻る項目は一時的に対象外になります。自動保護で設定がブロックされたをご覧ください。

別のプライバシーツールで設定がオフと表示される

原因：同じ動作を指定する設定値が Windows に複数ある場合があります。各ツールは、自身が指定する値と一致する場合にだけオンと表示します。O&O ShutUp10 が値を書き込むともう一方のツールが変更を検出し、その逆も起こります。

対処方法

1. その設定を管理するツールを一つ選んでください。
2. もう一方のツールでは、対応する項目またはその監視を無効にします。
3. 両方のツールで交互に設定を切り替えないでください。双方が値を保護していると、互いに上書きし続けます。

設定がグレー表示される、または利用できない

原因：設定が別の Windows バージョンやエディション向けか、対象の機能がインストールされていません。グループポリシーを必要とする設定は Windows Home では利用できず、Microsoft Office の設定には Office が必要です。

対処方法：作業は不要です。O&O ShutUp10 は使用中の Windows に存在する設定だけを対象にします。利用条件、権限、書き込み結果をご覧ください。

設定に鍵マークが付いている

原因：組織の共通構成ファイルが設定を強制しています。この PC では読み取り専用です。

対処方法：構成を管理する管理者にご相談ください。ローカルでは変更できません。

設定の適用後に Windows の機能が使えなくなった

原因：別の機能が依存する Windows の機能を無効にした可能性があります。特に **おすすめしません** の項目は、Windows Update の配信、Windows Defender のデータ共有、ライセンス認証などに影響することがあります。

対処方法

1. 使えなくなった機能（スタートメニューの検索、特定のアプリ、Windows Update など）を特定します。
2. O&O ShutUp10 で該当するカテゴリーの設定を確認します。
3. **行動(A) → 元に戻す(U)** で該当するセッションを取り消すか、原因と考えられる項目を調整します。スイッチをオフにするだけでは、以前の値に戻るとは限りません。変更履歴をご覧ください。
4. 原因の設定が分からない場合は、**行動(A) → 元に戻す(U) → すべての設定（「工場出荷時設定」）(A)** を選び、カテゴリーごとに設定を適用し直してください。
5. それでも解決しない場合は、Windows の「システムの復元」で変更前に作成した復元ポイントに戻します。

AI タブで実行した AI アプリの削除と Recall データの完全消去は、O&O ShutUp10 では取り消せません。

「ローカルマシン」タブの設定を変更できない

原因：PC 全体の設定は `HKEY_LOCAL_MACHINE` に保存され、書き込みには管理者権限が必要です。Free Edition は既定で標準ユーザーとして起動します。

対処方法：**ローカルマシン** タブで **管理者として再起動する** をクリックし、ユーザーアカウント制御の確認に同意してください。Premium Edition ではサービスが書き込み権限を提供します。変更できない場合はサービスの稼働状況を確認してください。

Windows に「一部の設定は組織によって管理されています」と表示される

原因：O&O ShutUp10 が以前書き込んだポリシーのキーが、値が空になった後もレジストリに残っています。

対処方法：**行動(A) → 元に戻す(U) → すべての設定（「工場出荷時設定」）(A)** を選びます。リセット時には、空のポリシーサブキーも削除されます。この操作もセッションとして記録されるため、取り消せます。変更履歴

をご覧ください。

Windows Insider Program に関する通知が表示される

原因：PC が Windows Insider Program に登録されており、一部の診断データの設定が参加条件と競合しています。

対処方法：通知に表示された説明を確認してください。通知から、競合するプライバシー設定を無効にできます。

バックグラウンドサービスを利用できない（Premium Edition）

原因：O&O ShutUp10 のサービスが停止しているか、接続できません。自動保護と、設定ダイアログの **通知** タブおよび **自動保護** タブには、稼働中のサービスが必要です。

対処方法

1. Windows の「サービス」（`services.msc`）で状態を確認するか、管理者にお問い合わせください。
2. サービスを起動してください。設定の再適用は、サービスの実行中にのみ行われます。
3. 一時的に接続が途切れても初期設定をやり直す必要はありません。自動保護の切り替え時にサービスが処理中であれば、クライアントは再試行します。保存済みの状態はサービスから確認が返って初めて変わります。

自動保護で設定がブロックされた（Premium Edition）

原因：Windows またはグループポリシーが同じ設定を繰り返し元に戻しました。ハイブリッドモードでは他の管理機能との上書きの繰り返しを防ぐため、このような項目を自動保護の対象から外します。

対処方法：**ツール(T) → 設定(S)... → 自動保護** を開き、**すべてのブロックをリセットしてください** をクリックします。対象項目を確認して操作を確定してください。次の監視サイクルから保護が再開されます。値が繰り返し上書きされる場合は再びブロックされることがあります。設定ダイアログをご覧ください。

ダウンロードしたファイルが以前より大きい

原因：Free Edition は必要なランタイムをすべて実行ファイルに同梱しています。そのため、ファイルサイズは従来の約 4 MB から約 76 MB になりました。

対処方法：作業は不要です。機能は従来と同じです。ファイルサイズをご覧ください。

サポートへの問い合わせに必要な情報を集める

1. **ツール(T) → 設定(S)... → 情報** を開き、バージョンとエディションを控えます。
2. **アドバンスド** タブで **ログを有効にする** を選び、問題を再現してログを保存します。

3. O&O Software サポートにお問い合わせください。

よくある質問

Windows 10 と Windows 11 で O&O ShutUp10 を使ってプライバシーを管理する際の主な質問と回答です。

基本事項

O&O ShutUp10 とは何ですか？

O&O Software GmbH が開発した、Windows 10 と Windows 11 向けのプライバシー管理ツールです。
Windows の「設定」、グループポリシー、レジストリに分散した約 300 項目を一つの画面にまとめています。
専門知識がなくても、テレメトリ、追跡、データ共有のうち何を無効にするか選べます。

製品の概要ははじめにをご覧ください。

O&O ShutUp10 は無償ですか？

はい。**Free Edition** は個人・商用を問わず無償です。インストールは不要で、ダウンロードした実行ファイルを直接起動できます。

Premium Edition は業務・企業向けの有償製品です。クライアントとサービスで構成され、バックグラウンドでの自動保護などの機能を利用できます。

Windows 10 と Windows 11 の両方で使えますか？

はい。Microsoft が追加したプライバシー関連の項目に対応するため、O&O ShutUp10 は定期的に更新されています。特定の Windows バージョン専用の設定は、そのバージョンでのみ表示されます。

安全に使用できますか？ システムに影響しますか？

本製品はレジストリやポリシーを通じて Windows の設定を変更します。Windows の機能やアプリに影響することがあるため、適用前に各項目の説明と推奨レベルを確認してください。

記録した設定変更は変更履歴から取り消せます。初回起動時の状態や Windows の既定値に戻すこともできます。ただし、AI タブでのアプリ削除と Recall データの完全消去は対象外です。削除したアプリを本製品で再インストールしたり、完全消去したデータを復元したりすることはできません。

> **警告**
>
> 特に **おすすめしません** の項目を適用すると、システムの機能に影響することがあります。スイッチを切り替える前に、説明と推奨レベルを確認してください。

インストールとシステム要件

インストールは必要ですか？

Free Edition はインストールもサービスも不要ですが、環境設定と変更記録を構成ファイルに保存します。実行ファイルと同じフォルダーに既存の構成ファイルがあればそれを使用し、なければ LocalAppData 配下の製品フォルダーを使用します。ログやエクスポートしたファイルはアプリの終了後も残る場合があります。

Premium Edition はインストールが必要です。Windows にサービスを登録し、クライアントと連携してバックグラウンドで設定を自動保護します。

管理者権限は必要ですか？

現在のユーザーの設定なら Free Edition でも標準ユーザーで変更できます。PC 全体のレジストリやポリシーを変更するには昇格が必要です。**ローカルマシン** タブに説明が表示されたら **管理者として再起動する** を選んでください。Premium Edition では必要な権限を持つサービスが動作するため、クライアントを昇格せずに PC 全体の値を変更できます。

基本操作

スイッチの色は何を表しますか？

既定の配色では、スイッチは次の状態を表します。

色	意味
緑（オン）	表示されている**プライバシー保護が有効**です。「無効にする」と記された Windows 機能は停止しています。
赤（オフ）	その保護設定は未適用です。変更前の値や Windows の既定値に戻っているとは限りません。

色と設定名を合わせて確認してください。記録されている以前の状態を復元するには「元に戻す」を使用します。**ツール(T) → 設定(S)...** で青／灰色の配色にも切り替えられます。

ユーザーと PC 全体の両方に同じ設定がある場合、どちらが優先されますか？ 値は同期されますか？

一部の設定は **現在のユーザー** と **ローカルマシン** の両タブにあります。Windows がユーザー単位と PC 全体に別々の値を保存しているためです。

- **優先順位**：通常は Windows ポリシーの一般的な動作と同様に、**ローカルマシン（PC 全体）の値がユーザーの値に優先します**。
- **同期**：2 つの値は別々に保存され、PC 全体の変更だけでユーザー側が**自動的に書き換わることはありません**。関連するユーザー側の値が異なる場合は **リンクされたシステム/ユーザー設定** の確認画面が表示されます。同意すれば値を合わせ、断れば個別の値を保持します。後者の場合も通常は PC 全体の値が優先されます。

詳しくは現在のユーザーとローカルマシンの適用範囲をご覧ください。

推奨レベルにはどんな意味がありますか？ どの設定を適用すればよいですか？

各設定には次の推奨レベルが付いています。

レベル	内容
推奨	多くのユーザーに適しています。無効にしても Windows の基本機能には通常影響しません。
限定的	通常は安全ですが、Cortana やアクティビティ履歴など、個人用設定や便利機能に影響する場合があります。
おすすめしません	Windows Update の配信、Windows Defender、ライセンス認証などの重要な機能に影響する場合があります。結果を理解した場合にのみ適用してください。

> **ヒント**
>
> 迷った場合は、まず **推奨** の項目だけを適用してください。個々の項目は後から見直せます。

各カテゴリーの説明はプライバシー設定の概要をご覧ください。

推奨設定をまとめて適用できますか？

はい。**行動(A)** メニューから、**推奨項目のみ**、**推奨と限定的な推奨の項目**、または推奨レベルを問わず全項目をまとめて適用できます。

プロファイルとは何ですか？ どう使いますか？

現在のスイッチの状態をファイルに保存し、後で読み込むための仕組みです。たとえば、次の用途に使えます。

- **バックアップ** — 変更前に希望の設定を保存します。
- **共有** — 複数の PC で同じ構成を再利用します。
- **再適用** — Windows の更新で設定が元に戻った後、希望の状態に戻します。

Free Edition は **ファイル(F) → 設定をエクスポート(E)...** と **ファイル(F) → 設定をインポート(I)...** で `.cfg` 設定ファイルを扱います。Premium Edition は **プロフィール(P) → プロファイルのエクスポート(X)...** と **プロフィール(P) → プロファイルのインポート(I)...** で名前付き `.pcfg` プロファイルを扱います。インポートでは一覧に追加するだけです。**プロフィール(P) → プロファイルの管理(M)...** で選んで適用してください。

詳しくはプロファイルとエクスポートをご覧ください。

推奨レベルとプロファイル

「推奨」「限定的」「おすすめしません」はどう違いますか？

Windows の機能を無効にした場合に予想される影響を示します。

- **推奨** — 多くのユーザーに不要なテレメトリや追跡を無効にします。通常は日常の操作に目立った影響を与えず、プライバシーを強化できます。
- **限定的** — Cortana、Web 検索との連携、アクティビティ履歴の同期など、利用している人もいる機能を無効にします。通常は安全ですが、これまでの使い方を変える必要が生じる場合があります。
- **おすすめしません** — Windows Update のピアツーピア配信、Defender のテレメトリ、ライセンス認証など、安定性や安全性に関わる項目です。目的が明確で影響を理解しているときだけ適用してください。

「おすすめしません」の設定を適用すると PC が壊れますか？

PC に恒久的な損傷を与えるものではありませんが、たとえば次のような問題が起こる場合があります。

- **Windows Update の問題** — 配信の最適化を無効にすると、ダウンロードが遅くなったり、更新を取得できなかったりする場合があります。
- **保護機能の低下** — Defender のサンプル送信や SpyNet への参加を無効にすると、リアルタイムの脅威検出の効果が低下する場合があります。
- **ライセンス認証の失敗** — ボリュームライセンス環境では、KMS オンライン認証を無効にすると Windows のライセンス認証に失敗することがあります。

問題があれば **行動(A) → 元に戻す(U)** で記録済みの値に戻すか、該当する設定を調整してください。変更履歴をご覧ください。この操作では AI アプリの削除や Recall データの完全消去は取り消せません。

変更の取り消しと既定値への復元

O&O ShutUp10 で行った変更を取り消すには？

目的に応じて次の方法を選べます。

1. **個別に調整する** — 希望の状態にスイッチを切り替えます。オフにするだけでは記録済みの元の値に戻るとは限りません。
2. **直前のセッションを取り消す** — **行動(A) → 元に戻す(U)** の先頭の項目を選ぶと、該当セッションの変更をすべて元に戻せます。変更履歴をご覧ください。
3. **複数のセッションを取り消す** — **行動(A) → 元に戻す(U) → 履歴(H)...** で直近 10 セッションを確認し、選んだセッションまでさかのぼって取り消せます。
4. **初回起動時の状態に戻す** — **行動(A) → 元に戻す(U) → 初期設定に戻す(I)** を選ぶと、初めてこの PC で O&O ShutUp10 を起動したときの値を復元します。
5. **Windows の既定値に戻す** — **行動(A) → 元に戻す(U) → すべての設定（「工場出荷時設定」）(A)** を選ぶと、すべての項目が Windows の既定値に戻ります。
6. **保存済みの構成を使用する** — Free Edition では設定ファイルをインポートし、Premium Edition ではプロファイルをインポートして適用します。結果は保存内容と、Premium Edition では適用モードにも依存します。
7. **システムの復元** — 変更前に復元ポイントを作成していれば、Windows の「システムの復元」でシステム全体を以前の状態に戻せます。本製品は変更前に復元ポイントの作成を提案することがあります。

システムの復元ポイントは自動で作成されますか？

最初に設定を適用するとき、変更前に復元ポイントを作成するか確認されます。Windows の「システムの復元」で広範な変更を取り消せるため、作成をお勧めします。**今後このメッセージを表示しない** を選ぶと次回以降の確認を省略できます。**はい** または **OK** のどちらで確定した場合も選択が保存されます。Windows で復元ポイントの作成が無効になっている場合の通知にも適用されます。

Windows の更新と互換性

Windows Update で設定が元に戻ることはありますか？

はい。Windows 10 22H2 から Windows 11 23H2 への移行や年次の機能更新などでは、変更した項目の一部またはすべてがリセットされることがあります。テレメトリや追跡の設定も Windows の既定値に戻る場合があります。

大型更新後の確認手順

1. O&O ShutUp10 を起動し、設定を確認します。既定の配色では元に戻ったスイッチは赤色になります。
2. 希望の値を手動で再適用するか、以前に保存した構成を読み込んで適用します。
3. **Premium Edition** では、自動保護が有効でサービスが動作している場合、対象の値が元に戻ったことを検出して再適用します。

Windows Update と併用できますか？

はい。本製品を実行するだけでは Windows Update の仕組みは変わりません。対象の設定を変更しなければ、セキュリティ更新、累積更新、ドライバー更新は従来どおり取得してインストールできます。

ピアツーピアの更新配信や**オプション更新／プレビュー更新**を無効にした場合は、該当機能の動作が変わります。「推奨」に分類された設定は重要なセキュリティ更新を停止しません。

Windows Defender とセキュリティ

Windows Defender は無効になりますか？

既定では Windows Defender 自体は**無効になりません**。主な対象は、クラウド分析のためのファイルサンプル送信や Microsoft SpyNet への参加などの**データ共有**です。

データ共有を制限すると Microsoft に送る情報は減りますが、クラウドによる脅威検出の効果が低下する場合があります。この共有設定だけで、ウイルス対策エンジン、リアルタイム保護、ローカルの定義ファイルによるスキャンが停止することはありません。

> **警告**
>
> 定期的に更新される代替のウイルス対策製品をインストールして有効にしていない限り、Windows Defender 自体を無効にしないでください。

他社のウイルス対策ソフトと併用できますか？

はい。本製品は Windows のプライバシー設定を管理するため、他社のウイルス対策製品と併用できます。別製品のインストールによって Defender のウイルス対策が自動で無効になる場合があります。データ共有を変更する前に、現在どの製品が保護を担当しているか確認してください。

Windows のプライバシー設定

Windows のテレメトリとは何ですか？

Windows が収集して Microsoft に送信する診断データと使用状況データを指します。次のような情報が含まれる場合があります。

- **ハードウェアとソフトウェアの構成** — デバイス、インストールされているアプリやドライバーの情報。
- **使用状況** — Windows の機能、アプリ、サービスの使い方。
- **クラッシュレポートとエラーログ** — アプリやシステムの障害情報。個人情報が含まれるメモリダンプを伴うこともあります。
- **閲覧・検索データ** — スタートメニュー、Cortana、Edge に入力した検索語句など。

Microsoft は製品の改善や利用者に合わせた機能の提供にこれらのデータを使います。プライバシー、法令対応、セキュリティの観点から、データ収集をできるだけ減らしたい場合があります。

O&O ShutUp10 ではテレメトリの項目を個別に調整できます。**推奨** の項目を適用すると、通常のシステム機能を損なわずにデータの収集量を抑えられます。

詳しくはテレメトリの制御をご覧ください。

Windows 10 と Windows 11 のプライバシー設定にはどのような違いがありますか？

Windows 11 では、プライバシーに関係する機能が追加・拡張されました。たとえば次のようなものがあります。

- **ウィジェットとニュースフィード** — ウィジェットパネルは Microsoft のサーバーと通信します。本製品で無効にできます。
- **Microsoft Copilot** — AI アシスタントには独自のデータ収集があります。Copilot とそのキーボードショートカットを無効にする設定があります。
- **テレメトリの拡張** — Windows 11 で追加された一部のテレメトリ項目にも対応しています。
- **スナップレイアウトとデスクトップの整理** — 新しい画面機能に伴うテレメトリの一部を制御できます。
- **スマートフォン連携** — モバイルデバイスとの連携が強化され、プライバシーに関わる設定も増えています。

使用中の Windows のバージョンを自動判別し、該当する項目だけを表示します。Windows 11 専用の項目は Windows 10 に表示されず、その逆も同様です。

位置情報サービスを無効にするとどうなりますか？

Windows とアプリは、GPS、Wi-Fi 測位、センサーを使って Windows の位置情報サービスから現在地を取得できなくなります。次のような影響があります。

- **天気アプリ**は現在地を自動取得できなくなります。地域を手動で指定することはできます。
- **地図やナビゲーション**で現在地を特定できなくなります。
- **デバイスの検索**が使えなくなります。
- Cortana などの**場所に応じたリマインダー**が動作しなくなります。
- センサーへのアクセスも無効にした場合、タブレットの**画面の自動回転**に影響することがあります。

位置情報を使用しないデスクトップ PC では、多くの場合、実用上の影響はありません。タブレットやノート PC で GPS などを利用している場合は、位置情報を有効のままにすることを検討してください。

個々の設定は位置情報サービスをご覧ください。

Cortana とスタートメニューの Web 検索は無効にした方がよいですか？

無効にすると、スタートメニューに入力した語句が Microsoft の Bing サーバーに送られず、インストール済みアプリ、ファイル、設定などのローカル検索結果のみが表示されます。

よく使用されるプライバシー設定の一つで、推奨レベルは **推奨** です。ローカルの項目を素早く探したいときに適しており、スタートメニューでの検索語句を Microsoft に送信せずに済みます。

関連する設定はCortana と検索をご覧ください。

トラブルシューティング

同じ設定が何度も元に戻ります。どうすればよいですか？

Windows の設定は次の理由で書き換えられることがあります。

- **Windows Update** — 機能更新や一部の累積更新により、プライバシー設定が既定値に戻る場合があります。
- **グループポリシー** — 企業などのドメイン参加環境では、ローカルの設定がポリシーで上書きされることがあります。
- **スケジュールされたタスク** — 一部の Windows タスクは、テレメトリ機能を定期的に再有効化します。
- **別のプライバシーツール** — 同じ Windows 設定に別の値を書き込む場合があります。次の質問をご覧ください。

対処方法

1. Windows の大型更新後は O&O ShutUp10 を起動し、希望の設定を再適用してください。
2. Free Edition では設定ファイル、Premium Edition ではプロファイルをエクスポートしておくと、後で素早く読み込めます。
3. **Premium Edition** では、自動保護が対象項目の変更を検出し、希望の値を再適用できます。

O&O ShutUp10 と別のプライバシーツールで、互いの設定がオフと表示されるのはなぜですか？

プライバシー、追跡防止、セキュリティの各ツールは、特にテレメトリで同じ Windows 設定を変更することがあります。Windows は同じ動作を複数の値で指定できることがありますが、各ツールは自身が想定する値と完全に一致した場合だけオンと表示します。

O&O ShutUp10 が値を書き込むと、もう一方のツールでは想定外の値になってオフと表示されます。そちらでオンにすると今度は別の値が書き込まれ、O&O ShutUp10 の表示がオフになります。

テレメトリの例：Windows Home と Pro では完全に停止できず、最小レベルは「必須の診断データ」です。O&O ShutUp10 が最も厳しい値を指定しても、この 2 つのエディションは「必須の診断データ」として扱います。別のツールが同レベルを直接指定すると書き込む値は異なります。実際の保護レベルが同じでも、互いに値の変更を検出します。

対処方法

1. その設定を管理するツールを一つ選んでください。
2. もう一方のツールでは、対応する項目またはその監視をオフにして、上書きの繰り返しを止めます。
3. 両方のツールで交互にオンにしないでください。Premium Edition の自動保護など、双方が値を維持する機能を備えていると、上書きと通知が繰り返されます。

項目が利用不可またはグレー表示になるのはなぜですか？

主に次の理由があります。

- **Windows のバージョン** — Windows 10 の PC で Windows 11 専用の項目を使用するなど、バージョンが合っていません。
- **エディションの制限** — Home では使えないグループポリシーを必要とするなど、Pro、Enterprise、Education などの特定のエディションに限られる場合があります。
- **対象機能が未インストール** — たとえば Office のない PC では Microsoft Office の設定は使えません。

これらは想定された動作であり、本製品の異常ではありません。

設定後に機能が正常に動作しなくなりました。どうすればよいですか？

1. **対象を確認する** — スタートメニューの検索、特定のアプリ、Windows Update など、使えなくなった機能を特定します。
2. **O&O ShutUp10 を開く** — 検索、Windows Update、セキュリティなど、該当するカテゴリーの設定を探します。
3. **変更を取り消す** — 変更履歴で関連する変更を取り消すか、原因と考えられる項目を調整します。単にオフにしても変更前の値に戻るとは限りません。
4. 問題が解決したか**動作を確認**します。
5. 原因が分からない場合は **行動(A) → 元に戻す(U) → すべての設定（「工場出荷時設定」）(A)** で Windows の既定値に戻し、カテゴリーごとに再適用して原因を絞り込みます。
6. 最後の手段として、Windows の**システムの復元**で変更前に作成した復元ポイントに戻します。

Windows 自体が元に戻す設定

設定を適用しても元に戻ることがあるのはなぜですか？

Windows の一部のコンポーネントは、ユーザーが操作しなくても特定のプライバシーやテレメトリの値を定期的に戻します。該当するレジストリキーを Windows が管理しているためで、O&O ShutUp10 の異常ではありません。

主にどのような項目が対象ですか？

たとえば、以下の設定があります。

- Bing による Windows 検索の拡張機能を無効にする（例：M003）
- Edge の既定のブラウザーに関する案内を無効にする（HKCU）
- Windows Update のピアツーピア配信を無効にする
- Cortana／検索での位置情報の利用を禁止する
- Windows のデスクトップ検索から Web 検索を除外する
- フィードバックの要求を無効にする
- Windows Media DRM のインターネットアクセスを無効にする

M003 が頻繁に元に戻るのはなぜですか？

- Windows Search のインデクサーが、サービスの起動時または復旧時にレジストリ値を戻す場合があります。
- エクスプローラーの動作やグループポリシーの更新によっても戻る場合があります。
- Windows の更新やスケジュールされたシステムタスクが原因となることもあります。

Premium Edition はどのように対処しますか？

自動保護は変更された対象設定を再適用します。短時間に値が繰り返し切り替わる場合は、過剰な書き込みや通知を避けるため、一時的に対象から除外することがあります。除外は通知され、アプリの設定から保護を再開できます。

Free Edition の場合

手動で再適用する必要があります。Windows が繰り返し戻す設定は、再適用するまで元に戻った状態になります。

企業での運用と応用

企業でも利用できますか？

はい。**Premium Edition** は企業での運用を想定しており、次の機能を備えています。

- **クライアントとサービスの分離** — 利用者の操作や管理者権限を必要とせず、サービスが設定を適用・維持します。
- **自動再適用** — Windows の更新やグループポリシーによる変更を検出し、保護対象の設定を再適用します。
- **共通構成の配布** — 管理者が標準のプロファイルを用意し、複数の端末で利用できます。

Free Edition も企業で使用できます。ただし PC 全体の設定を変更するには、端末ごとに管理者として手動操作が必要で、大規模な展開には手間がかかります。

コマンドラインやスクリプトで設定を配布できますか？

はい。保存済みの設定ファイル（`.cfg`）をコマンドラインから対話なしで適用できます。展開用スクリプト、ログオンスクリプト、管理ツールと組み合わせて複数の PC に適用できます。

グループポリシーとはどのように関係しますか？

O&O ShutUp10 はレジストリを介して設定します。グループポリシーも同じ値を使用する場合があります。

- **ローカルグループポリシー** — 同じレジストリ値であれば、O&O ShutUp10 が値を変更できる場合があります。ポリシーの更新で再び上書きされることもあります。
- **ドメイングループポリシー** — Active Directory で強制されたポリシーは通常優先され、O&O ShutUp10 の変更が上書きされる場合があります。

> **参考**
>
> 組織では、管理者と協力して O&O ShutUp10 の構成とグループポリシーを整合させ、競合を避けてください。

O&O ShutUp10 を使えば GDPR などのデータ保護規制に準拠できますか？

O&O ShutUp10 は実行中のデバイスでローカルに Windows の設定を変更するツールです。ユーザーの個人データを収集・保存・送信するためのものではありません。

Windows のテレメトリ、追跡、データ共有を制限することで、Microsoft に送られる個人データを減らし、**一般データ保護規則（GDPR）** や **CCPA** などへの対応の一環とすることができます。製品の利用だけで組織の準拠状況は決まりません。全体の評価はデータ保護責任者や法務担当者にご相談ください。

ここで解決しない場合の問い合わせ先は？

- **O&O Software サポート**：https://www.oo-software.com/en/support。サポートと O&O の関連製品もご覧ください。
- **O&O ShutUp10 製品ページ**：https://www.oo-software.com/en/shutup10
- **Microsoft のプライバシー情報**：https://privacy.microsoft.com
- **Windows のプライバシー設定に関する Microsoft の資料**：https://support.microsoft.com/en-us/windows/windows-privacy-settings

Premium Edition をご利用のお客様は、O&O Software のサポートポータルで優先サポートを受けられます。

サポートと O&O の関連製品

O&O ShutUp10 の開発元は O&O Software GmbH です。ここでは、サポート窓口、製品の更新方法、関連製品を紹介します。

サポート

- **O&O Software サポート**：https://www.oo-software.com/en/support
- **製品ページ**：https://www.oo-software.com/en/shutup10

Premium Edition をご利用のお客様は、O&O Software のサポートポータルで優先サポートを受けられます。

お問い合わせの前に、トラブルシューティングとよくある質問をご確認ください。

問い合わせに必要な情報

次の情報をお知らせください。

- **ツール(T) → 設定(S)... → 情報** に表示される O&O ShutUp10 のエディションとバージョン。
- Windows のバージョンとエディション。
- 問題が発生した設定名、表示されていれば ID（例：M003）、およびタブ名（**現在のユーザー** または **ローカルマシン**）。
- 実行した操作、実際の結果、期待した結果。
- Premium Edition の場合は、バックグラウンドサービスの稼働状況と、自動保護が有効かどうか。
- 問題を再現できる場合は、設定ダイアログの **アドバンスド** タブで **ログを有効にする** を選んでから再現し、ログを添付してください。詳しくは設定ダイアログをご覧ください。

エクスポートしたファイルやログには、コンピューター名やユーザー名が含まれる場合があります。送信前に内容を確認してください。

更新

- **Free Edition**：**ヘルプ(H) → 新バージョンをオンラインで確認(C)** を選ぶとダウンロードページが開きます。
- **Premium Edition**：**ヘルプ(H) → 今すぐ更新を確認(N)** を選ぶと、内蔵の更新機能が新しいバージョンの有無を確認し、結果を表示します。

起動時に更新を確認するかどうかは、設定ダイアログの **アドバンスド** タブで指定できます。更新の確認をご覧ください。

Microsoft の Windows プライバシー関連資料

- Microsoft のプライバシー情報
- Windows のプライバシー設定

O&O の関連製品

O&O ShutUp10 の AI タブには、O&O AppBuster のアプリ削除機能と O&O SafeErase のデータ完全消去機能が組み込まれています。O&O Software は、次の製品も提供しています。

製品	用途
O&O AppBuster	不要な Windows アプリの削除
O&O Defrag	PC やサーバーのストレージの最適化
O&O DiskImage	ドライブやシステム全体のバックアップと復元
O&O DiskRecovery	削除したファイルや、破損したファイルシステムからのデータ復旧
O&O SafeErase	ファイルや空き領域のデータを復元できないように完全消去
O&O Syspectr	PC やサーバーのリモート監視・管理

すべての製品は製品一覧でご覧いただけます。